

在学中保存

2019年度入学生 履修要覧

国際観光学部

Faculty of International Tourism Management

□ 国際観光学科



東洋大学

目次

建学の理念と教育方針	1	語学単位認定制度	79
建学の理念	2	語学学習の奨励について	80
はじめに	3	資格取得学生の顕彰制度について	81
掲示板案内	4	大学院開講科目先行履修制度	82
ToyoNet-G/ToyoNet-ACE/ToyoNet メール ..	5	国際交流・国際教育プログラム	83
学修にあたって	7	Toyo Global Leader (TGL) プログラム ..	84
カリキュラムの概要	8	海外留学・研修プログラム	86
卒業・学位	10	本学を休学して外国の大学等へ留学した場合の単位認定について ..	92
授業について	12	英語特別教育科目LEAPプログラム	93
試験・レポート	21	各種手続	95
成績	25	各種相談や事務取扱窓口について	96
その他	27	学籍情報	97
学則	29	休学および復学	100
国際観光学部規程	31	退学	102
教育課程表と履修方法について	33	除籍	104
教育研究上の目的（国際観光学部）	34	再入学	105
教育研究上の目的（国際観光学科）	35	その他の学籍異動	106
国際観光学科の教育方針	36	各種証明書	107
カリキュラムの特徴	38	納付金	109
コースの内容と特徴	40		
卒業要件	43		
年次別履修登録単位数制限	44		
履修上の注意	45		
カリキュラムマップ&履修コース	48		
教育課程表	49		
卒業論文	67		
諸資格について	69		
社会福祉主事	70		
国際観光学部 学生支援プログラム	71		
海外研修/学部長期留学プログラム	72		
テンブル大学ジャパンキャンパス学生交換プログラム ..	76		
東洋大学と東京外国語大学の単位互換制度について ..	77		
課外特別講座	78		

建学の理念と教育方針



建学の理念

◆◆ 建学の精神 ◆◆

「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」

◆◆ 東洋大学の教育理念 ◆◆

【自分の哲学を持つ】

多様な価値観を学習し理解するとともに、自己の哲学（人生観・世界観）を持つ人間を育成する。

【本質に迫って深く考える】

先入観や偏見にとらわれず、物事の本質に迫る仕方で、論理的・体系的に深く考える人間を育成する。

【主体的に社会の課題に取り組む】

社会の課題に自主的・主体的に取り組む、よき人間関係を築いていける人間を育成する。

◆◆ 東洋大学の心 ◆◆

【他者のために自己を磨く】

自分を磨くのは、人々のためにはたらくことができるようになるためであり、そのことを自覚して学業に励むのが東洋大学の心である。

【活動の中で奮闘する】

現実社会における活動の中にどこまでも前進してやまないのが、東洋大学の心である。

◆◆ 創立者 井上円了と東洋大学 ◆◆

東洋大学は、明治20（1887）年、哲学者・井上円了が創立した「私立哲学館」によってその歴史が始まりました。円了は幕末の安政5（1858）年、越後国長岡藩西組浦村（現在の新潟県長岡市浦）のお寺の長男として生まれ、明治14年、設立間もない東京大学文学部哲学科にただひとりの1年生として入学しました。勉学を通して「洋の東西を問わず、真理は哲学にあり」と確信します。当時のわが国は欧米文化至上主義の時代で、円了は西洋化に踊らされる日本を憂えていたと思われる。ここでいう哲学とは、「万物の原理を探り、その原理を定める学問」であり、それは観念的演繹的な哲学ではなく、事実と実証に基づく哲学であるという点が強調されました。

円了は創立前に「哲学はあらゆる事物の原理を定める学問であります。政治、法律はもとより科学や芸術まで、その根底には哲学がなくてはなりません」と述べています。この考えから明治20年「私立哲学館」という哲学専修の私立学校を創立しました。これが現在の東洋大学の前身にあたります。

円了が教育で目指した哲学は、いわゆる「哲学者」の養成ではなく、思想や精神を錬磨する術（すべ）であり、他に応用する能力も身につけなければならないものであると説いています。

哲学という言葉が初めて使われた明治時代から、哲学の欠如が問われている現在までの130年にわたり、東洋大学も激動の歴史を歩みながら、創立者井上円了の教育理念を継承してきました。

哲学館創立以降に、円了は「余資なく、優暇なき者」のために「社会教育」と「開かれた大学」を目指して活動を開始しました。その一つに、学校開設の翌年から『哲学館講義録』を発行して、通学できない者にも勉学の機会を与えました。

さらに、円了は30代から生涯続けることになる全国巡講を始めています。統計に残っている明治39年から大正7年までの13年間で、全国60市、2198町村において5291回の講演を行い、「社会教育」に力を入れました。明治の日本に新しい教育の扉を開こうとした円了の情熱がうかがえます。この心を引き継いで現在の東洋大学では「開かれた大学」を目指し、講師派遣事業や公開講座など、地域のみならず全国の人々に生涯学習の場を提供しています。

はじめに

本書の使用方法について説明します。

- ・この履修要覧は2019年度入学生に適用されるものです。
入学年度によって内容が異なりますので、自分の入学年度の履修要覧を使用してください。
- ・履修要覧には学生生活を送るうえで、とても重要な事項が記載されていますので、十分に確認してください。
- ・履修要覧は、卒業時まで使用します。万一紛失した場合でも、再配付はしませんので、大切に保管してください。
なお、履修要覧は本学ホームページからダウンロードできます。
- ・履修要覧の記載事項に修正が生じた場合は、国際観光学科掲示板・ToyoNet-G等でお知らせします。

掲示板案内

◆◆ 掲示板 ◆◆

大学あるいは学部からの連絡および学生に対する伝達はすべて掲示板またはToyoNet-G、ToyoNet-ACE、ToyoNet メールを通して行われます。

大学への登下校時をはじめ、日頃から必ず確認する習慣をつけましょう。

●● 関連 HP ToyoNet 情報関連ページ <http://www.toyo.ac.jp/site/toyonet/> ●●



掲示内容により掲示板の場所が異なりますので、注意してください。

掲示内容	掲示板設置場所	問い合わせ
大学公示	キャンパスプラザ	
休 講	1号館 1階エレベーターホール および6号館 1階	教務課
授業・試験・補講 レポート	1号館 1階エレベーターホール	
授業時間割表 (教室変更を含む)	1号館 1階 1102 教室横	
学部からのお知らせや 学生呼び出しなど	1号館 3階 1305 教室前	
キャリア形成支援 就職活動支援	1号館 3階・4階 6号館地下1階・1階 各門入口 8号館 2階・4階	就職・キャリア 支援課
ボランティア募集	雨水会館 1階	ボランティア支援室
遺失物	1号館 1・5・6・7階 3号館ナレッジスクエア入口脇 4号館 1階 6号館 1階 6号館地下1階	学生支援課
セミナーハウス イベント情報		
保健管理室		
学生サポート室		
ピアサポートルーム		
留学生奨学金等		
奨学金・学生呼び出し		
運動部活動		

※掲示板の設置場所を変更した場合は別途お知らせします。

◆◆◆ ToyoNet-G / ToyoNet-ACE / ToyoNet メール ◆◆◆

学生生活を過ごすにあたって、大学のさまざまな Web システムを使用する機会があります。授業や各種手続、お知らせを確認するための主な Web システムについて紹介します。

◆◆ ToyoNet-G ◆◆

大学での生活・学修上で必要となる手続き・登録を行うシステムです。大学生活に関する情報の発信も行っています。

< ToyoNet-G を使う一例 >

- ・各種登録（履修登録など）
- ・各種照会（成績、学期末試験時間割、シラバス、教員プロフィールなど）
- ・各種申請の手続（住所変更、成績調査など）
- ・各種書類の印刷（履修登録確認表、成績表など）
- ・アンケート回答
- ・大学からのお知らせ確認（個人宛／休講・補講情報など、トップページに表示されます）
- ・シラバス、教員プロフィールの閲覧

詳しい利用方法については、ToyoNet-G の「各種資料」にある「ToyoNet-G 利用ガイドブック」を参照してください。

◎ログイン方法

東洋大学ホームページより、下部にある「ToyoNet-G ログイン」のバナーをクリックしてください。

ログインに必要な ID とパスワードは、入学時に配付する「情報システム利用通知書」に記載されています。

※情報システム利用通知書は、大学の Web システムを利用するにあたって、一人ひとりに付与された ID・パスワード・メールアドレスが記載された書類です。紛失した場合等、自動証明書発行機で再発行が可能です。

●● 関連 HP（東洋大学トップページ） <http://www.toyo.ac.jp/> ●●

◆◆ ToyoNet-ACE ◆◆

授業において、出席の管理や課題の提出などに使用されます。

また、授業時間以外でも授業への理解を深めるため、講義内容を補完するツールとして使用されることがあります。

< ToyoNet-ACE を使う一例 >

- ・授業の出席カード提出
- ・講義資料のダウンロード、印刷
- ・授業担当教員からのお知らせ
- ・小テスト、レポートの提出
- ・アンケート回答
- ・大学からのお知らせ確認

詳しい利用方法については「東洋大学情報システム利用ガイドブック」を参照してください。

◆◆ ToyoNet メール ◆◆

本学の学生一人ひとりに付与されるメールアドレスです。無料で使用できます。このメールアドレスを使って、授業担当教員へ連絡することができます。また、大学から ToyoNet メールアドレスへ連絡することができますので、定期的を確認するように心がけてください。

< ToyoNet メールを使う一例 >

- ・ 授業担当教員との連絡
- ・ 就職活動での連絡先として
- ・ 教務課からの連絡

詳しい利用方法については「東洋大学情報システム利用ガイドブック」を参照してください。

◎ログイン方法

東洋大学ホームページより、下部にある「ToyoNet 学内情報システムポータル」のバナーをクリックしてください。

左端のメニューより、「ToyoNet メール ログイン」をクリックし、ログインしてください。

ログインに必要な ID とパスワードは、入学時に配付する「情報システム利用通知書」に記載されています。

●● 関連 HP (ToyoNet 情報関連ページ) <http://www.toyo.ac.jp/site/toyonet/> ●●

Column

～学内（白山キャンパス）の PC 教室・自習用 PC 教室について～

大学内には自由に使うことができる PC 教室があります。

< 学内の常設 PC スペース >

- ・ 3号館 1階 ナレッジスクエア
- ・ 1号館地下 1階 ラーニング・commons (図書館内)

また、自習用として開放されている PC 教室もあります。ただし、授業などで使用できない時間帯もありますので、注意してください。

< 自習用 PC 教室 >

- ・ 3号館 2階

学修にあたって



カリキュラムの概要

◆◆カリキュラム（教育課程）◆◆

カリキュラムとは、大学の目的、学部学科の人材養成の目的を達成するために、開設する授業科目を配列し、どのような知識・能力を身につけることになるのかを体系的に示したものです。

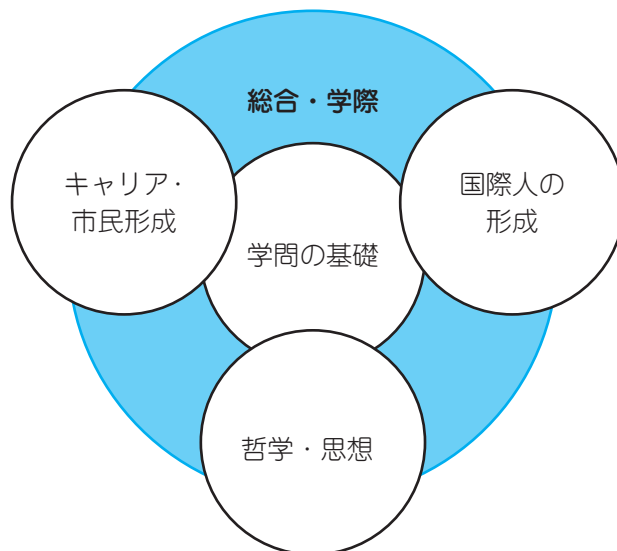
◆◆基盤教育科目「東洋大学スタンダード」◆◆

「諸学の基礎は哲学にあり」という建学の精神のもと、東洋大学は現在、地球規模の視点で物事をとらえ、自分の未来を切り開くことのできる「グローバル人財（人という財産）」の育成を目指しています。

「東洋大学スタンダード」は、教育目標である「哲学教育」「国際化」「キャリア教育」の3つの柱をつなぐ「教養教育」を強化し、学部の枠組みを越えて学ぶ基盤教育カリキュラムです。総合大学の特色を生かした幅広い教養教育として次のような枠組みを設けて展開しています。

＜基盤教育科目による全学的な人財養成の目標＞

- 1) 哲学することを重んじ、自ら考え判断し行動する。
- 2) 知・徳・体の力を伸ばし、生命と自然を尊重する。
- 3) 学問を通じて、論理的思考力と生涯学習への礎を身につける。
- 4) 現代社会における諸課題を解決するための発想力・創造性を養う。
- 5) 自他の伝統と文化を相互に尊重するとともに、自らの個性を育む。
- 6) 21世紀のグローバル社会に貢献できる国際人・地球市民となる。
- 7) 総合的視野に立ち、他の分野の人々とも協働できるリーダーをめざす。



～基盤教育カリキュラム体系図～

基盤教育科目「東洋大学スタンダード」を学び幅広い知識・教養を身につけ、専門科目を深く体系的に学ぶことができるよう、本学の学士課程教育が構成されています。

※学士課程教育とは、学部教育に加え、国際的通用性のある大学教育の課程の修了に関わる知識・能力を習得した者に学位を与える教育課程（プログラム）です。

◆◆カリキュラムの概要表◆◆

基盤教育科目 東洋大学スタンダード	
哲学・思想	「建学の精神と思考鍛練の基礎」 東洋大学の伝統と歴史、創立者の考えを学ぶとともに、東西の哲学を通じて、自ら考え、判断し、行動する能力を身につけることを目指す科目群。創立者・井上円了によれば、「哲学教育」とは、思想鍛練の方法として必要な学問であり、ものの見方や考え方の基礎を身につけることにあります。グローバル人財の育成にあたり必要な実践哲学、倫理観の醸成を重視し、総合的な視野に立って他分野の人々とも協働できるグローバルリーダーを育成します。
学問の基礎	「普遍的な学問教育と論理的思考力の育成」 人文・社会・自然科学の学問領域を追究する、一般教養やリベラル・アーツといわれる科目群。学問上の方法論を修得し、論理的思考力の育成を目指すとともに、多様性を尊重し、地球環境の持続可能性を追求する人財を育成します。また、生涯にわたり学び続ける学習者としての態度を養います。
国際人の形成	「グローバル化した地球社会で生きる」 国際人を育成することに直接的に関わる、言語や情報等のコミュニケーション関連科目に加え、異文化理解や日本人としてのアイデンティティ、国際関係、地域文化などの理解を深める科目群。また、語学力・コミュニケーション能力を高めることで、他国の文化を受容・尊重し、自国の文化を世界に発信し、グローバル社会に貢献できる国際人・地球市民の養成を目指します。
キャリア・市民形成	「キャリア教育と知・徳・体の成長を重視した人格教育」 知・徳・体のバランスの取れた全人的人間的性の養成を目指す科目群。めまぐるしく変化する現代社会においては、市民社会における個人の自由や権利を主張する一方で、地域のコミュニティを育て、連携して課題解決を目指し、協働することを学ぶ必要があります。社会的・職業的な課題における問題解決力や発想力の育成と、総合的な視野を持ち、他分野と協働できる能力の育成を目指し、自ら考え行動することを身につけ、自己実現を図ります。
総合・学際	「先進的で総合的な教育内容・学習法の取り組み」 さまざまな問題や課題を前面に出した複合的、総合的、学際的なテーマを設定する科目群。授業では最新の研究成果を広く他領域の学生に紹介し、複数の教員によるオムニバス形式、複数の教員が協働する同時登壇形式といった形式で行います。また、演習や討論、対話を通じて、学生が課題を探究・解決するアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れています。ICTを活用したキャンパス間をつないだ同時双方向遠隔授業なども行います。
留学支援	LEAP（学術英語習得プログラム）をはじめとする、学生の留学準備及び英語強化を支援する準集中型英語プログラムが展開されています。この科目群では、教室内外の学習機会を設けることで学生の TOEFL のスコア及び全体的な英語スキルの向上を達成しています。
専攻領域	
学科専門科目	カリキュラムの中心となる最も多く履修・修得する必要がある学科専門科目群です。必修・選択必修・選択科目等に分かれています。

卒業・学位

◆◆卒業要件、修業年限／在学年限◆◆

卒業するには、修業年限の4年（8セメスタ）以上在学し、学科が定めている卒業要件をすべて充足する必要があります。

在学できる年数は最長で8年（休学期間を除く）と定められています。

卒業要件

- 1) 修業年限を満たしていること。
- 2) 所属学科の卒業要件を満たしていること。
- 3) 卒業要件に含まれる科目の修得単位数が124単位以上であること。

Column

～卒業見込みとは？～

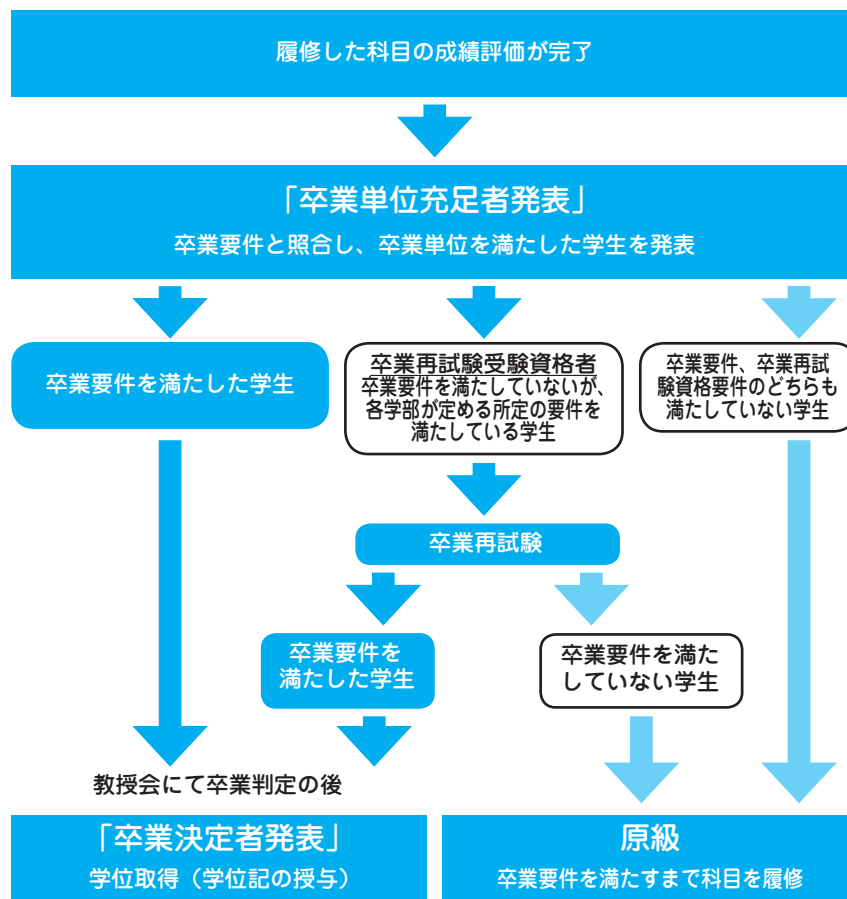
卒業見込みとは、休学期間を除いて6セメスタ以上在学後（100単位以上修得）、1年間（2セメスタ）在学し、所定の単位を修得することで、卒業要件を満たして卒業が可能になる状態を指します。卒業見込みの状態でも、すべての卒業要件を満たすように単位修得しなければ卒業できません。

◆◆卒業決定の通知◆◆

教授会にて学部・学科の卒業要件と照合し、卒業可能かどうかを判定した後、卒業決定者を発表します。

卒業単位充足者、卒業決定者の発表は、ToyoNet-G等にて行います。

卒業決定の通知の流れ（対象：8 セメスタ以上の学生）



学位の授与

修業年限（P.10）を満たし、定められている卒業要件をすべて充足することで、学位が授与されます。

国際観光学科……学士（国際観光学）

！ 学科の卒業要件を必ず確認してください。（P.43 参照）

授業について

◆◆ 授業の期間 ◆◆

本学で行われる授業には、1年間の春学期・秋学期の2学期に分割し、15週間単位で授業を行うセメスタ授業と、各セメスタを2分割し、8週間単位で授業を行うクォーター授業があります。また、夏季・春季休暇期間に、集中講義や実習等の授業が行なわれる場合があります。これをセッション授業といいます。

春学期（4月1日～9月30日）						秋学期（10月1日～3月31日）					
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
春セメスタ授業期間				夏セッション	秋セメスタ授業期間				春セッション		
第1クォーター		第2クォーター			第3クォーター		第4クォーター				
				夏季休暇						春季休暇	

※学則上の学期日程と実際の学年暦（授業カレンダー）は異なることがあります。

学籍異動等の取り扱いは、学則上の学期日程（春：4月1日～9月30日、秋：10月1日～3月31日）で取り扱います。

※学年暦（授業カレンダー）の詳細は、年度ごとに発行される『学生生活ハンドブック』の「年度行事予定」で確認してください。

※開講形態は、科目によって異なります。各年度の授業時間割・開講形態・履修登録期間等は『履修登録のしおり』および『授業時間割表』にて、確認してください。また、追加の周知事項がある場合、ToyoNet-G や学内掲示板等で随時お知らせします。

◆◆ 授業時間 ◆◆

白山キャンパス・総合スポーツセンター（板橋区清水町）の授業時間帯は以下のとおりです。授業時間は90分です。

なお、授業時間帯は変更することがあります。

	時限	時間帯
第1部	1時限	9:00～10:30
	2時限	10:40～12:10
	3時限	13:00～14:30
	4時限	14:45～16:15
	5時限	16:30～18:00
第2部・イブニングコース	6時限	18:15～19:45
	7時限	19:55～21:25

※科目によっては、第1部の科目でも6時限に開講される場合もあります。



白山キャンパス・総合スポーツセンター（板橋区清水町）間をまたいで履修する場合は、移動時間を30分以上要するため、履修登録できない時限があります。（P.17 参照）

◆◆休講・補講／授業の欠席◆◆

休講の決定・お知らせ

担当教員のやむを得ない理由により、授業が休講（当日の授業が行われないこと）になる場合があります。

あらかじめ休講とする場合には、休講掲示液晶ディスプレイ、ToyoNet-Gの「休講・補講情報」にて通知されます。

緊急の場合には、教職員が直接教室にて連絡することがあります。

※授業開始時刻から30分経っても教員が教室に来ない場合は、教務課まで連絡のうえ、職員の指示に従ってください。

休講の確認方法

- ・液晶ディスプレイ（1号館1階、6号館1階）
- ・ToyoNet-G

ToyoNet-Gログイン後、トップページにて確認することができます。

The screenshot shows the 'My Profile' page on ToyoNet-G. It includes a navigation bar at the top with links like 'HOME', '学生メニュー/Menu', '相談予約/Consultation', etc. The main content area is divided into '未読 お知らせ' (unread notices) and '既読 お知らせ' (read notices). On the right, there is a 'My Profile' section with fields for '学部第1部' (Faculty), '学科' (Department), '学年' (Year), and '学籍番号' (Student ID). Below this is a calendar grid. At the bottom of the page, there are two sections: '休講情報' (Class Cancellation) and '補講情報' (Class Make-up). The '休講情報' section shows '休講情報はここを確認できます。' (Class cancellation information can be confirmed here) and the '補講情報' section shows '補講情報はここを確認できます。' (Class make-up information can be confirmed here).

※履修登録が完了するまでは、休講・補講の確認はできません。

緊急時の授業の取扱い

下記①～③の場合、授業の取扱いについて、本学のホームページ・ToyoNet-Gにてお知らせしますので、大学の指示に従ってください。

- ①台風の接近等により交通機関の混乱が予想される場合
- ②台風・地震の災害等により交通機関が運行停止となった場合（人身事故等一般的な運行停止を除く）
- ③大規模地震の警戒宣言が発令された場合

※授業中に上記①、③の状況となった場合は、学内掲示、学内緊急放送にてお知らせします。

※学内で実施される講演会・講座等についても、上記措置に準ずるものとします。

補講実施のお知らせ

休講になった場合、補講が行われます。補講実施情報は、学内掲示板、ToyoNet-Gの「休講・補講情報」にてお知らせします。

なお、授業によっては補講に代わって、レポート課題等が課される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

※補講は各学期の補講調整期間内に行う場合と、期間外に行う場合があります。

授業の欠席について

やむを得ない理由により、授業を欠席する場合は、事前に担当教員に直接連絡してください。教員の連絡先は、ToyoNet-Gの「シラバス・教員プロフィール」にて確認してください。

教務課窓口・電話等での取り次ぎは一切行いません。

ただし、病気・ケガ等により長期欠席することが予想される場合には、教務課に相談してください。

欠席の理由	提出書類	連絡方法	備考
体調不良ほか自己都合	教員の指示に従う	教員に直接連絡	忌引きの場合でも原則出席扱いにはなりません。
指定感染症による出席停止 (インフルエンザ、はしか等)	感染症治癒証明書 ※治癒後、診断を受けた 医師から証明を受け、医 務室に提出してください。 ※書式は、ToyoNet-G の「各種資料」からダウン ロードしてください。	保健管理室に電話連絡の後、 教員に直接連絡	出席停止の場合でも原則出席 扱いにはなりません。
3ヶ月以上の欠席を要する病 気・怪我	休学許可願（休学する場 合）	教務課に連絡	病気・怪我等やむを得ない事 情等の理由により、3ヶ月以 上本学に修学できない場合は、 大学の許可を得て、休学する ことができます。

※メールのみの連絡は一方的かつ行き違いの原因となります。必ず次回出席時に担当教員に申し出てください。

※交通機関の影響等による遅刻の場合は、交通機関発行の遅延証明書を担当教員に提出してください。

なお、国際観光学部では「観光」という分野の特性上、交通機関の遅延も含めて遅刻扱いとする授業もありますので、担当教員の指示に従ってください。

◆◆単位のしくみ◆◆

授業科目には学修時間に応じた単位数が定められており、卒業要件等の基準は修得すべき単位数として規定されています。1単位は、授業や自習（予習・復習）を含めた45時間の学修に対応しており、45時間の学修のうち授業の占める時間は、講義・演習科目は15時間、外国語科目は30時間、実験・実技・実習科目は45時間と設定されています。授業時間はどの科目も90分間です。

学修時間の考え方

$$\boxed{\text{単位}} = \boxed{\text{授業}} + \boxed{\text{自習（予習・復習）}}$$

授業科目の区分と1単位における学修時間

授業科目等	単位数	授業実施	学修時間		
			授業時間	予習・復習時間	合計
講義・演習	1単位	15週	15時間	30時間	45時間
外国語科目	1単位	15週	30時間	15時間	45時間
実験・実技・実習	1単位	15週	45時間	0時間	45時間

◆履修計画・履修登録◆

各学科の教育課程表に沿って、計画的な履修をするようにしてください。また、カリキュラムマップを参考にし、不明点は教職員の履修指導を受けるなど、段階的な履修計画を立てるようにしましょう。

なお、授業を受け、単位を修得するためには、事前に履修を希望する授業科目の登録（「履修登録」）が必要です。

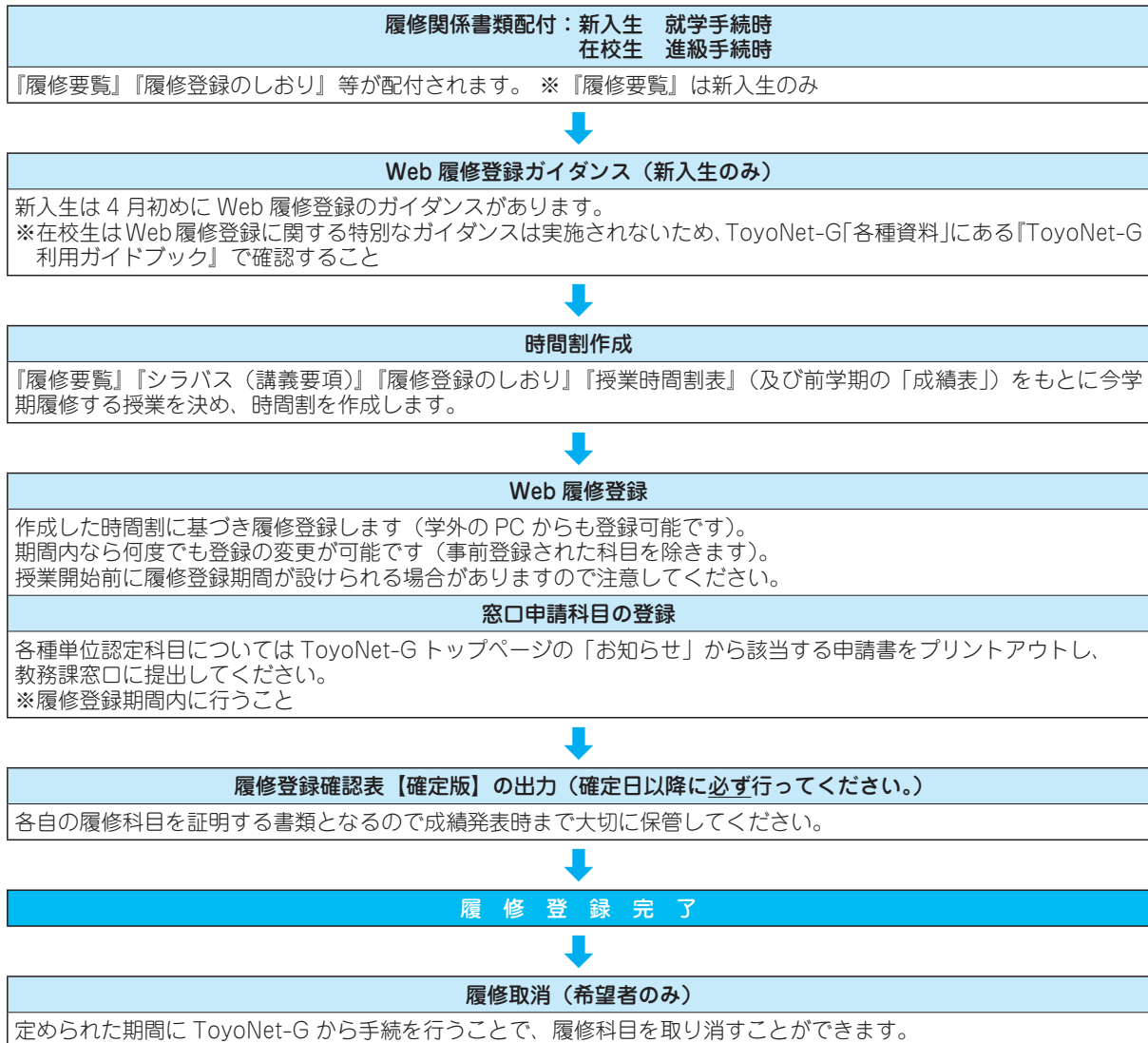
履修計画のポイント

- ①所属学科の卒業要件をよく理解すること。
- ②所属学部の『履修登録のしおり』および『授業時間割表』をよく読み、当該年度の履修上のルールなどについて、きちんと把握すること。
- ③必修科目や選択必修科目など、卒業要件のうち優先度の高い科目については、配当学年（履修可能年次）において早めに履修すること。
- ④『履修登録のしおり』および『授業時間割表』をよく読み、履修を希望する科目同士の時間割の重複（曜日・時限・開講学期）がないか確認すること。重複があった際には、上記③の優先度を考慮して履修すること。
- ⑤進級する際や成績発表後は、これまで履修し、単位修得した科目を振り返り、残りの必要単位数や修得が必要な科目を確認すること。
また、所属学科の『カリキュラムマップ』を参考に、これまで履修した科目やこれから履修する科目の関係性を理解するとともに、卒業までに必要な知識・能力などを踏まえ、選択科目などの必要な履修の参考にすること。
- ⑥必要に応じて、教員に相談するほか、履修ガイダンスに参加し、必要な科目をチェックすること。



定められた期間に「履修登録」をしないと、履修希望する科目の受講、試験の受験が認められず、単位の修得ができません。

◆履修登録の流れ◆



- ①履修登録期間を過ぎてからの訂正は認められません。
- ②GPA制度に沿わない履修科目の取り消しはできません。『履修登録のしおり』をよく確認してください。

◆◆総合スポーツセンター（板橋区清水町）の授業を履修する場合◆◆

移動に30分以上を要するため、連続している時限では、白山キャンパスと総合スポーツセンター間をまたぐ履修はできません。

下表を参照のうえ、履修可能な時間割を作成し履修登録を行ってください。

1時限	2時限	昼休み	3時限	4時限	5時限
●	履修不可				
履修不可	●				
			●	履修不可	
			履修不可	●	履修不可
				履修不可	●

●・・・総合スポーツセンター(板橋区清水町)で履修をする場合

◆◆履修上限単位数（CAP制）と履修科目の制限◆◆

各学期（セメスタ）に履修登録することのできる単位数に制限があります。

詳細はP.44を確認してください。

履修科目の制限・注意

- (1) 既に修得した科目は原則履修できませんが、一部の科目において、再登録可能な科目があります。
- (2) 上級学年に配当されている科目は履修できません。
- (3) キャンパス間をまたぐ履修においては、履修できない時限があります。
- (4) 隔年開講の科目があります。
- (5) 同一名称科目を同一学期に2科目以上履修することはできません。ただし、履修した科目を修得できなかった場合は、次学期以降に再度履修することができます。
- (6) 学部・学科・学年・クラス等が指定されている科目がありますので、「履修登録のしおり」および「授業時間割表」を確認の上、登録してください。
- (7) 自分の所属する学科の教育課程表になく、他学部他学科開放科目一覧にも記載されていない科目を自由科目として履修する場合は、担当教員の許可を得て履修してください。
- (8) 科目によっては、定員を設けている場合があります。第1回目の授業に出席し、担当教員の許可を得ることが履修の条件となる科目もありますので、「履修登録のしおり」および「授業時間割表」やシラバスを確認してください。
- (9) 履修希望者が集中し、教室の収容定員を超えた場合は、抽選等により履修者を決定します。詳細は、「履修登録のしおり」および「授業時間割表」を確認してください。
- (10) 履修登録期間終了後、授業教室が変更される場合があります。

◆シラバス◆

シラバス（講義要項）には、授業の内容（概要）や到達目標など、科目の履修を通じて身につけることのできる知識、能力、また各回の授業の進め方や内容、成績評価方法・基準、使用テキストや予習・復習の指示などが記載され、あらかじめ学生に示されています。

履修する科目を決める際に、シラバスを熟読することはもちろん、次回の授業の準備学習や復習の際の振り返りに用いるなど、シラバスを活用することによって学修効果を高めるよう努めてください。シラバスは「ToyoNet-G」にて公開しています。

シラバスの記載項目

主な記載項目	記載内容
科目名	履修要覧・授業時間割表に記載されている科目名が示されています。
担当者	担当教員名が示されています。
サブタイトル	科目のサブタイトル、サブテーマが示されています。
講義の目的・内容	科目の目的として、どのような内容を学ぶのか、またどのように教授していくかについて示されています。
学修到達目標	履修を通じて身につけることのできる知識・能力などが具体的に示されています。
講義スケジュール	各回の授業内容・テーマをもとにしたスケジュールが示されています。
指導方法	担当教員がどのように授業内容を進めていくのかについて示されています。
事前・事後学習	授業を受講するにあたって、必要な予習・復習について示されています。
成績評価の方法・基準	どのような方法で成績評価をするのか、また評価方法ごとにどのような割合で成績に反映するのかについて示されています。
受講要件	履修にあたってあらかじめ必要な条件について示されています。
テキスト	授業で使用する教科書やテキストについて示されています。
参考書	授業に関連する参考書が紹介されています。

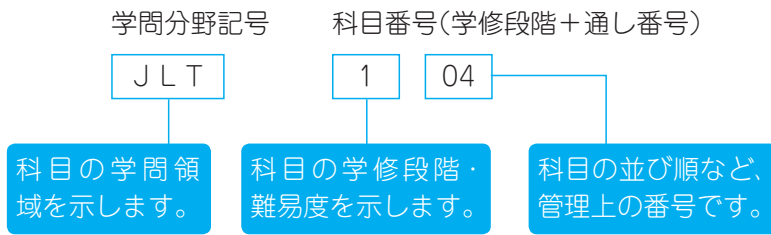
シラバスの検索方法

シラバスは ToyoNet-G で検索することができます。

The image displays three screenshots from the ToyoNet-G system. The top-left screenshot shows a user's profile page with a '検索' (Search) button highlighted by a blue arrow. The top-right screenshot shows the 'Menu' page with a 'シラバス' (Syllabus) link highlighted by a blue arrow. The bottom screenshot shows the search results page for '基礎実習講義<経営>1' (Basic Academic Skills), with a blue arrow pointing to the search criteria and another pointing to the search button.

調べたい科目名や教員名を入力

◆◆科目の記号と番号（科目ナンバリング）◆◆



各授業科目には、記号と番号が付されています（P.49～の教育課程表を参照）。
記号と番号の意味は以下のとおりです。

学問分野記号

ABE	建築学
ACC	会計学
AHS	応用健康科学
ARC	考古学
ARL	芸術一般
ARS	地域研究
ASA	美学・芸術諸学
AST	天文学
BAB	基礎生物学
BSC	基礎化学
CAS	文化財科学・博物館学
CEE	土木環境システム
CEP	土木計画学・交通工学
CHI	語学(中国語)
CHL	中国文学
CIB	中国哲学・印度哲学・仏教学
CIL	民事法学
CIV	キャリア/インターンシップ/ボランティア系科目
CLI	臨床心理学
CME	商学
COT	計算基盤
CRL	刑事法学
CUA	文化人類学・民俗学
DEV	持続可能システム
EAP	地球惑星科学
ECD	キャリア・市民形成
ECH	経済史
ECO	経済学
ECP	経済政策
ECS	経済統計
ECT	理論経済学
EDE	経済学説・経済思想
EDP	教育心理学
EDU	教育学
ENE	エネルギー学
ENG	語学(英語)
ENL	英語学

ENV	環境保全学
EPS	環境政策・環境社会システム
ESS	教科教育学
EUL	ヨーロッパ文学
EXP	実験心理学
FAH	美術史
FLE	外国語教育
FRA	語学(フランス語)
FUL	基礎法学
GBC	GBC セミナー
GDE	ジェンダー
GER	語学(ドイツ語)
GGR	地理学
HAA	アジア史・アフリカ史
HEA	ヨーロッパ史・アメリカ史
HIS	史学
HIT	思想史
HPH	衛生学・公衆衛生学
HSG	史学一般
HSS	健康・スポーツ科学
HUG	人文地理学
HYE	水工学
IDN	語学(インドネシア語)
IHR	国際人の形成
ILA	国際法学
INN	情報ネットワーク
INR	国際関係論
ITS	総合・学際
JLE	日本語教育
JLN	日本語学
JLT	日本文学
JPH	日本史
JPN	語学(日本語)
KOR	語学(韓国語)
LAW	法学
LIE	英米・英語圏文学
LIG	文学一般

LIH	図書館情報学・人文社会情報学
LIN	言語学
LIP	公認心理師
MAN	経営学
MAT	数学
MOF	金融・ファイナンス
MUD	マルチメディア・データベース
NDD	自然災害科学・防災学
NFL	新領域法学
PFP	財政・公共経済
PHE	哲学・倫理学
PHY	物理学
POL	政治学
PSY	心理学
PUL	公法学
RES	宗教学
SCE	科学教育
SEM	ゼミナール/基礎演習
SHS	科学社会学・科学技術史
SNE	特別支援教育
SOC	社会学
SOE	教育社会学
SOF	ソフトウェア
SOL	社会法学
SOP	社会心理学
SPA	語学(スペイン語)
SPS	スポーツ科学
SSS	社会・安全システム科学
STS	統計科学
SUS	留学支援
SWS	社会福祉学
THA	語学(タイ語)
THE	卒業論文/卒業制作
THI	情報学基礎理論
TOS	観光学
TPA	都市計画・建築計画
TYS	自校教育科目
WIS	ウェブ情報学・サービス情報学

科目番号（学修段階+通し番号）

100 番台	主に大学1年生を対象とした授業(1年次レベル)
200 番台	主に大学2年生を対象とした授業(2年次レベル)
300 番台	主に大学3年生を対象とした授業(3年次レベル)
400 番台	主に大学4年生を対象とした授業(4年次レベル)
500 番台	大学院レベル

※上記の科目番号(○年次レベル)は授業の難易度を示すものとして付されています。

教育課程表に記載されている配当学年(履修可能年次)と異なる場合があります。

※通し番号は以下のルールで付番されています。

01～99→a1～a9→b1～b9→c1～c9→・・・(以降、アルファベット順に従います。)

◆教員との連絡◆

教員と連絡を取りたい場合は、次のような方法があります。

研究室を訪ねる

専任教員(教授、准教授、講師、助教)にはそれぞれ研究室があり、学生からの相談や質問を受けるために「オフィスアワー」を設けています。

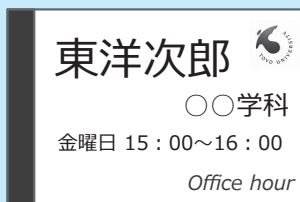
オフィスアワーとは、授業とは別に学修について相談できる時間帯のことです。授業内容に関する質問や、学修の進め方、履修登録のプランなどの相談のほか、レポート指導なども行っています。その他、卒業後の進路や休学、転部・転科、留学、大学院進学などの進路に関する相談、学生生活全般の相談など、幅広い相談に対応しています。

非常勤講師の教員は、研究室を持たないため、オフィスアワーがない場合があります。連絡を取りたい場合は、ToyoNet-Gの「シラバス・教員プロフィール」に記載されている連絡先を参照してください。

Column

～オフィスアワーの確認方法について～

- ① ToyoNet-Gの「シラバス・教員プロフィール」に記載されている「オフィスアワー」の時間帯、研究室の場所を確認し、訪問してください。予約が必要な場合もありますので、あらかじめ確認することをお勧めします。
- ② 研究室のドアに貼られている「オフィスアワー」を確認し訪問してください。研究室には、以下のような掲示がされています。



(オフィスアワーの掲示例)

メールを送る

ToyoNet-Gの「シラバス・教員プロフィール」に記載されているメールアドレスを確認し、メールを送ってください。



メールで連絡する際には、必ず大学名・学部名・学籍番号・氏名を明記し、授業科目名を書き、相談内容を具体的かつ短くまとめること。

試験・レポート

◆試験について◆

- 1) 履修登録した科目の単位を修得するためには、授業回数の3分の2以上出席し、所定の試験に合格しなければなりません。
- 2) 試験には平常試験と学期末試験があります。科目によっては、レポートまたは平常点によって評価します。

試験には次の種類があります。

平常試験	通常の授業期間内で実施される試験
学期末試験	各学期の試験・補講調整期間に実施される試験 ※試験実施の2週間前に学期末試験時間割表をToyoNet-Gで発表します。
レポート	試験のうち、担当教員の判断により筆記試験に替えて課す課題
卒業再試験	卒業単位充足者発表後、各学部所定の要件を満たした卒業を希望する4年生(8セメスタ以上)を対象として行われる試験

※授業ごとの成績評価方法については、シラバスの「成績評価の方法・基準」を確認してください。また授業中に担当教員から指示される場合があります。

〈受験上の注意事項〉

1. 履修登録確認表に記載されていない科目を受験しても無効です。
2. 学期末試験、平常試験ともに通常授業実施時間帯で試験が行われます。
3. 試験会場は平常授業時と異なる場合があるので、ToyoNet-Gの情報を確認してください。
4. 1科目で試験会場が2カ所以上になる場合、学籍番号で試験会場を指定するので、必ず指定された試験会場を受験してください。
5. 試験に際しては、すべて監督者の指示に従ってください。
6. 学期末試験では、学生証がないと受験できないので必ず携帯し、試験会場では机上の指示された場所に提示してください。(平常試験でも求められる場合がありますので、学生は必ず携帯すること。)
7. 試験会場に持ち込みできるものは、筆記用具・時計機能だけの時計・持ち込みが許可されたもののみです。携帯電話、スマートフォン等の通信機能が付いた機器は机上に置けません。試験の妨げにならないよう電源を必ず切って、かばんにしまってください。なお、上記の機器、音楽プレーヤーを時計代わりに使用することはできません。
8. 筆記用具(ボールペン、鉛筆、消しゴム)を必ず持参してください。貸出は一切行いません。
9. 試験中の飲食は禁止します。
10. 答案用紙の、学部・学科・学年・学籍番号・氏名欄には必ず黒のペンまたはボールペンで記入してください(ただし、インクが消しゴム等で消せないものに限る)。
11. 学籍番号欄は学生証に記載されている学籍番号の10ケタすべてを記入してください。学籍番号、氏名のない答案用紙は無効です。
12. 学期末試験は試験開始後20分までに入室しないと受験資格を失います。また退室は開始後30分を経過し、監督者の指示があった後のみ許可します。途中退室した場合、再入場は認めません。
13. 天災、病気、その他やむを得ない理由によって、試験を受験できなかった場合は速やかに証明書または診断書(コピー可)等を添えて担当教員に届け出て、具体的な指示を受けてください。
14. 不正行為を行った場合は、学則(第57条)に基づき処分されます。不正行為についての規程と処分内容はP.22を参照してください。平常試験でも不正行為があった場合には、処分されます。担当教員の指示・説明をよく確認してください。
15. 交通機関の運行や天候の乱れ等に留意し、試験会場へは時間に余裕をもって入場してください。

平常・学期末試験における不正行為

不正行為（本学の規則に反する行為、または学生の本分に反する行為）を平常・学期末試験において行った場合は、学則第 57 条に則り処分されます。

1. 処分の種類
処分は、譴責、停学又は無期停学とする。
2. 処分とその対象となる不正行為
 - (1) 譴責の対象となる行為
 - ア 持ち込みが認められているものの貸借。
 - イ 他人の答案の覗き見、答案を故意に他人に見せ又はそれを見る行為。
 - ウ 試験監督者又は監督補助者からの注意を無視した行為。
 - エ その他アからウに準ずる行為。
 - (2) 停学 1 ヶ月の対象となる行為
 - ア 解答用紙を交換する行為。
 - イ 許可されていないものの持ち込み。
 - ウ 書込みを許可されていない持込許可教材、机上、手掌等へ書込みをしておいた受験、又は、これに類似する行為。
 - エ 試験監督者又は監督補助者からの注意に対する暴言。
 - オ その他アからエに準ずる行為。
 - (3) 無期停学の対象となる行為
 - ア 替え玉受験。
 - イ 在学中における再度の不正行為。
 - ウ 試験監督者又は監督補助者からの注意に対する暴力行為。
 - エ その他、極めて悪質な行為。
3. 処分に伴う措置
 - (1) 処分の種別にかかわらず、不正行為のあった試験科目の単位は、当該年度（学期）において認定しない。また、上記「2. (2)」及び「2. (3)」の停学の対象となる行為については、当該年度（学期）の試験期間において実施される全ての試験科目の単位を認定しない。
 - (2) 停学期間は当該学部教授会で処分に関する意見を決定した日から起算することを原則とする。
 - (3) 決定した処分内容については、不正行為者が所属する学部の学部長が、本人及び保証人と面接のうえ、通達する。
 - (4) 停学期間中は、不正行為者に対してその所属学部が教育的指導を行う。
 - (5) 「譴責の対象となる行為ア及びイ」、「停学 1 ヶ月の対象となる行為ア」、「無期停学の対象となる行為ア」の不正行為は、その当事者全てが上記（1）～（4）の措置の対象となる。
4. 不服申立て
不正行為の指摘を受けた学生は、不服申立てをすることができる。

卒業再試験

4年次生で卒業当該学期に卒業要件を満たしていない者について、以下の要領で「卒業再試験」を実施します。

(受験資格)

卒業再試験は4年次生で卒業を希望する者であり、卒業当該学期に卒業に必要な単位数で不足している科目数が3科目以内かつ6単位以内の者に対して所定の手続きを経て行われます。

(対象科目)

卒業再試験の対象となる科目は以下のすべてに該当する科目とします。

- (1) 卒業当該学期に履修登録を行っている科目
- (2) 卒業単位充足者発表時の評価で「D」の評価を得た科目

(対象除外科目)

以下の科目は卒業再試験対象科目から除外されます。

- (1) 演習、実習、実験、実技、ゼミナール関係科目
- (2) 卒業研究、卒業論文、卒業制作
- (3) 不正行為等により無効となった科目
- (4) 通常の評価において「E」「*（評価対象外）」と判定された科目
- (5) 科目の性質上、担当教員と開講責任学部の学部長が協議して卒業再試験にふさわしくないと判断した科目。ただし、その科目にあっては学生の履修登録以前に卒業再試験を実施しないことを学生に対して明示するものとします。

(再試験手続)

再試験は、卒業当該学期で発表される卒業単位充足者発表時に、定められた期間内に面接を受けた上で所定の手続を行うものとします。

- (1) 再試験手続を行わなかった場合は、自動的に受験する権利は消滅します。
- (2) 受験しようとする者は、卒業再試験対象科目であり、かつ卒業再試験を行う科目の中から、卒業に不足する単位数分の科目数のみ受験することができます。
- (3) 代理人による手続きは認められません。

(再試験受験料)

再試験受験料は以下の通りです。

1科目 5,000円

(再試験の評価)

卒業再試験の成績評価は以下の通りです。

- (1) 成績評価基準は、それぞれの科目において学期末試験または平常試験で実施した基準と同等とします。
- (2) 再試験の結果、合格した者の受験科目成績評価は「C」評価とします。

◆レポートについて◆

レポート提出方法、日時、提出先を授業時及び掲示板で確認してください。



教務課窓口では、レポート郵送先・教員の連絡先の照会に応じることはできません。

レポートボックス設置場所

担当教員の指定するボックス番号、提出物の回収締め切り日時等を確認してください。

設置場所 2号館3階 3号館連絡通路脇 (No.1～50)
6号館2階 6210 教室横 (No.51～80)

Column

～ラーニングサポートセンターを活用しよう～

白山キャンパスラーニングサポートセンターでは、次のような学修相談・各種講座等の支援を行っています。大学での学修をより良くするためにも、ラーニングサポートセンターを利用しましょう。

- (1) 学習上の諸問題に係る相談
- (2) レポート・論文の書き方相談、文献・資料の調べ方相談
- (3) 高校までの基礎学力向上に係る支援
- (4) 資格等の学習に係る支援
- (5) 情報リテラシーに係る支援
- (6) 留学生を対象とした日本語ライティング支援、論文の書き方相談

～開室時間～

月～金 10:00～18:00 3号館1階 ナレッジスクエア内

※開室日時は変更になることがあります。利用の際は、ホームページにて確認してください。



成績

◆◆ 単位の認定 ◆◆

単位の認定は、履修登録した科目に対して、出席状況、試験（レポート含む）等によって評価されます。



授業科目ごとの成績評価方法は、シラバスに記載された「成績評価の方法・基準」を確認してください。

◆◆ 成績評価基準 ◆◆

本学の成績評価基準は以下のとおりです。

合否	成績表示	評価点の範囲	基準
合格	S	100 ~ 90	到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。
	A	89 ~ 80	到達目標を十分に達成している。
	B	79 ~ 70	到達目標を達成している。
	C	69 ~ 60	到達目標を最低限達成している。
不合格	D	59 ~ 40	到達目標を達成していない項目があるが、学修行動を改めることにより達成する可能性がある。
	E	39 以下	到達目標の項目の全てまたはほとんどを達成していない。
	*	評価対象外	出席・試験・レポート提出等の評価要件を欠格。

- ※ 上記の到達目標とは授業科目のシラバスに明記された到達目標を指します。
- ※ 「評価対象外」とは、授業期間を通じ出席不良(3分の2以上出席していない)、またはレポート未提出、試験の不受験のために成績評価の判断ができないものを指します。
- ※ 上表のほかに、留学や他大学での学修成果などを単位認定する場合、「T (Transfer の略)」を合格の評価として使用します。



履修登録した科目の単位を修得するためには、授業回数の3分の2以上出席し、所定の試験（レポート、平常試験等含む）に合格しなければなりません。

◆◆ GPA 制度 ◆◆

GPA (Grade Point Average) とは、授業科目ごとの成績に対して、0.0 ~ 4.3 のグレード・ポイントを付与し、この1単位あたりの平均を算出したもので、学生の学習到達度をはかる指標として、国内外の大学で広く使われています。

【GPA の算出方法】

$$\text{GPA} = \frac{(S \text{ の修得単位数} \times 4.3) + (A \text{ の修得単位数} \times 4.0) + (B \text{ の修得単位数} \times 3.0) + (C \text{ の修得単位数} \times 2.0) + (D \text{ の修得単位数} \times 1.0) + (E \text{ の修得単位数} \times 0.0) + (* \text{ の修得単位数} \times 0.0)}{\text{総履修登録単位数}}$$

- ※ 対象とする科目は、卒業要件の科目とし、卒業要件以外の資格科目・自由科目は対象となりません。
- ※ 対象とする評価は、「S, A, B, C, D, E, *」とし、認定の評価「T」は対象となりません。
- ※ 再履修で評価を受けた成績については、上位の成績が反映されます。
- ※ GPA は計算結果の小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までを表示します。

◆◆成績の通知◆◆

- (1) 成績は学期ごとにToyoNet-Gで通知します。成績発表日については掲示等でお知らせします。
- (2) 成績表は毎学期、保証人へ送付します（留学生を除く）。



保証人への送付を希望しない学生は、定められた期間に教務課窓口にて手続きを行ってください。

◆◆成績調査◆◆

成績発表後、成績評価に誤りがあると思われる十分な理由がある場合、担当教員に成績評価に誤りがないか、確認の申請をすることができます。

成績調査の申請および申請結果の確認はToyoNet-Gで行ってください。



成績調査は成績の再考や、個別の得点の開示を求めるものではありません。十分な理由が示されていない、成績調査の趣旨に沿わない調査申請については申請を取り消されるので、本学の成績評価基準、及び各科目のシラバスに記載された「成績評価の方法・基準」を必ず確認したうえで申請してください。

◆◆単位僅少者に対する学修指導について◆◆

各セメスタもしくは学年の終了後、修得単位が僅少の学生に対して、学修計画の見直しなどの学修指導（面談）を行う場合があります。学部・学科からの連絡・指示に従って、学修指導を受けてください。

◆ ◆ その他

◆ ◆ 学生アンケートについて ◆ ◆

本学は、教育の改革・改善を目的として、各授業の改善を図るために各学期ごとに行う授業評価アンケートや、各学年のカリキュラムや教育方法、学修支援の検証を行うための学生アンケートを実施しています。

アンケートの実施は別途周知されますので、ご協力をお願いいたします。

◆ ◆ 学外での活動について ◆ ◆

学外実習・インターンシップ・フィールドワーク等は、必ず担当教員の指示のもと実施・参加してください。実習先等への配慮はもちろんのこと、本学学生として自覚をもった行動をするよう心がけてください。

またすべての学生は、「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」に加入しています。傷害を被った場合は、所定の手続きにより保険の請求をすることができます。

詳しくは、『学生生活ハンドブック』を確認してください。不明点は、学生支援課窓口まで問合せてください。

◆ 4年間の主な流れ・スケジュール ◆

	1年次	2年次	3年次	4年次
4月	入学式 新入生オリエンテーション	進級手続		
	春学期履修登録／春セメスタ・第1クォーター授業開始			
5月～6月	第1クォーター授業終了／第2クォーター授業開始			
	第1クォーター成績発表・成績調査			
	春セメスタ・第2クォーター授業終了、試験・補講調整期間			
	夏季休暇／夏セッション			
7月～9月	春セメスタ・第2クォーター成績発表・成績調査			
				※第8セメスタ以降学生対象 卒業単位充足者発表 卒業再試験 卒業決定者発表式 卒業式
	秋学期履修登録／秋セメスタ・第3クォーター授業開始			
	大学祭			
10月～12月	第3クォーター授業終了／第4クォーター授業開始			
	第3クォーター成績発表・成績調査			
	冬季休暇			
1月	秋セメスタ・第4クォーター授業終了、試験・補講調整期間			
	春季休暇／春セッション			
2月	秋セメスタ・第4クォーター成績発表・成績調査			
3月				※第8セメスタ以降学生対象 卒業単位充足者発表 卒業再試験 卒業決定者発表式 卒業式

※年度によって変更となる場合があるので、『学生生活ハンドブック』の「年度行事予定表」を参照すること。

学則（学籍および単位認定に関する事項の抜粋）

平成31年4月1日現在

最新の学則および別表はホームページをご確認ください。

第3章 修学等

第1節 修業年限

（在学年限）

第20条 卒業に必要な単位を修得するために在学できる年数（以下「在学年数」という。）は、通算して8年を限度とする。この場合において、休学年数は在学年数に算入しない。

2 再入学又は編入学をした者の在学年数は、前項の在学年数から再入学又は編入学までの通常の在学の年数を控除した年数とする。

第4章 入学、退学、休学、除籍等

第1節 入学、留学等

（入学の時期）

第24条 入学期は、学期の初日から30日以内とする。

（入学資格）

第25条 学部第1年次に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣が指定した者
- (6) 大学入学資格検定（平成17年1月31日規程廃止）に合格した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- (8) その他本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したもの

（入学の志願及び選考）

第26条 入学志願者は、所定の書式による入学願書を提出し、別表第1に定める入学検定料を納入し、かつ、選考試験を受けなければならない。

（入学の手続）

第27条 入学を許可された者は、入学金を納入し、所定の書式により誓約書を提出しなければならない。

（保証人）

第28条 保証人は、父、母又はその他の成人者で独立の生計を営む者でなければならない。

2 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負う。

3 学生は、保証人を変更し、又はその氏名若しくは居住地に変更があったときは、速やかに変更届を提出しなければならない。

（学生証）

第29条 入学手続を終えた者には、学生証を交付する。

（編入学）

第30条 学長は、次の各号のいずれかに該当する者が本学に編入学を希望するときは、選考のうち、編入学を許可することができる。

- (1) 短期大学を卒業した者
- (2) 大学を卒業した者
- (3) 高等専門学校を卒業した者
- (4) 専修学校の専門課程（文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者

2 編入学に関する規程は、別に定める。

（転入学）

第31条 学長は、他の大学の学生が、その大学の許可を得て本学に転入学を願い出たときは、選考のうち、転入学を認めることができる。

2 転入学に関する規程は、別に定める。

（転部・転科）

第32条 学長は、学生が学部の他の部へ、又は他の学部及び学科又は専攻へ転部及び転科を願い出たときは、選考のうち、これを許可することができる。

2 転部・転科に関する規程は、別に定める。

(留学)

第33条 学長は、学生が外国の大学で学修することを願い出たときは、教授会の意見を聴いて留学を許可することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、在学年数に算入する。

(二重学籍の禁止)

第34条 学生は、他の学部学科又は他の大学と併せて在学することはできない。ただし、本学と本学の協定大学の間で実施されるダブル・ディグリー・プログラム及びジョイント・ディグリー・プログラムへの参加者には適用しない。

第2節 休学、退学、転学及び除籍

(休学)

第35条 引続き3カ月以上修学できない学生が休学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

2 休学は、連続する2学期限りとする。ただし、特別の事情がある場合は、学長は教授会の意見を聴いて、2学期を超える期間の休学を許可することができる。

3 休学の期間は、通算して8学期を超えることはできない。

4 願いにより休学した者が、休学の期間が満了した場合又は休学期間中に休学の理由が消滅した場合において、復学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(退学)

第36条 学生が理由を明確にして退学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

2 願いにより退学した者が、再入学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(転学)

第37条 学生が転学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(除籍)

第38条 次に掲げる各号のいずれかに該当する者は、所定の手続を経て、除籍する。

- (1) 授業料その他の学費を所定の期日までに納入しない者
- (2) 第20条に規定する在学年数を超えた者
- (3) 第35条第2項に規定する休学期間を超えた者
- (4) 新入生で指定された期限までに履修登録を行わないこと、その他本学において修学の

意思がないと認められる者

(5) 外国人留学生で出入国管理及び難民認定法に定める「留学」の在留資格の入国査証の発給が拒否された者

2 学生は、除籍されることにより、学生の身分を失う。

3 第1項の規定(第2号及び第3号に掲げる者を除く。)により除籍された者が、再入学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

第5章 教育課程及び履修方法

(他の大学の授業科目の履修)

第43条 教育上有益と認めるときは、他の大学との協議に基づき、学生に当該大学の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修した授業科目の単位については、学長は教授会の意見を聴いて、60単位を限度に卒業所要単位として認めることができる。

(大学以外の教育施設等における学修)

第43条の2 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を本学における授業科目の履修とみなし、単位を認めることができる。

2 前項により認めることができる単位数は、前条により本学において修得したものと認める単位数と合わせて、60単位を超えないものとする。

(留学の場合の準用)

第44条 第43条第2項の規定は、学生が外国の大学に留学する場合について準用する。

第8章 賞罰及び奨学

(懲戒)

第57条 学長は、本学の学則その他の規程に反し、又は学生の本分に反する行為があった学生に対し、教授会の意見を聴いて、行為の軽重と教育上の必要とを考慮して、譴責、停学又は退学の処分をすることができる。

2 退学処分は、次の各号のいずれかに該当する者以外には、これを行うことはできない。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当な理由なくして出席常でない者
- (4) 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した者



国際観光学部規程

平成 31 年 4 月 1 日現在

最新の学部規程および別表はホームページを確認してください。

(趣旨)

第 1 条 この規程は、東洋大学学則（以下「学則」という。）に基づき、国際観光学部の教育研究に
関し必要な事項を定める。

(教育研究上の目的)

第 2 条 国際観光学部は、学則第 4 条の 2 に基づき、学部及び各学科又は専攻の人材の養成に関する
目的その他の教育研究上の目的を、別表第 1 のとおり定める。

(卒業認定・学位授与、教育課程編成・実施及び入学者受入れの方針)

第 3 条 国際観光学部は、学則第 4 条の 3 に基づき、学部及び各学科又は専攻の卒業認定・学位授与
の方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者受入れの方針を、別表第 2 のとおり定める。

(教育課程)

第 4 条 国際観光学部は、学則第 39 条第 1 項第 1 号から第 5 号に基づき、各学科又は専攻の教育課
程における科目区分、授業科目の名称、単位数、配当及び履修方法を、別表第 3 のとおり定める。

(卒業に必要な単位等)

第 5 条 国際観光学部は、学則第 52 条に基づき、各学科又は専攻の卒業に必要な単位等を、別表第
4 のとおり定める。

(履修上限単位数)

第 6 条 国際観光学部は、学則第 42 条第 3 項に基づき、各学科又は専攻の卒業の要件として学生が
修得すべき単位数について、1 学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を、1 年
次は 22 単位、2 年次から 4 年次は 24 単位とする。

(諸資格)

第 7 条 学則第 45 条に基づき、国際観光学部で取得できる資格は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 社会福祉主事となる資格

(資格取得のための授業科目及び単位数)

第 8 条 学則第 45 条第 2 項に基づき、国際観光学部で資格を取得しようとする者は、次の各号に定
める所定の授業科目の単位を修得しなければならない。

(1) 社会福祉主事資格 別表第 5 に掲げる授業科目の単位を修得

(改正)

第 9 条 この規程の改正は、学長が国際観光学部教授会の意見を聴き、学部長会議での連絡調整を経
て行う。

附 則

(略)

教育課程表と履修方法について

本項目には以下の内容を含む、卒業まで必要となる要件や履修方法など記載されています。

①カリキュラムマップ

1年次から4年次までの各学科専門教育科目体系をモデル化した図です。履修計画を立てる際、学びたい科目体系の指標としてください。

②教育課程表

各学科の教育課程（カリキュラム）に配置されている科目の一覧表です。図表化されたものと、リスト化されたものとの、2種類あります。表記の形態は異なりますが、単位数、配当学年などは同じ内容です。

③卒業要件

各学科に定められている卒業要件を記載しています。

教育研究上の目的（国際観光学部）

1 人材の養成に関する目的

国際観光学部は、国際的な視野から観光を論理的思考により捉え、円滑な観光交流を促進するために当事者意識を持って主体的かつ積極的に対応することができ、地域活性化に貢献したり、観光関連企業や組織をマネジメントしたりすることができる人材を養成します。

2 学生に修得させるべき能力等の教育目標

建学の理念である哲学をはじめとして、文化、宗教観等の幅広い知識・教養を基盤に、観光学に関する基本から応用までの理論を修得させると同時に、英語をはじめとした外国語の学修により国際的なコミュニケーション能力を身につけたうえで、内外の最前線においての実習・体験などを通して実務を学ぶことにより、観光の社会的責任を正しく認識し、世界を舞台に活躍できる優れた人材を育成することを教育目標としています。

東洋大学は、1963（昭和38）年に短期大学観光学科を開学し、以来半世紀を超える歴史をもつ観光学研究・教育機関の先駆者です。そして、この立場に則り、観光の活性化と創造に寄与し続けることで、学生教育および学術研究面から国策である「観光立国」を主導したいと考えています。

そして、観光に関連する新しい学問分野を積極的に開拓しながら、観光産業と観光行政機関などと密接に連携することで、産業界などの教育ニーズに合致した時代の最先端をゆく実践的な授業を展開します。

一方、近年、日本を訪れる外国人観光客が急増しています。この来訪観光者のニーズに対応するために、日本の文化、歴史、産業や地域社会などへの深い理解を抱きながら、グローバルな視点から日本の地域社会、文化、産業または製品やサービスをマーケティングでき、マネジメントできるアントルプレナー精神に富む人材を養成したいと考えています。さらに、円滑な観光交流を推進するために、論理的な思考ができ、コミュニケーション能力が高く、国際的な視野から観光を捉えられる人材を養成します。

加えて、急速に進展している日本のサービス企業の海外進出を支えるために、環境が異なるなかで文化や生活習慣、考え方などが異なる人びととの関係性をマネジメントしながらともに働き、主体的かつ積極的に行動でき、かつ失敗をおそれない人材を養成したいと考えています。

国際観光学部長

教育研究上の目的（国際観光学科）

東洋大学の観光学科の歴史は古く、1963年にさかのぼります。日本で初めて「観光学」の教育と研究を目的とした学科（短期大学）として、この年、正式に文部省（現文部科学省）に設置を認められ、東洋大学の観光学科はスタートしました。いわば日本で最も長い観光教育の歴史と研究の蓄積のある学科です。そして、2001年に4年制の「国際観光学科」となり、さらに、2017年「国際観光学部」へと大きく飛躍をしています。

一方で、近年では、インバウンド旅行者が大幅に増加し、観光は日本の基幹産業として、また、地域活性化の手段として、社会的にも経済的にも大きな期待が寄せられるようになりました。

本学部で学ぶ皆さんは、こうした期待される観光を学び、近い将来観光を担っていくのですから、それはまさに日本の、ひいては世界の社会や経済を最先端で担うのだということを忘れないでください。

観光は、人と接し楽しさを提供するサービス業ですから、実際に現場で人と接し実務を学ぶことが重要です。しかし、現場で実務を学ぶだけでは真に観光を担える人材にはなれません。「なぜ、そうなるのか?」、「その背景には何があるのか?」といった学問的体系を学んでこそ、観光の課題を解決し、観光を進化させていける“真の観光人材”になれるのです。為替レートが1円違うだけでインバウンドやアウトバウンドの旅行に大きな影響が出ます。また、政治情勢が悪くなれば、人は旅行には出かけません。こうした社会を見ることのできる眼を養い、観光を学問として学びながら同時に実務を学んでいく、東洋大学国際観光学部は、この「理論と実践」のバランスのよい学びを大切にしています。

カリキュラムには、理論を学ぶ「～論」といった科目がたくさん配置され多角的に理論体系を学べると共に、一方で、実践を学ぶ「演習」や「フィールドワーク」、「ゼミ活動」などもたくさん配置されています。皆さんたちの学ぶ気持ち次第で学べることは無限にあるのです。この4年間で観光の「理論と実践」を多角的に学び、日本や世界の社会・経済・文化を最先端で担える“真の観光人材”を共に目指していきましょう。私たち教職員は皆さんたちの学びを全力でサポートしていきます。

国際観光学科長

国際観光学科の教育方針

◆◆カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）◆◆

観光を持続可能なものに発展させていくために、理論と実務の両輪で推進し、観光産業分野と観光政策分野の視点から多彩な専門科目を開設して教育を展開していきます。各構成要素および学問領域に垣根をつくらず、複合的な学修が可能となるカリキュラムを編成します。そのうえで「責任ある観光の実現」を共通テーマとして、観光産業分野には、ツーリズムコース、エグゼクティブマネジメントコース、サービスコミュニケーションコース、観光プロフェッショナルコースを、観光政策分野には、観光政策コースを組成して、学生の興味関心と社会の要請にきめ細かく応えます。

1. 全員が1年次に「観光学概論」を学び観光の基礎知識を理解するほか、1年次～4年次に少人数双方向の演習科目を体系的に履修し、特定テーマの設定による調査・報告・討論を通じて論理的に考える力を身につけます。
2. 2年次から5コースに分かれて、経済学や経営学に加え、旅行業、航空や鉄道等の運輸業、宿泊や飲食などのサービス業、観光まちづくりや観光政策の分野に関する特徴ある観光学の科目も学習することにより、当該分野の専門的知識を体系的に学びます。また、英語による授業や実習授業の履修により実践的かつ実務的に対応できる技術を修得します。
3. 課題や研究への取組みを通じて、客観的かつ論理的に主体的に発信する能力、コミュニケーション能力などを身につけます。
4. グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を身につけるため、外国語科目では2ヶ国語以上の言語を習得します。このことにより異文化理解の能力を身につけます。
5. 全学共通となる基盤教育を学習することにより、幅広い知識・教養を身につけます。

◆◆ディプロマ・ポリシー（卒業の認定及び学位授与に関する方針）◆◆

国際観光学部は、一般的に広く主張されている観光の経済的効果の側面のみを追求するのではなく、我が国の観光を持続可能なものへと発展をさせていくことはもちろん、観光の社会的責任を正しく認識し、世界を舞台に活躍できる優れた人材を育成するという教育目標に基づき、学士教育課程を通じて次の基準を満たす学生に学位を授与します。

1. 観光学に関する基礎知識を体系的に習得している
2. 専門知識に基づき、国内外の観光に関する諸問題に関心を持ち、論理的に考え、その解決方法を理解している
3. 観光産業分野や観光政策分野で必要とする知見を理解し、実践的かつ実務的に対応できる技術を備えている
4. 外国の人々とのコミュニケーションを通じて異文化を理解する能力がある
5. 観光の将来像を描くための思考力や想像力を修得している
6. 我が国と世界の文化、宗教観、地球環境に関する幅広い教養を身につけている

◆◆アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）◆◆

観光は、お客様に喜んでいただくその対価を得ることで成立する活動です。国際観光学部は観光産業分野と観光政策分野の2分野に分かれて、観光振興の意義を追求していきませんが、両分野に必要なことは、まさにこの「お客様に喜んでいただく」という精神です。常に相手の立場に立って、相手が好き姿を想像し、強い志に裏打ちされた熱意と論理的な思考を持ち、ときには自分の欲を捨てて力強く邁進していく人材を求めます。

そのためには、大学入学前からボランティア等奉仕活動に取り組んでください。そして、小さな単位でもいいですので、リーダーを経験し、構成員が気持ちよく活動できるためにはどのような環境を構築すればよいかという思考力を養っておくことが大切です。

学習面で特に力を入れてもらいたいのは、国語です。論説文でも、物語文でも、作者はなぜこのような文を書いたのかを沈思黙考し、深い洞察力を養っておくことが大切です。また、世界を舞台に活躍したいと考えている人はもちろん、これからは日本国内の観光産業においても世界のお客様をお迎えしなければなりません。そのためには語学能力は必須です。高校時代は特に英語を身に付けておくことも重要です。中国語等、他の言語の習得も有効です。

そのような皆さんを国際観光学部は歓迎します。一緒に観光を通じて人間理解を深めてみませんか。

国際観光学部では早くから自分の将来のキャリア像を定めて、それに向かって学習を進めていくことを推奨しています。そのため、5つのコースを用意しています。一般的には1年次秋学期に選考を行い、2年次春学期からコース別の指導が始まりますが、AO入試のジャンルセレクト入試の受験生は、入学が決まった時点から希望コースが確定します。各コースの求める人材像は、上に示したことに加えて、入学前から以下のそれぞれの項目を参照してください。

【ツーリズムコース】

このコースは、旅行業界に進む希望を持つ人に開かれたコースです。そのため、旅行企画を実践するために日本および世界の文化、歴史、地理に興味を持っている人、多様な主体をまとめあげることが求められるため、さまざまな人びとと出会うことに喜びを感じる人、旅行産業の発展のために、信じた道を突き進むことができる推進力を持っている人、資格取得を目指して熱心に勉強する習慣を身につけている人を求めています。

【エグゼクティブマネジメントコース】

このコースは、ホテル等ホスピタリティ業界においてマネージャーや総支配人になる人材を育成するためのコースです。リーダーシップを持っていることはもちろん、計数管理や企業会計を学ぶので、理数系である必要はありませんが、数学の学習に取り組む姿勢のある人材を求めます。論理的な思考を訓練する意味でも、数学は積極的に学んでください。また、商業高校で簿記を習得してきた人も歓迎します。

【サービスコミュニケーションコース】

このコースは、ホテル・料飲・ブライダル等のホスピタリティ業界、エアラインのキャビンアテンダント・グランドスタッフ、鉄道やバス事業、その他小売業全般で接客をしたい人材を育成するためのコースです。このコースで求めるコミュニケーション力とは、自分の友人や気心が知れた人と交流することだけでは不十分です。世代の違う人、国籍・宗教・文化・ライフスタイルが違う人ともコミュニケーションがとれること。特にこれからは世界の人々とつながることが求められます。このコースでは英語だけでなく、中国語も必修となります。3か国語習得も可能ですので、高校段階から語学の習得を積極的に行ってください。

【観光プロフェッショナルコース】

このコースは働きながら学ぶことを想定しているコースです。自分の希望する業界の事情を理解することはもちろん、その業界で必要とされている資格を早めに取得することは、このコースで学ぶとき、きわめて効果的です。特に、旅行業界を目指す人で旅行業務取扱管理者試験に高校時代に合格した人がこのコースで学習すると、よりいっそう学習効果が高まることでしょう。

【観光政策コース】

このコースは観光政策やまちづくりを学ぶコースです。地域・国家・世界という視点で観光政策を論じるために、地歴・公民分野のあらゆる知識を総動員して授業を展開していきます。また、法律分野、経済分野の講義を受講することが求められますので、論理的かつ科学的な思考が必要となります。高校段階から数学の学習に取り組む姿勢を心がけてください。

カリキュラムの特徴

国際観光学科では、1年次に、観光学に関する基礎的な理論を身につけたうえで、2年次からそれぞれの進路（キャリアデザイン）に沿った形で5つのコースに分かれます。詳細はP.40～42を参照してください。

- (A) ツーリズムコース
- (B) エグゼクティブマネジメントコース
- (C) サービスコミュニケーションコース
- (D) 観光プロフェッショナルコース
- (E) 観光政策コース

◆履修モデル◆

それぞれのコースごとに履修モデル（P.53～参照）がありますので、それを中心に専門分野の授業を履修していきます。（受け入れに上限があるコースがあります。その場合はコース選択時に1年次の所定の科目の評価（素点）等で所属を選抜します。）

なお、AO・ジャンルセレクト入試で入学した学生は、その高い志を認められて入学しているため、入学時にそれぞれのコースを選択することが確約されています。

◆ゼミ・演習・実習◆

国際観光学部は、参加型・双方向のアクティブラーニングを実現する取り組みとして、各種ゼミ活動、演習・実習を充実させています。1年次では観光基礎演習として、大学での学びとはいかなるものか、調査・研究とはどのように進めていけばいいのかという基礎的な知識を習得します。そして、2年次秋学期から国際観光研究、いわゆるゼミ活動が始まります。これは4年次まで基本的には同一ゼミに所属し、卒業論文もそのゼミ担当の教員の指導を受けることとなります。ゼミは自分の専門分野の知識を深化させるだけでなく、かけがえのない一生の友人を得るチャンスでもあります。早い段階からそれを意識して、悔いのない大学4年間を送ってください。

◆基盤教育科目◆

基盤教育科目という教養科目も用意されています。東洋大学は哲学を諸学の基礎にしていますので、哲学・思想分野から2単位必ず取る必要がありますが、その他の科目は任意となっています。しかし、大学で学ぶことの意義の一つに、幅広い教養を身に着ける（リベラルアーツ）という側面があります。今まで興味関心がなかった分野に対しても積極的に受講してみてください。きっとそれが視野を広げ、人間の器を大きくすることに役立ちます。

◆外国語系科目◆

必修の英語科目では1年次に語学力のしっかりとした基礎を養成します。スピーキングの科目はスピーキングテストによりクラス分けを行い、日本の重要な問題について英語で話し合う能力を向上させます。リーディングの科目はTOEICのスコアによりクラス分けを行い、読む方略を身につけます。

学習を楽しんで行き、言語学習に対して自律の精神を持ち、英語を通じて世界とつながる方法を見つけることを目標とし、ECZ（English Communication Zone）で外国人学生と交流したり、ネット上で英語のビデオを見たりするなど、授業外でも積極的かつ継続的に行動することを推奨します。

2年次ではグループワークやプロジェクト活動によって仕事に必要な観光英語を学びます。これらの必修科目以外に多様な選択科目があります。3つのレベルに分かれた英作文のクラスは留学や学内

の英語による授業を身近なものにします。また TOEIC テストとともに観光英検のような資格試験への挑戦をサポートする科目もあり、将来の仕事に単に就くだけでなくその先のキャリアを目指し自分を高める学習を提供しています。

また、第1学年、第2学年の学生に対して lunch time sessions を行っています。これらの講演は、すべて英語教員やゲストスピーカーによって英語で行われ、言語を学習するだけでなく、外国の文化を直に知ってもらう機会となっています。本学部の外国語教育の特徴として英語だけではなく他言語学習も挙げられます。これは、今まで習ったことのない外国語を学ぶことで、新しい考え方・文化に親しみ、国際的なコミュニケーション能力を身に着けることを目的としたものです。1年次から英語以外に必ず一つの外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・ハンガール・スペイン語）を選択必修言語として3学期間、履修します。2年次からは学習進度に応じて多くの選択科目が開講されますが、特にサービスコミュニケーションコースにおいては、中国語学習に力を入れて、1年次の継続としての上級クラスのみならず、2年次から始める第3外国語として集中的に学ぶ科目も準備されています。

◆◆情報演習科目◆◆

「情報演習」は1年次において情報実務の基礎となる文書ならびにプレゼンテーション作成の実習を行うとともに、表計算やグラフ作成に加え、初歩的な統計、経営分析、立地解析を表計算ソフトを用いて行います。「情報演習」は選択必修科目の中の共通科目として、1年次での多くの学生の履修を推奨しています。2年次以降の発展的な学習に備えるための情報処理の基礎を身につけます。

コースの内容と特徴

国際観光学部では、社会・時代の要請、学生のニーズを徹底的に追求して、以下の5つのコースを設定しています。

- (A) ツーリズムコース
- (B) エグゼクティブマネジメントコース
- (C) サービスコミュニケーションコース
- (D) 観光プロフェッショナルコース
- (E) 観光政策コース

2年次からこの5コースに分かれて学修をしていきますが、講義はコースを横断して受講することができるようにし、複数の要素を持つ「魅力的な人材」になれるようにしています。

コース別のプログラム概要は以下の通りです。

(A) ツーリズムコース

～高度な市場調査力と企画能力を有し、新しい観光を創造できる人材の育成～

このコースは旅行業界への人材輩出に特化したコースです。一般的に大学生は旅行会社の企画する旅行商品の知識を持たずに、単に自分の旅行経験だけで旅行会社の業務を類推して就職希望を出している傾向にあります。この大学と産業の間のミスマッチこそがわが国の観光人材育成の進展を阻む障害となっていると思います。そこで、国際観光学部のカリキュラムでは、旅行会社の業務を企画、営業だけでなく、現地の受け入れの状況まですべて把握して、旅行業界への正しい理解を深めることを目的としました。

また、観光産業は、旅行、運輸、宿泊、料飲、物販、情報等のサービス業が複合して形成されており、旅行業はそれらを統合して旅行商品を作成する必要があることから、周辺産業への正しい理解も求められています。そこで、このコースでは、単に旅行業界の現状を伝えるのにとどまらず、周辺産業を理解する講義も受講できるようにしています。

さらに、このコースの最大の特徴が、所属する学生のできるだけ多くが国家試験である「総合旅行業務取扱管理者試験」に合格できる状況を整えるという点です。対策的講義を充実させ、正課の講義だけでなく、朝もしくは放課後を利用して試験の傾向と対策に精通した専門講師による問題演習を中心とした課外講座も設定し、合格率を飛躍的に高めています。

(B) エグゼクティブマネジメントコース

～計数や法律に明るいマネジメント職を目指す人材の育成～

今までホテル業界では、海外においては観光学部出身学生が即マネージャー・支配人レベルでのキャリアパスを実現する例が多いですが、わが国においてはそのようなキャリアパスは実現されるに至っていません。そのため、ホテルマネジメント（経営幹部）を希望する学生も、将来が見えない中でサービスフロントからそのキャリアをスタートさせているのが現状です。サービスフロントで活躍する人材像とマネジメントで活躍する人材像にはその特性に差異があり、結果外資系ホテルでは、日本人はいつまでもサービスフロントのままで、マネジメント職は外国からやってくるという事例が少なくありません。

また、金融や不動産といった、ホテルをはじめとしたホスピタリティ産業と深くかかわる人材についても、観光を大学で学ぶことなくホスピタリティ産業に対応せざるをえず、他国の専門教育を受けた人材との競争において不利な側面も否めません。

本コースは、このミスマッチを日本的慣習に要因を求めるのではなく、海外のホテルマネジメントを開講する大学のカリキュラムを参考にし、会計系および不動産系の科目を多く配置することで、ホ

テル資産投資を理解したマネジメントの即戦力として対応できる人材を育成することを目的とします。

一方で、本コースの配当科目と履修モデルは、ホテル・ホスピタリティ産業だけにとどまらず、アセット・マネジメントやプロパティ・マネジメント、あるいは金融機関やコンサルティング会社など、サービス産業の多様な業種にも対応可能です。そのため、サービス産業全体のさまざまな企業で活躍する高度な人材の育成にも寄与しうるものと考えます。

すなわち、本コースは、わが国のホスピタリティ産業と関連する諸産業を牽引するリーダーを育成するためのコースとして位置づけられています。

(C) サービスコミュニケーションコース

～サービス現場の最前線で最高のサービスを提供できる人材の育成～

観光関連産業はその関与する人の印象がサービスの質を大きく左右することは言うまでもありません。そこで、徹底的にバックボーンとしてマーケティングとホスピタリティの理論を習得した上で「相手との関係性をマネジメントする」というマインドを習熟させ、それぞれの持ち場で最高のサービスを提供できる人材を育成します。具体的には、ホテルや旅館のサービスフロントスタッフ、航空会社のキャビンアテンダント、グランドスタッフ、鉄道会社、ツアーガイド、小売業等の観光関連産業だけでなく、プライダルやフューネラル（葬祭）等のセレモニー系企業、エステ、スパ、アロマセラピー等の新たなるサービス産業に貢献できる人材の派遣も想定しています。さらに、アウトバウンド観光、インバウンド観光を振興していく際、相手国の文化を深く理解することが求められると同時に、自国の文化も理解しておかなければなりません。そのために、文化、歴史、宗教を理解する講義科目を豊富に設定し、表面的ではないコミュニケーションが図れる人材を育成します。また、本コースではインターンシップを推奨し、長期休暇を利用して積極的に学生が就業体験できる機会を提供しています。その際、国内企業だけにとどまらず、海外インターンシップを奨励し、積極的に世界へ羽ばたくチャンスを用意しています。なお、本コースの学生は在学中に中国語科目を必ず履修してください。1年次から履修する場合は、外国語系教育科目の中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、中国語Ⅲを、2年次から履修する場合は、1年次で履修した初習外国語のⅢとともに、中国語入門ⅠA、中国語入門ⅠBを履修してください。

(D) 観光プロフェッショナルコース

～即戦力人材の育成～

世の中ではインターンシップが花盛りですが、最近では1週間あるいは1日で終わる超短期の職場体験もインターンシップと称しています。しかし、そのような短期間では職場の表面を見るだけで、深い業務理解は困難です。そこで、3年間（2年次開始の場合は2年間）という長期にわたって一つの企業で腰を落ち着けて研修することにより、より深い業務理解をもくろむ本コースを設定しました。基本的に1限から3限の時間に企業に赴き、4限の時間に大学に戻ってきて、6限まで学習するという日課となります。このコースは基本的にAOジャンルセレクト入試で選抜をしますが、その他の推薦入試を受験してきた人の中に希望者がいた場合、若干名を選抜して1年次からの履修に間に合わせます。センター試験、一般試験で入学してきた学生には1年次秋学期に行われるコース分け時に若干名の募集を行います。

(E) 観光政策コース

～地域、国、世界の三つの視点から、新しい観光を創造できる人材の育成～

地域社会の開発を考える上でも、観光産業への理解は重要です。それに加え、地域振興への強い使命感とリーダーシップ、国際社会への貢献意識を持つことが、この地方創生の時代に求められています。本コースでは、地域、国家、世界のそれぞれの視点から事象をとらえ、広い視野と卓越したバランス感覚により観光政策を発展的に具現化できる人材を育成します。日本の地域社会、観光政策の実態、国際開発への理解を深める講義を設定し、実践的な学びにより、例えば地方／国家／国際公務員として、これからの新しい観光を創造できる人材を育成します。

以上5つのコースに共通して、「理論」と「実践」の両輪が必要であるということは当該分野ではよく言われることでありますが、学生の立場に立つと、その両方がカリキュラム上に存在したとしても、その両方が有機的に結びつかず、ばらばらになっていたら、機能しません。この「理論」と「実践」を有機的に結びつけることで、実際に役に立つ「知」へと昇華できると考えています。すなわち、理論と実践を結ぶための科目「観光学概論」「観光マーケティング」「サステナブル・ツーリズム」「ホスピタリティ概論」「リーダーシップ論」はそれぞれどのコースに進んでも履修してもらいたいと考えます。この視点こそ、知の集積である大学の持ち味であり、哲学を建学の理念としている東洋大学だからこそ可能になると考えます。



コース分けの方法に関しては、別途案内をします。学内掲示板、ToyoNet-Gのお知らせ、大学からのメールはこまめに見るようにしてください。



卒業要件

卒業に必要な単位数は 124 単位で、下表に掲げる所定の単位を修得しなければなりません。

		科目区分	一般学生	留学生
卒業 必要 単位数	基盤教育 20 単位以上	哲学・思想	2 単位以上	
		学問の基礎		
		国際人の形成		
		キャリア・市民形成		
		総合・学際		
	留学支援	英語特別教育科目		
	外国語系教育科目 一般学生 14 単位以上 留 学 生 18 単位以上	必修科目	8 単位	14 単位
		選択必修科目	3 単位以上	
		選択科目	3 単位以上	4 単位以上
	124 単位 以上	専攻領域	学部共通必修科目	
分野別必修科目			観光産業分野※	4 単位
		観光政策分野※		
分野別選択必修科目		観光産業分野※	52 単位以上	
		観光政策分野※		
	共通			
選択科目				
		開放領域(他学部他学科開放科目)		
		自由科目		

※分野は、下記のとおりコースによって分かれています。卒業要件は配属コースの分野が適用されます。

コース	分野
ツーリズムコース	観光産業分野
エグゼクティブマネジメントコース	
サービスコミュニケーションコース	
観光プロフェッショナルコース	
観光政策コース	観光政策分野

年次別履修登録単位数制限

◆◆履修できる上限単位数（CAP制）◆◆

下記の通り年次・開講学期別に履修できる単位数の上限が設定されています。

年次	年間	卒業単位として認められる科目		卒業単位として認められない科目
		春学期	秋学期	
1	44 単位	22 単位	22 単位	制限なし
2	48 単位	24 単位	24 単位	
3	48 単位	24 単位	24 単位	
4	48 単位	24 単位	24 単位	

<卒業に必要な単位として認められる科目>
 基盤教育、専攻領域、開放領域（他学部他学科開放科目）

<卒業に必要な単位として認められない科目>
 自由科目…自分の所属する学科教育課程表になく、なおかつ他学部他学科開放科目として履修できない科目で担当教員の許可を得て履修する科目

履修上の注意

◆◆ 基盤教育 ◆◆

以下の①の基準を満たし、外国語系教育科目を含め最低 20 単位修得しなければなりません。

- ①「哲学・思想」分野より最低 2 単位修得すること。
- ②「スポーツ健康科学実技Ⅰ A～Ⅲ B」「スポーツ健康科学講義Ⅰ～Ⅱ B」「スポーツ健康科学演習Ⅰ」の授業は、総合スポーツセンター（板橋区清水町）で開講されます。総合スポーツセンターでの授業は、白山 8 学部すべての 1～4 年生が履修できます。
- ③「スポーツ健康科学実技」および「スポーツ健康科学演習」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があります。詳細については履修関係資料、学内掲示を参照してください。
- ④一度単位修得した科目は再登録できません。なお、修得できなかった科目の再履修は可能です。

外国語系教育科目

<一般学生>

以下の 3 つの基準を満たし、最低 14 単位修得しなければなりません。

- ①必修科目に配当されている 8 科目 8 単位を修得すること。
- ②選択必修科目に配当されている、初習外国語（中国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ハングル）の中から 1 つの言語を選択し、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの順に 3 科目 3 単位以上を単位修得すること。
- ③選択科目に配当されている科目の中から 3 科目 3 単位以上を修得すること。

<留学生>

以下の 3 つの基準を満たし、最低 18 単位修得しなければなりません。

- ①必修科目に配当されている 14 科目 14 単位を修得すること。
- ②選択科目に配当されている科目の中から 4 科目 4 単位以上修得すること。

なお、初習外国語の中国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ハングルを履修する場合は、同じ言語でⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの順に履修、単位修得してください。母語および日常的に使用している、または使用していた言語の科目は履修できません。判断に迷う場合は、入学後に本学専任教員が面接を行いますので、オリエンテーション期間中に必ず申し出てください。

◆◆ 専攻領域 ◆◆

学部共通必修科目、分野別必修科目、分野別選択必修科目、選択科目から構成され、それぞれに必要な単位数が定められています。

学部共通必修科目

1 年次配当 2 科目 4 単位、2 年次配当 1 科目 2 単位、3 年次配当 2 科目 4 単位、4 年次配当 2 科目 4 単位の計 14 単位を修得しなければなりません。

分野別必修科目・分野別選択必修科目

観光産業分野・観光政策分野の 2 分野それぞれに必修 4 単位、選択必修 52 単位以上を修得しなければなりません。分野は、配属コースにより異なります。P.43 にて確認してください。

選択科目

すべての学生が選択して履修することができる科目です。海外研修、インターンシップ、フィールドワークなどキャンパス外での活動内容を含む科目も配置されています。

コース履修モデル科目

それぞれのコースには履修モデルとなる科目があります。
詳しくは、P.53～を参照してください。

◆◆実習、演習、インターンシップ科目、フィールドワーク◆◆

インターンシップ及びフィールドワークについては、各学期の初頭、または各講義の初回にガイダンスを実施しますので、掲示などに注意してください。

インターンシップ

国内のホテル、旅館をはじめとする様々な実習先でインターンシップを行います。いままでは顧客の立場で企業が提供するサービス等を利用していたと思いますが、インターンシップに参加することにより提供側の視点を持つことができるようになります。インターンシップ（長期休暇期間：夏季、春季の2回）には、各学期に開催されるガイダンスへの出席と、所定の手続き、試験等を経ることで参加できます。参加後に、実習の状況にあわせた形でインターンシップⅠ～Ⅳ（通常はインターンシップⅠとⅡ、またはⅢとⅣ）を履修してください。

海外インターンシップ

海外のホテルなどの現場で実際に働いて、海外勤務を体験します。自らの問題意識をこの体験を通して考えることで、成長を目指します。つまり、単なる海外旅行ではありません。海外インターンシップ（長期休暇期間：夏季、春季の2回）には、各学期に開催されるガイダンスへの出席と、所定の手続き、選考等を経ることで参加できます。参加後に、実習の状況にあわせた形で海外インターンシップⅠ～Ⅳ（通常は海外インターンシップⅠとⅡ、またはⅢとⅣ）を履修してください。

なお、学部独自のインターンシップ以外にも、全学でも海外インターンシップ等を紹介しています（単位認定の対象となるかは、各プログラムによりますので、必ず各プログラムの案内等詳細を確認してください）。

サービス課外実習

サービスコミュニケーションコースの学生向けの、インターンシップに類する科目です。インターンシップ、海外インターンシップと同様の実習先のほか、サービス課外実習でのみ参加可能なプログラムを選択できることもあります。履修希望者は学期初めのガイダンスに出席のうえ、サービス課外実習Ⅰを履修してください。さらに、実習後にはサービス課外実習Ⅱを履修してください。

観光フィールドワーク

本科目ではさまざまな地域を調査対象地とし、観光地振興、景観づくり、地域再生、サービス提供プロセスの検証などの調査テーマを選定し、ケーススタディを行います。

事前学習だけでは解決しきれない諸問題を、国内外で実施されるフィールドワークに参加することにより、対処していく能力を修得することを目指します。

講義の初回にガイダンスを実施しますので、履修希望者は必ず出席してください。

募集型企画旅行演習

良質なパッケージツアーの企画の裏側を、実際にツアーに参加して体験します。旅行保険の安心安全のしくみ、旅行業界のルールなど、旅行がどのような仕組みで成り立っているかを産学連携の講義で学びます。

エアラインサービス実習

客室乗務員（CA）訓練の丁寧さで定評のあるマレーシア航空（MH）とブリティッシュ・エアウェイズ（BA）と提携し、実際の客室訓練をもとにオーダーメイドの研修を行います。空の安心安全を守る保安要員としての、徹底した安全訓練を行います。サービスコミュニケーションコースの履修推奨科目です。

観光実学演習

実際に働きながら「自ら学ぶ」という、即戦力育成のためのプログラムです。2～3年の期間継続して仕事の経験を積み上げる中で、実際の現場における問題・課題を発見し、その解決策を探求します。観光プロフェッショナルコースに配属された学生は必ず履修してください。

◆◆卒業要件を上回って修得した単位について◆◆

教育課程表上の基盤教育および専攻領域において卒業要件に定められた単位数を上回って修得した単位は、卒業必要単位数 124 単位の中の単位として換算されます。

◆◆未修得の必修科目および外国語系教育科目について◆◆

配当学年で修得できなかった必修科目や外国語系教育科目がある場合は、次の開講学期に優先的に履修するようにしてください。

◆◆既修得科目の再登録について◆◆

既修得科目の再登録は、下記に掲げる科目以外は、履修登録の上限単位数内であれば担当教員の許可を得て履修を認めます。ただし、取得した単位は重複して卒業単位に組み入れられません。なお成績については、成績上位の評価を卒業単位とみなします。

再登録ができない科目は次の通りです。

（基盤教育）

- ・全ての科目

（専攻領域）

- ・観光基礎演習
- ・国際観光研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ
- ・卒業論文
- ・観光実学演習

（他学部他学科科目）

- ・全ての科目

（自由科目）

- ・全ての科目

◆◆開放領域について◆◆

他学部他学科開放科目を履修することができます。履修した単位は、開放領域の単位として卒業必要単位数 124 単位の中の単位として換算されます。

なお履修にあたっては、開講学部・学科の履修要件、配当学年・セメスタに従ってください。

◆◆自由科目について◆◆

自分の学科教育課程表になく他学部他学科開放科目一覧にも記載されていない科目で、担当教員の許可を得て履修する科目を指します。なお、この科目は卒業単位として認められません。

履修希望者は、「履修登録のしおり」および「授業時間割表」を確認してください。



教育課程表

◆ 2019 年度入学生用 国際観光学科 教育課程表 (基盤教育科目 一般学生用) ◆

	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
基盤教育 (20)	哲学・思想 (2)	哲学 A (2)	哲学 B (2)	哲学史 A (2)	哲学史 B (2)	倫理学基礎論 A (2)	倫理学基礎論 B (2)	応用倫理学 A (2)	応用倫理学 B (2)	
		科学思想史 A (2)	科学思想史 B (2)	宗教学 I A (2)	宗教学 I B (2)	宗教学 II A (2)	宗教学 II B (2)	地球倫理 A (2)	地球倫理 B (2)	
		論理学 A (2)	論理学 B (2)	井上円了と東洋大学 A (2)	井上円了と東洋大学 B (2)	東洋思想 (2)	ロジカルシンキング入門 (2)	クリティカルシンキング入門 (2)		
		美術史 A (2)	美術史 B (2)	音楽学 A (2)	音楽学 B (2)	歴史の諸問題 A (2)	歴史の諸問題 B (2)	経済学 A (2)	経済学 B (2)	
		統計学 A (2)	統計学 B (2)	法学 A (2)	法学 B (2)	政治学 A (2)	政治学 B (2)	社会学 A (2)	社会学 B (2)	
		人類学 A (2)	人類学 B (2)	心理学 A (2)	心理学 B (2)	地理学 A (2)	地理学 B (2)	生活と物理 A (2)	生活と物理 B (2)	
	学問の基礎	自然の数理 A (2)	自然の数理 B (2)	生活と物理 A (2)	生活と物理 B (2)	エネルギーの科学 A (2)	エネルギーの科学 B (2)	物質の科学 A (2)	物質の科学 B (2)	
		環境の科学 A (2)	環境の科学 B (2)	地球の科学 A (2)	地球の科学 B (2)	生物学 A (2)	生物学 B (2)	天文学 A (2)	天文学 B (2)	
		自然科学概論 A (2)	自然科学概論 B (2)	自然誌 A (2)	自然誌 B (2)	物理学実験講義 A (2)	物理学実験講義 B (2)	生物学実験講義 A (2)	生物学実験講義 B (2)	
		化学実験講義 A (2)	化学実験講義 B (2)	地球科学実験講義 A (2)	地球科学実験講義 B (2)	数理・情報実習講義 A (2)	数理・情報実習講義 B (2)	天文学実習講義 A (2)	天文学実習講義 B (2)	
		地域文化研究 I A (2)	地域文化研究 I B (2)	地域文化研究 II A (2)	地域文化研究 II B (2)	多文化共生論 A (2)	多文化共生論 B (2)	百人一首の文化史 A (2)	百人一首の文化史 B (2)	
		日本の昔話 A (2)	日本の昔話 B (2)	日本文学文化と風土 A (2)	日本文学文化と風土 B (2)	日本の詩歌 A (2)	日本の詩歌 B (2)	西欧文学 A (2)	西欧文学 B (2)	
		現代日本文学 A (2)	現代日本文学 B (2)	地域史 (日本) A (2)	地域史 (日本) B (2)	国際比較論 A (2)	国際比較論 B (2)	アジアの文学 (2)	アジアの古典 (2)	
		国際関係入門 (2)	地域と生活 (2)	国際キャリア概論 (2)	留学のすすめ (2)	海外研修 I (2)	海外研修 II (2)	海外実習 I (2)	海外実習 II (2)	
		短期海外実習 I (1)	短期海外実習 II (1)	短期海外実習 III (1)	短期海外実習 IV (1)	短期海外実習 I (1)	短期海外実習 II (1)	短期海外実習 III (1)	短期海外実習 IV (1)	
		日本国憲法 (2)	ベーシック・マーケティング (2)	流通入門 (2)	基礎会计学 (2)	企業会計 (2)				
	キャリア・市民形成	スポーツ健康科学実技 I A (1)	スポーツ健康科学実技 I B (1)	スポーツ健康科学実技 II A (1)	スポーツ健康科学実技 II B (1)	スポーツ健康科学講義 I (2)				
		スポーツ健康科学講義 II A (2)	スポーツ健康科学講義 II B (2)	スポーツ健康科学演習 I (2)	情報化社会と人間 (2)	キャリア開発・マネジメント論 A (2)	キャリア開発・マネジメント論 B (2)	企業のしくみ (2)	企業家論 (2)	
		社会貢献活動入門 (2)	公務員論 (2)	テクニカルライティング (2)	アカデミックライティング (2)	地球環境論 (2)	インターンシップ入門 (2)	ボランティア活動入門 (2)		
		総合 I A (2)	総合 I B (2)	総合 II A (2)	総合 II B (2)	総合 III A (2)	総合 III B (2)	総合 IV A (2)	総合 IV B (2)	
総合 V A (2)		総合 V B (2)	総合 VI A (2)	総合 VI B (2)	総合 VII A (2)	総合 VII B (2)	総合 VIII A (2)	総合 VIII B (2)		
総合 IX A (2)		総合 IX B (2)	全学総合 I A (2)	全学総合 I B (2)	全学総合 II A (2)	全学総合 II B (2)	首都東京を学ぶ (2)			
留学支援科目	英語特別教育科目	English for Academic Purposes I A Listening/Speaking (2)	English for Academic Purposes I B Reading/Writing (2)	English for Academic Purposes II A Listening/Speaking (2)	English for Academic Purposes II B Reading/Writing (2)	Pre-Study Abroad College Study Skills (1)	Pre-Study Abroad Basic Academic Writing (1)	Business English Communication (2)		
	必修科目 (8)	English Communication A (1)	English for Tourism Industry I (1)	English Communication B (1)	English for Tourism Industry II (1)	Reading and Vocabulary A (1)	English Tourism Projects (1)	Reading and Vocabulary B (1)	Applied Reading (1)	
外国語系教育科目 (14)	選択必修科目 (3)	中国語 I (1)	中国語 II (1)	中国語 III (1)	ドイツ語 I (1)	ドイツ語 II (1)	ドイツ語 III (1)	フランス語 I (1)	フランス語 II (1)	
		スペイン語 I (1)	スペイン語 II (1)	ハングル I (1)	ハングル II (1)					
		Basic Writing (1)	Academic Writing I (1)	Hospitality English (1)	Test Leader (1)	Academic Writing II (1)	Academic Reading (1)	Cultural Studies (1)	中国語 IV (1)	ドイツ語 IV (1)
	選択科目 (3)	スペイン語 IV (1)	中国語圏の言語と文化 (1)	中国語入門 I B (1)	中国語入門 II (1)	中国語圏の言語と文化 (1)	中国語入門 I A (1)	中国語入門 II (1)	観光の中国語 I A (1)	観光の中国語 I B (1)
		フランス語 IV (1)	中国語圏の言語と文化 (1)	観光の中国語 II (1)						

◆ 2019 年度入学生用 国際観光学科 教育課程表（専攻領域） ◆

		第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
専攻領域	学部共通必修科目 (14)	観光基礎演習	(2)	国際観光研究Ⅰ	(2)	国際観光研究Ⅱ	(2)	国際観光研究Ⅳ	(2)	
		観光学概論	(2)			国際観光研究Ⅲ	(2)	国際観光研究Ⅴ	(2)	
	分野別 必修科目 (4)	観光産業分野	旅行産業論	(2)						
		観光政策分野	ホスピタリティ概論	(2)						
	分野別 選択 必修 科目 (52)	観光 産業 分野	観光計画概論	(2)	観光行政・政策論	(2)				
			旅行業法論	(2)	海外観光資源Ⅰ	(2)	旅行業法・約款の実際	(2)		
			旅行業関連約款	(2)	海外観光資源Ⅱ	(2)	観光交通論	(2)		
			国内観光資源	(2)	海外実務	(2)	海上交通・クルーズ経営論	(2)		
			国内運賃料金	(2)	国際航空運賃	(2)	国際交通論	(2)		
			サービス・マネジメント	(2)	旅行企画論	(2)	観光PR論	(2)		
ホスピタリティ産業論			(2)	旅行事業経営論	(2)	NTO 戦略論	(2)			
宿泊産業概論			(2)	募集型企画旅行演習	(2)	リーダーシップ実践演習	(2)			
食品衛生論			(2)	観光安全・リスクマネジメント論	(2)	グローバルリストトップマネジメント研修	(2)			
				運輸産業論	(2)	ホテル開発論	(2)			
				航空経営論	(2)	女将・総支配人論	(2)			
				観光マーケティング	(2)	温泉総論	(2)			
				海外ツーリズム論	(2)	ホスピタリティ施設開発論	(2)			
				インバウンド・ツーリズム事業論	(2)	ホスピタリティ関連法規	(2)			
				ツーリズム演習Ⅰ	(2)	酒類総論	(2)			
				ツーリズム演習Ⅱ	(2)	カウンター接客論	(2)			
				ホテル経営概論	(2)	プライダル事業論	(2)			
				ホスピタリティ人的資源論	(2)	葬祭ビジネス論	(2)			
				旅館・リゾート経営論	(2)	リラクゼーション・ホスピタリティ論	(2)			
				ホスピタリティ・プロモーション	(2)	イベント企画論	(2)			
				ホスピタリティ計数管理	(2)	エンターテインメント・ビジネス	(2)			
				観光ファイナンス	(2)	スポーツ・マネジメント	(2)			
				温泉旅館経営実務Ⅰ	(2)	美術館・博物館学	(2)			
				温泉旅館経営実務Ⅱ	(2)	美術館・博物館経営論	(2)			
				サービス課外実習Ⅰ	(2)					
				サービス課外実習Ⅱ	(2)					
				Eアラインサービスマネジメント	(2)					
				グローバルディストリビューションシステム論	(2)					
				グローバルディストリビューションシステム実習Ⅰ	(2)					
				グローバルディストリビューションシステム実習Ⅱ	(2)					
				Eアラインサービス実習	(2)					
				F & B ビジネス経営論	(2)					
				F & B ビジネスマネジメント演習	(2)					
				チェーン・オペレーション	(2)					
				メニュー開発論	(2)					
				ブランドマネジメント	(2)					
				ラグジュアリー・ビジネス論	(2)					
				フードプロセッシング	(2)					
				エグゼクティブ演習Ⅰ	(2)					
				エグゼクティブ演習Ⅱ	(2)					
				ホスピタリティ実務演習	(2)					
				セレモニー経営論	(2)					
				セレモニー・マナー	(2)					
				総合ホスピタリティ演習	(2)					
				ウェブマーケティング	(2)					
				サービスイノベーション論	(2)					
				サービス介助技法	(2)					
				鉄道経営論	(2)					
				観光実学演習Ⅰ	(3)	観光実学演習Ⅲ	(3)	観光実学演習Ⅴ	(3)	
				観光実学演習Ⅱ	(3)	観光実学演習Ⅳ	(3)	観光実学演習Ⅵ	(3)	
			観光 政策 分野	地方自治法	(2)	地方自治論	(2)	地域再生論	(2)	
				余暇・レクリエーション論	(2)	観光まちづくり概論	(2)	地域価値創造論	(2)	
				地域観光論	(2)	MICE 論	(2)			
				観光開発計画論	(2)	観光施設デザイン論	(2)			
				地域マーケティング論	(2)	自然公園・保護論	(2)			
				ペットツーリズム論	(2)	文化遺産地域振興論	(2)			
				官民連携観光開発論	(2)					
				観光法制度論	(2)					
				民法	(2)					
				商法	(2)					
				観光・環境経済学	(2)					
				公共経営論	(2)					
				景観・緑地論	(2)					
				環境政策概論	(2)					
				観光交流論	(2)					
				インバウンド政策概論	(2)					
				自然地理学	(2)					
				サステナブル・ツーリズム	(2)					
				エコツーリズム	(2)					
				観光行動論	(2)					
			NPO/NGO 論	(2)						
			観光調査・予測論	(2)	空港・航空政策論	(2)				
			地域財政と観光	(2)						

※斜体は社会人入学、国内旅行業務取扱管理者資格保有者のみ1年次より受講可

			第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
専攻領域	分野別 選択 必修 科目 (52)	共通	ミクロ経済学Ⅰ	(2)	ミクロ経済学Ⅱ	(2)	経営分析論	(2)	観光通訳技法Ⅱ	(2)
			情報演習	(2)	リーダーシップ論	(2)	コスト管理論	(2)	卒業論文	(4)
経済学入門	(2)		観光統計学	(2)	中小企業論	(2)				
法律概論	(2)		財務諸表論	(2)	IR事業論	(2)				
情報社会システム論	(2)		簿記会計論	(2)	不動産学	(2)				
			経営戦略・組織論	(2)	観光のリスクマネジメント	(2)				
			観光コンサルタント論	(2)	福祉観光論	(2)				
			起業論	(2)	社会心理学	(2)				
			消費者と市場	(2)	世界遺産論	(2)				
			不動産関連法	(2)	ヨーロッパの宗教と文化	(2)				
		観光イノベーション・テクノロジー	(2)	地域研究	(2)					
		観光の歴史と文化	(2)	観光メディア実習	(2)					
		観光名所の成り立ち	(2)	観光映像実習	(2)					
		日本美術史	(2)	観光通訳技法Ⅰ	(2)					
		西洋美術史	(2)	観光文化論	(2)					
		日本の宗教と伝統文化	(2)	マクロ経済学Ⅱ	(2)					
		コンテンツ・ポップカルチャー観光論	(2)							
		観光歴史演習	(2)							
		ヨーロッパの歴史と言語	(2)							
		マクロ経済学Ⅰ	(2)							
		観光社会学	(2)							
		歴史と観光	(2)	観光行動モデル	(2)					
	選択科目	観光フィールドワークⅠ	(2)	観光フィールドワークⅡ	(2)					
		国際観光特別研究Ⅰ	(2)	国際観光特別研究Ⅱ	(2)	国際観光学研修Ⅰ	(2)	国際観光学研修Ⅱ	(2)	
		海外調査実習Ⅰ	(1)	海外調査実習Ⅱ	(1)	観光調査実習Ⅰ	(1)	観光調査実習Ⅱ	(1)	
		観光学特殊講義Ⅰ	(2)	観光学特殊講義Ⅱ	(2)	観光学特殊講義Ⅲ	(2)	観光学特殊講義Ⅳ	(2)	
		インターンシップⅠ	(1)	インターンシップⅡ	(1)	インターンシップⅢ	(1)	インターンシップⅣ	(1)	
		海外インターンシップⅠ	(1)	海外インターンシップⅡ	(1)	海外インターンシップⅢ	(1)	海外インターンシップⅣ	(1)	
		日本の企業社会	(2)	日本の政治と経済	(2)					
		キャリアデザインⅠ	(2)	キャリアデザインⅡ	(2)	キャリアデザインⅢ	(2)			

◆ 2019 年度入学生用 国際観光学科 教育課程表 (基盤教育科目 外国人留学生用) ◆

教育課程表と履修方法について

		第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
基盤教育 (20)	哲学・思想 (2)	哲学A	(2)	哲学B	(2)	哲学史A	(2)	哲学史B	(2)
		倫理学基礎論A	(2)	倫理学基礎論B	(2)	応用倫理学A	(2)	応用倫理学B	(2)
	科学思想史A	(2)	科学思想史B	(2)	宗教学I A	(2)	宗教学I B	(2)	
	宗教学II A	(2)	宗教学II B	(2)	地球倫理A	(2)	地球倫理B	(2)	
	論理学A	(2)	論理学B	(2)	井上円了と東洋大学A	(2)	井上円了と東洋大学B	(2)	
	東洋思想	(2)	ロジカルシンキング入門	(2)	クリティカルシンキング入門	(2)			
	学問の基礎	美術史A	(2)	美術史B	(2)	音楽学A	(2)	音楽学B	(2)
		歴史の諸問題A	(2)	歴史の諸問題B	(2)	経済学A	(2)	経済学B	(2)
		統計学A	(2)	統計学B	(2)	法学A	(2)	法学B	(2)
		政治学A	(2)	政治学B	(2)	社会学A	(2)	社会学B	(2)
		人類学A	(2)	人類学B	(2)	心理学A	(2)	心理学B	(2)
		地理学A	(2)	地理学B	(2)				
		自然の数理A	(2)	自然の数理B	(2)	生活と物理A	(2)	生活と物理B	(2)
		エネルギーの科学A	(2)	エネルギーの科学B	(2)	物質の科学A	(2)	物質の科学B	(2)
		環境の科学A	(2)	環境の科学B	(2)	地球の科学A	(2)	地球の科学B	(2)
		生物学A	(2)	生物学B	(2)	天文学A	(2)	天文学B	(2)
		自然科学概論A	(2)	自然科学概論B	(2)	自然誌A	(2)	自然誌B	(2)
		物理学実験講義A	(2)	物理学実験講義B	(2)	生物学実験講義A	(2)	生物学実験講義B	(2)
		化学実験講義A	(2)	化学実験講義B	(2)	地球科学実験講義A	(2)	地球科学実験講義B	(2)
		数理・情報実習講義A	(2)	数理・情報実習講義B	(2)	天文学実習講義A	(2)	天文学実習講義B	(2)
		自然科学演習A	(2)	自然科学演習B	(2)				
国際人の形成	地域文化研究I A	(2)	地域文化研究I B	(2)	地域文化研究II A	(2)	地域文化研究II B	(2)	
	地域文化研究II A	(2)	地域文化研究II B	(2)	国際教育論A	(2)	国際教育論B	(2)	
	多文化共生論A	(2)	多文化共生論B	(2)	百人一首の文化史A	(2)	百人一首の文化史B	(2)	
	日本の昔話A	(2)	日本の昔話B	(2)	日本文学文化と風土A	(2)	日本文学文化と風土B	(2)	
	日本の詩歌A	(2)	日本の詩歌B	(2)	西欧文学A	(2)	西欧文学B	(2)	
	現代日本文学A	(2)	現代日本文学B	(2)	地域史(日本)A	(2)	地域史(日本)B	(2)	
	地域史(東洋)A	(2)	地域史(東洋)B	(2)	地域史(西洋)A	(2)	地域史(西洋)B	(2)	
	国際比較論A	(2)	国際比較論B	(2)	アジアの文学	(2)	アジアの古典	(2)	
	国際関係入門	(2)	地域と生活	(2)	国際キャリア概論	(2)	留学のすすめ	(2)	
	海外研修I	(2)	海外研修II	(2)	海外実習I	(2)	海外実習II	(2)	
	短期海外研修I	(1)	短期海外研修II	(1)	短期海外研修III	(1)	短期海外研修IV	(1)	
	短期海外実習I	(1)	短期海外実習II	(1)	短期海外実習III	(1)	短期海外実習IV	(1)	
	日本事情I A	(2)	日本事情I B	(2)	日本事情II A	(2)	日本事情II B	(2)	
	日本の文化と社会	(2)							
キャリア・市民形成	日本国憲法	(2)	ベーシック・マーケティング	(2)	流通入門	(2)	基礎会計学	(2)	
	企業会計	(2)	日本事情III A	(2)	日本事情III B	(2)			
	スポーツ健康科学実技I A	(1)	スポーツ健康科学実技I B	(1)	スポーツ健康科学実技II A	(1)	スポーツ健康科学実技II B	(1)	
	スポーツ健康科学実技II A	(1)	スポーツ健康科学実技II B	(1)	スポーツ健康科学講義I	(2)			
	スポーツ健康科学講義II A	(2)	スポーツ健康科学講義II B	(2)	スポーツ健康科学演習I	(2)	情報化社会と人間	(2)	
	情報倫理	(2)	コンピュータ・リテラシー	(2)	社会人基礎力入門講義	(2)	社会人基礎力実践講義	(2)	
	キャリアデベロップメント論A	(2)	キャリアデベロップメント論B	(2)	企業のしくみ	(2)	企業家論	(2)	
社員貢献活動入門	(2)	公務員論	(2)	テクニカルライティング	(2)	アカデミックライティング	(2)		
地球環境論	(2)	インターンシップ入門	(2)	ボランティア活動入門	(2)				
総合・学際	総合I A	(2)	総合I B	(2)	総合II A	(2)	総合II B	(2)	
	総合III A	(2)	総合III B	(2)	総合IV A	(2)	総合IV B	(2)	
	総合V A	(2)	総合V B	(2)	総合VI A	(2)	総合VI B	(2)	
	総合VII A	(2)	総合VII B	(2)	総合VIII A	(2)	総合VIII B	(2)	
	総合IX A	(2)	総合IX B	(2)	全学総合I A	(2)	全学総合I B	(2)	
	全学総合II A	(2)	全学総合II B	(2)	首都東京を学ぶ	(2)			
留学支援	英語特別教育科目	English for Academic Purposes I A Listening/Speaking	(2)	English for Academic Purposes I B Reading/Writing	(2)	English for Academic Purposes II A Listening/Speaking	(2)	English for Academic Purposes II B Reading/Writing	(2)
		Pre-Study Abroad College Study Skills	(1)	Pre-Study Abroad Basic Academic Writing	(1)	Pre-Study Abroad Academic Essay Writing	(1)	Business English Communication	(2)
外国語系教育科目 (18)	必修科目 (14)	日本語I A	(1)	English for Tourism Industry I	(1)				
		日本語I B	(1)	English for Tourism Industry II	(1)				
		日本語II A	(1)	English Tourism Projects	(1)				
		日本語II B	(1)	Applied Reading	(1)				
		日本語III	(1)						
		日本語IV	(1)						
		English Communication A	(1)						
	English Communication B	(1)							
	Reading and Vocabulary A	(1)							
	Reading and Vocabulary B	(1)							
	選択科目 (4)	日本語総合演習A	(1)	日本語総合演習B	(1)	観光の日本語A	(1)	観光の日本語B	(1)
		Basic Writing	(1)	Hospitality English	(1)	中国語翻訳・通訳技法I	(1)	中国語IV	(1)
		Academic Writing I	(1)	Test Leader	(1)	中国語翻訳・通訳技法II	(1)	ハンガールIV	(1)
		Academic Writing II	(1)	Academic Reading	(1)	中国語入門I A	(1)	フランス語IV	(1)
Cultural Studies		(1)	Cultural Studies	(1)	中国語入門I B	(1)	ドイツ語IV	(1)	
			観光の中国語I A	(1)	中国語入門II	(1)	スペイン語IV	(1)	
			観光の中国語I B	(1)	観光の中国語II	(1)	中国語圏の言語と文化	(1)	
		観光の中国語II	(1)			ドイツ語圏の言語と文化	(1)		
						フランス語圏の言語と文化	(1)		
						スペイン語圏の言語と文化	(1)		
						ハンガール圏の言語と文化	(1)		
選択必修科目 ※	母語の言語は履修できません。履修・単位修得した場合は、卒業単位として認められません。また、履修する場合は、レベル順(I⇒II⇒III⇒IV)に履修してください。			中国語I	(1)	ドイツ語I	(1)		
				中国語II	(1)	ドイツ語II	(1)		
				フランス語I	(1)	スペイン語I	(1)		
				フランス語II	(1)	スペイン語II	(1)		
				ハンガールI	(1)				
			ハンガールII	(1)					
				中国語III	(1)	ドイツ語III	(1)		
				フランス語III	(1)	スペイン語III	(1)		
				ハンガールIII	(1)				

※外国人留学生については、「選択必修科目」区分における単位要件はありません。

◆◆ 2019 年度入学生用 国際観光学科教育課程表（リスト形式）および履修モデル ◆◆

次ページからの表は、P.49～52の教育課程表（カリキュラム）をより分かりやすく体系化し、科目のナンバリングや履修上の注意点などを明示した一覧表になっています。

また、専攻領域科目については、各コースの履修モデルとなる科目を参考表記していますので、カリキュラムマップとともに4年間の学修・履修計画に活用してください。

表の見方（サンプル：専攻領域）

卒業要件	区分	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	履修モデル					履修上の注意／備考	
						ツーリズム	エグゼクティブマネジメント	サービスコミュニケーション(A:エアライン系)	観光プロフェッショナル	観光政策		
専攻領域	学部共通必修科目 14単位以上	SEM336	国際観光研究Ⅱ	3	2	必修	必修	必修	必修	必修		
		SEM424	国際観光研究Ⅳ	4	2	必修	必修	必修	必修	必修		
		SEM425	国際観光研究Ⅴ	4	2	必修	必修	必修	必修	必修		
	分野別必修科目 4単位以上	観光産業分野	TOS107	旅行産業論	1	2	必修	必修	必修	必修	○	
			TOS105	ホスピタリティ概論	1	2	必修	必修	必修	必修	○	
	分野別必修科目 4単位以上	観光政策分野	TOS106	観光計画概論	1	2	◆	◆	◆	◆	必修	
			TOS277	観光行政・政策論	2～4	2	◆	◆	◆	◆	必修	
	分野別選択必修科目 52単位以上	観光産業分野	TOS104	旅行業法論	1	2	◎	◆	◆A	◆	◆	
			TOS135	旅行業関連約款	1	2	◎	◆	◆A	◆	◆	
			TOS136	国内観光資源	1	2	◎	◆	◆A	◆	◆	
			TOS109	国内運賃料金	1	2	◎	◆	◆A	◆	◆	
			TOS137	サービス・マネジメント	1	2	○	○	○	◆	◆	

基盤教育科目・専攻領域科目に共通で記載している項目

- ・卒業要件：卒業に必要な要件を表しています。
- ・区分：科目区分と卒業するために必要な条件を表しています。
- ・科目ナンバリング：科目ナンバリング番号を表しています。（P.19 参照）
- ・科目名：科目の名称です。
- ・配当学年：その科目を履修することができる学年を表しています。
（ただし、原則、自分の学年より下の配当学年の科目は履修可能です）
- ・単位数：その科目を修得した場合の単位数を表しています。
- ・履修上の注意／備考：その科目を履修するうえでの注意事項や補足説明を表しています。

専攻領域科目のみに記載している項目

- ・履修モデル：各コースの履修モデル科目を以下の記号で表しています。
 - 必修…学部共通あるいはコース共通の必修科目です。
 - ◎……履修を強く推奨する科目です。
 - ……履修を推奨する科目です。
 - ◆……上記以外に履修可能な科目です。
 - A……サービスコミュニケーションコース（エアライン特進専修）は、記号に関わらず履修を強く推奨する科目です。

＜基盤教育科目＞

卒業要件	区分	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	履修上の注意 ／備考
基盤教育 合計 20単位 以上	哲学・思想 2単位以上	PHE101	哲学A	1～4	2	
		PHE102	哲学B	1～4	2	
		PHE103	哲学史A	1～4	2	
		PHE104	哲学史B	1～4	2	
		PHE105	倫理学基礎論A	1～4	2	
		PHE106	倫理学基礎論B	1～4	2	
		PHE107	応用倫理学A	1～4	2	
		PHE108	応用倫理学B	1～4	2	
		HIT101	科学思想史A	1～4	2	
		HIT102	科学思想史B	1～4	2	
		RES101	宗教学ⅠA	1～4	2	
		RES102	宗教学ⅠB	1～4	2	
		RES103	宗教学ⅡA	1～4	2	
		RES104	宗教学ⅡB	1～4	2	
		INR101	地球倫理A	1～4	2	
		INR102	地球倫理B	1～4	2	
		PHE109	論理学A	1～4	2	
		PHE110	論理学B	1～4	2	
		TYS101	井上円了と東洋大学A	1～4	2	
		TYS102	井上円了と東洋大学B	1～4	2	
		CIB101	東洋思想	1～4	2	
		PHE111	ロジカルシンキング入門	1～4	2	
		PHE112	クリティカルシンキング入門	1～4	2	
		FAH101	美術史A	1～4	2	
		FAH102	美術史B	1～4	2	
		ASA101	音楽学A	1～4	2	
		ASA102	音楽学B	1～4	2	
		HSG101	歴史の諸問題A	1～4	2	
		HSG102	歴史の諸問題B	1～4	2	
		ECT101	経済学A	1～4	2	
		ECT102	経済学B	1～4	2	
		ECS101	統計学A	1～4	2	
		ECS102	統計学B	1～4	2	
		LAW101	法学A	1～4	2	
		LAW102	法学B	1～4	2	
		POL101	政治学A	1～4	2	
		POL102	政治学B	1～4	2	
		SOC201	社会学A	1～4	2	
	SOC202	社会学B	1～4	2		
	CUA101	人類学A	1～4	2		
	CUA102	人類学B	1～4	2		
	GGR101	地理学A	1～4	2		
	GGR102	地理学B	1～4	2		
	PSY101	心理学A	1～4	2		
	PSY102	心理学B	1～4	2		
	MAT101	自然の数理A	1～4	2		
	MAT102	自然の数理B	1～4	2		
	PHY101	生活と物理A	1～4	2		
	PHY102	生活と物理B	1～4	2		
	ENE101	エネルギーの科学A	1～4	2		
	ENE102	エネルギーの科学B	1～4	2		
	BSC101	物質の科学A	1～4	2		
	BSC102	物質の科学B	1～4	2		
	ENV101	環境の科学A	1～4	2		
ENV102	環境の科学B	1～4	2			
EAP101	地球の科学A	1～4	2			
EAP102	地球の科学B	1～4	2			
BAB101	生物学A	1～4	2			
BAB102	生物学B	1～4	2			
AST101	天文学A	1～4	2			
AST102	天文学B	1～4	2			
SCE101	自然科学概論A	1～4	2			

卒業要件	区分	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	履修上の注意 ／備考
基盤教育 合計 20 単位 以上	(学問の基礎)	SCE102	自然科学概論B	1～4	2	
		CAS101	自然誌A	1～4	2	
		CAS102	自然誌B	1～4	2	
		PHY103	物理学実験講義A	1～4	2	
		PHY104	物理学実験講義B	1～4	2	
		BAB103	生物学実験講義A	1～4	2	
		BAB104	生物学実験講義B	1～4	2	
		BSC103	化学実験講義A	1～4	2	
		BSC104	化学実験講義B	1～4	2	
		EAP103	地球科学実験講義A	1～4	2	
		EAP104	地球科学実験講義B	1～4	2	
		SOF101	数理・情報実習講義A	1～4	2	
		SOF102	数理・情報実習講義B	1～4	2	
		AST103	天文学実習講義A	1～4	2	
		AST104	天文学実習講義B	1～4	2	
		SCE201	自然科学演習A	2～4	2	
		SCE202	自然科学演習B	2～4	2	
		ARS101	地域文化研究ⅠA	1～4	2	
		ARS102	地域文化研究ⅠB	1～4	2	
		ARS103	地域文化研究ⅡA	1～4	2	
	ARS104	地域文化研究ⅡB	1～4	2		
	ARS105	地域文化研究ⅢA	1～4	2		
	ARS106	地域文化研究ⅢB	1～4	2		
	INR103	国際教育論A	1～4	2		
	INR104	国際教育論B	1～4	2		
	INR105	多文化共生論A	1～4	2		
	INR106	多文化共生論B	1～4	2		
	JLT101	百人一首の文化史A	1～4	2		
	JLT102	百人一首の文化史B	1～4	2		
	JLT103	日本の昔話A	1～4	2		
	JLT104	日本の昔話B	1～4	2		
	JLT105	日本文学文化と風土A	1～4	2		
	JLT106	日本文学文化と風土B	1～4	2		
	JLT107	日本の詩歌A	1～4	2		
	JLT108	日本の詩歌B	1～4	2		
	EUL101	西欧文学A	1～4	2		
	EUL102	西欧文学B	1～4	2		
	JLT109	現代日本文学A	1～4	2		
	JLT110	現代日本文学B	1～4	2		
	JPH101	地域史(日本)A	1～4	2		
	JPH102	地域史(日本)B	1～4	2		
	HAA101	地域史(東洋)A	1～4	2		
	HAA102	地域史(東洋)B	1～4	2		
	HEA101	地域史(西洋)A	1～4	2		
	HEA102	地域史(西洋)B	1～4	2		
	GGR301	国際比較論A	1～4	2		
	GGR302	国際比較論B	1～4	2		
	LIG101	アジアの文学	1～4	2		
	LIG102	アジアの古典	1～4	2		
	INR107	国際関係入門	1～4	2		
	TOS101	地域と生活	1～4	2		
	IHR101	国際キャリア概論	1～4	2		
	IHR102	留学のすすめ	1～4	2		
IHR103	海外研修Ⅰ	1～4	2			
IHR104	海外研修Ⅱ	1～4	2			
IHR105	海外実習Ⅰ	1～4	2			
IHR106	海外実習Ⅱ	1～4	2			
IHR107	短期海外研修Ⅰ	1～4	1			
IHR108	短期海外研修Ⅱ	1～4	1			
IHR109	短期海外研修Ⅲ	1～4	1			
IHR110	短期海外研修Ⅳ	1～4	1			
IHR111	短期海外実習Ⅰ	1～4	1			
IHR112	短期海外実習Ⅱ	1～4	1			
IHR113	短期海外実習Ⅲ	1～4	1			
	国際人の形成					

卒業要件	区分	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	履修上の注意 ／備考
基盤教育 合計 20単位 以上	(国際人の形成)	IHR114	短期海外実習Ⅳ	1～4	1	
		JLE105	日本の文化と社会	1～4	2	外国人留学生科目
		HUG101	日本事情ⅠA	1～4	2	外国人留学生科目
		HUG102	日本事情ⅠB	1～4	2	外国人留学生科目
		JLN101	日本事情ⅡA	1～4	2	外国人留学生科目
		JLN102	日本事情ⅡB	1～4	2	外国人留学生科目
	キャリア・市民形成	PUL101	日本国憲法	1～4	2	
		CME101	ベーシック・マーケティング	1～4	2	
		CME102	流通入門	1～4	2	
		ACC101	基礎会計学	1～4	2	
		ACC102	企業会計	1～4	2	
		HSS101	スポーツ健康科学実技ⅠA	1～4	1	
		HSS102	スポーツ健康科学実技ⅠB	1～4	1	
		HSS103	スポーツ健康科学実技ⅡA	1～4	1	
		HSS104	スポーツ健康科学実技ⅡB	1～4	1	
		HSS105	スポーツ健康科学実技ⅢA	1～4	1	
		HSS106	スポーツ健康科学実技ⅢB	1～4	1	
		HSS107	スポーツ健康科学講義Ⅰ	1～4	2	
		HSS108	スポーツ健康科学講義ⅡA	1～4	2	
		HSS109	スポーツ健康科学講義ⅡB	1～4	2	
		HSS110	スポーツ健康科学演習Ⅰ	1～4	2	
		THI101	情報化社会と人間	1～4	2	
		THI102	情報倫理	1～4	2	
		THI103	コンピュータ・リテラシー	1～4	2	
		CIV101	社会人基礎力入門講義	1～4	2	
		CIV102	社会人基礎力実践講義	1～4	2	
		CIV103	キャリアデベロップメント論A	1～4	2	
		CIV104	キャリアデベロップメント論B	1～4	2	
		MAN101	企業のしくみ	1～4	2	
		MAN102	企業家論	1～4	2	
		SWS101	社会貢献活動入門	1～4	2	
		CIV201	公務員論	1～4	2	
		ECD101	テクニカルライティング	1～4	2	
		ECD102	アカデミックライティング	1～4	2	
		EPS101	地球環境論	1～4	2	
		CIV105	インターンシップ入門	1～4	2	
		CIV106	ボランティア活動入門	1～4	2	
		SOC101	日本事情ⅢA	1～4	2	外国人留学生科目
	SOC102	日本事情ⅢB	1～4	2	外国人留学生科目	
	総合・学際	ITS101	総合ⅠA	1～4	2	
		ITS102	総合ⅠB	1～4	2	
		ITS103	総合ⅡA	1～4	2	
		ITS104	総合ⅡB	1～4	2	
		ITS105	総合ⅢA	1～4	2	
		ITS106	総合ⅢB	1～4	2	
		ITS107	総合ⅣA	1～4	2	
		ITS108	総合ⅣB	1～4	2	
		ITS109	総合ⅤA	1～4	2	
		ITS110	総合ⅤB	1～4	2	
		ITS111	総合ⅥA	1～4	2	
ITS112		総合ⅥB	1～4	2		
ITS113		総合ⅦA	1～4	2		
ITS114		総合ⅦB	1～4	2		
ITS115		総合ⅧA	1～4	2		
ITS116		総合ⅧB	1～4	2		
ITS117		総合ⅨA	1～4	2		
ITS118		総合ⅨB	1～4	2		
ITS119		全学総合ⅠA	1～4	2		
ITS120		全学総合ⅠB	1～4	2		
ITS121		全学総合ⅡA	1～4	2		
ITS122		全学総合ⅡB	1～4	2		
ITS123		首都東京を学ぶ	1～4	2		
留学支援	英語特別 教育科目	ENG101	English for Academic Purposes I A Listening/Speaking	1～4	2	
		ENG102	English for Academic Purposes I B Reading/Writing	1～4	2	

卒業要件	区分		科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	履修上の注意 ／備考		
基盤教育 合計 20 単位 以上	(留学支援)	(英語特別 教育科目)	ENG103	English for Academic Purposes I A Listening/Speaking	1～4	2			
			ENG104	English for Academic Purposes II B Reading/Writing	1～4	2			
			ENG201	Pre-Study Abroad College Study Skills	1～4	1			
			ENG202	Pre-Study Abroad Basic Academic Writing	1～4	1			
			ENG203	Pre-Study Abroad Academic Essay Writing	1～4	1			
			SUS101	Business English Communication	1～4	2			
	外国語系 教育科目	必修	一般学生 8 単位	ENG190	English Communication A	1	1		
				ENG191	English Communication B	1	1		
				ENG192	Reading and Vocabulary A	1	1		
				ENG193	Reading and Vocabulary B	1	1		
				ENG282	English for Tourism Industry I	2	1		
				ENG283	English for Tourism Industry II	2	1		
				ENG285	English Tourism Projects	2	1		
				ENG286	Applied Reading	2	1		
				留学生 14 単位	JPN141	日本語 I A	1	1	外国人留学生科目
					JPN142	日本語 I B	1	1	外国人留学生科目
					JPN143	日本語 II A	1	1	外国人留学生科目
					JPN144	日本語 II B	1	1	外国人留学生科目
		JPN145	日本語 III		1	1	外国人留学生科目		
		JPN146	日本語 IV		1	1	外国人留学生科目		
		選択 必修	一般学生 3 単位 以上	CHI131	中国語 I	1	1	履修条件： ・母語の言語は 履修不可。 ・同一言語で、 レベル順(I⇒ II⇒III)に履修 すること。	
				CHI132	中国語 II	1	1		
				GER127	ドイツ語 I	1	1		
				GER128	ドイツ語 II	1	1		
				FRA129	フランス語 I	1	1		
				FRA130	フランス語 II	1	1		
				SPA105	スペイン語 I	1	1		
				SPA106	スペイン語 II	1	1		
				KOR117	ハンガル I	1	1		
				KOR118	ハンガル II	1	1		
				CHI247	中国語 III	2	1		
				GER229	ドイツ語 III	2	1		
		FRA227	フランス語 III	2	1				
		SPA207	スペイン語 III	2	1				
		KOR213	ハンガル III	2	1				
		選択	一般学生 3 単位 以上 留学生 4 単位 以上	ENG194	Basic Writing	1	1		履修条件： ・母語の言語は 履修不可。 ・同一言語で I・ II・III の単位を 修得しているこ と。
				ENG195	Academic Writing I	1	1		
				ENG287	Hospitality English	2～4	1		
				ENG288	Test Leader	2～4	1		
	ENG284			Academic Writing II	2～4	1			
	ENG289			Academic Reading	2～4	1			
	ENG290			Cultural Studies	2～4	1			
	CHI248			中国語 IV	2～4	1			
	GER230			ドイツ語 IV	2～4	1			
	FRA228			フランス語 IV	2～4	1			
SPA208	スペイン語 IV			2～4	1				
KOR214	ハンガル IV			2～4	1				
CHI246	中国語圏の言語と文化	2～4	1						
GER228	ドイツ語圏の言語と文化	2～4	1						
FRA226	フランス語圏の言語と文化	2～4	1						
SPA206	スペイン語圏の言語と文化	2～4	1						
KOR212	ハンガル圏の言語と文化	2～4	1						
CHI249	中国語翻訳・通訳技法 I	2～4	1						
CHI250	中国語翻訳・通訳技法 II	2～4	1						
CHI133	中国語入門 I A	2～4	1						
CHI134	中国語入門 I B	2～4	1						
CHI135	中国語入門 II	2～4	1						
CHI251	観光の中国語 I A	2～4	1						
CHI252	観光の中国語 I B	2～4	1						
CHI253	観光の中国語 II	2～4	1						
JPN253	日本語総合演習 A	2	1	外国人留学生科目					
JPN254	日本語総合演習 B	2	1	外国人留学生科目					
JPN255	観光の日本語 A	2	1	外国人留学生科目					
JPN256	観光の日本語 B	2	1	外国人留学生科目					

<専攻領域科目>

【履修モデル凡例】

必修：学部共通あるいはコース共通の必修科目 ◎：履修を強く推奨する科目 ○：履修を推奨する科目 ◆：左記以外に履修可能な科目
A：サービスコミュニケーションコース（エアライン特進専修）は記号に関わらず履修を強く推奨する科目

卒業要件	区分	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	履修モデル					履修上の注意 備考
						観光	エグゼクティブマネジメント	サービスコミュニケーション(A:エアライン系)	観光プロフェッショナル	観光政策	
学部共通必修科目 14単位以上		SEM134	観光基礎演習	1	2	必修	必修	必修	必修	必修	
		TOS102	観光学概論	1	2	必修	必修	必修	必修	必修	
		SEM237	国際観光研究Ⅰ	2	2	必修	必修	必修	必修	必修	
		SEM335	国際観光研究Ⅱ	3	2	必修	必修	必修	必修	必修	
		SEM336	国際観光研究Ⅲ	3	2	必修	必修	必修	必修	必修	
		SEM424	国際観光研究Ⅳ	4	2	必修	必修	必修	必修	必修	
		SEM425	国際観光研究Ⅴ	4	2	必修	必修	必修	必修	必修	
分野別必修科目 4単位以上	観光産業分野	TOS107	旅行産業論	1	2	必修	必修	必修	必修	○	
	観光政策分野	TOS105	ホスピタリティ概論	1	2	必修	必修	必修	必修	○	
専攻領域	分野別選択必修科目 52単位以上	TOS106	観光計画概論	1	2	◆	◆	◆	◆	◆	必修
		TOS277	観光行政・政策論	2～4	2	◆	◆	◆	◆	◆	必修
		TOS104	旅行業法論	1	2	○	◆	◆A	◆	◆	
		TOS135	旅行業関連約款	1	2	○	◆	◆A	◆	◆	
		TOS136	国内観光資源	1	2	○	◆	◆A	◆	◆	
		TOS109	国内運賃料金	1	2	○	◆	◆A	◆	◆	
		TOS137	サービス・マネジメント	1	2	○	○	○	◆	◆	
		TOS112	ホスピタリティ産業論	1	2	○	○	○	◆	◆	
		TOS286	宿泊産業概論	1	2	◆	○	○	◆	◆	
		TOS114	食品衛生論	1	2	◆	○	○	◆	◆	
		TOS278	海外観光資源Ⅰ	2	2	○	◆	◆A	◆	◆	
		TOS279	海外観光資源Ⅱ	2	2	○	◆	◆A	◆	◆	
		TOS217	海外実務	2	2	○	◆	◆A	◆	◆	
		TOS218	国際航空運賃	2	2	○	◆	◆A	◆	◆	
		TOS201	旅行企画論	2	2	○	◆	◆	◆	◆	
		TOS204	旅行事業経営論	2	2	○	◆	◆	◆	◆	
		TOS330	募集型企画旅行演習	2	2	○	-	◆A	-	-	
		TOS280	観光安全・リスクマネジメント論	2	2	○	◆	○A	◆	◆	
		TOS281	運輸産業論	2	2	○	◆	○	◆	◆	
		TOS203	航空経営論	2	2	○	◆	○A	◆	◆	
		TOS282	観光マーケティング	2	2	○	◆	○	○	◆	
		TOS283	海外ツーリズム論	2	2	○	◆	○	◆	◆	
		TOS284	インバウンド・ツーリズム事業論	2	2	○	◆	○	◆	◆	
		TOS221	ツーリズム演習Ⅰ	2	2	○	◆	◆	◆	◆	
		TOS222	ツーリズム演習Ⅱ	2	2	○	◆	◆	◆	◆	
		TOS207	ホテル経営概論	2	2	◆	◎	○	◆	◆	
		TOS287	ホスピタリティ人的資源論	2	2	◆	◎	○	◆	◆	
		TOS229	旅館・リゾート経営論	2	2	◆	○	○	◆	◆	
		TOS338	ホスピタリティ・プロモーション	2	2	◆	◆	○	◆	◆	
		TOS224	ホスピタリティ計数管理	2	2	◆	◎	◆	◆	◆	
		TOS251	観光ファイナンス	2	2	◆	◎	◆	◆	◆	
		TOS288	温泉旅館経営実務Ⅰ	2	2	◆	◆	○	◆	◆	
		TOS289	温泉旅館経営実務Ⅱ	2	2	◆	◆	○	◆	◆	
		TOS205	サービス課外実習Ⅰ	2	2	◆	◆	○	◆	◆	
		TOS206	サービス課外実習Ⅱ	2	2	◆	◆	○	◆	◆	
		TOS290	エアラインサービスマネジメント	2	2	○	◆	○A	◆	◆	
		TOS214	グローバルディストリビューションシステム論	2	2	○	◆	◆A	◆	◆	
		TOS216	グローバルディストリビューションシステム実務演習Ⅰ	2	2	○	◆	◆A	◆	◆	
		TOS291	グローバルディストリビューションシステム実務演習Ⅱ	2	2	○	◆	◆A	◆	◆	
		TOS292	エアラインサービス実習	2	2	◆	◆	◆A	◆	◆	
		TOS208	F&Bビジネス経営論	2	2	◆	○	○	◆	◆	
		TOS232	F&Bビジネスマネジメント演習	2	2	◆	◆	○	◆	◆	
		TOS293	チェーン・オペレーション	2	2	◆	◆	○	◆	◆	
		TOS294	メニュー開発論	2	2	◆	○	○	◆	◆	
		TOS228	ブランドマネジメント	2	2	◆	○	○	◆	◆	
TOS295	ラグジュアリー・ビジネス論	2	2	◆	○	○A	◆	◆			
TOS223	フードプロセッシング	2	2	◆	◆	○	◆	◆			
TOS296	エグゼクティブ演習Ⅰ	2	2	◆	○	◆	◆	◆			
TOS297	エグゼクティブ演習Ⅱ	2	2	◆	○	◆	◆	◆			
TOS298	ホスピタリティ実務演習	2	2	◆	◆	○	◆	◆			
TOS225	セレモニー経営論	2	2	◆	◆	○	◆	◆			

【履修モデル凡例】

必修：学部共通あるいはコース共通の必修科目 ◎：履修を強く推奨する科目 ○：履修を推奨する科目 ◆：左記以外に履修可能な科目
 A：サービスコミュニケーションコース（エアライン特進専修）は記号に関わらず履修を強く推奨する科目

卒業要件	区分	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	履修モデル					履修上の注意 備考	
						ツーリズム	エグゼクティブ マネジメント	サービス コミュニケーション (A:エアライン系)	観光 プロフェッショナル	観光 政策		
専攻領域	分野別 選択必修科目 52単位以上	観光産業 分野	TOS299	セレモニー・マナー	2	2	◆	◆	○	◆	◆	
			TOS230	総合ホスピタリティ演習	2	2	◆	◆	○	◆	◆	
			TOS253	ウェブマーケティング	2	2	◆	○	○	◆	◆	
			TOS231	サービスイノベーション論	2	2	◆	◆	○	◆	◆	
			TOS2a1	サービス介助技法	2	2	◆	◆	○A	◆	◆	
			TOS285	鉄道経営論	2~3	2	○	◆	○	◆	◆	
			TOS331	旅行業法・約款の実際	3	2	○	◆	◆	◆	◆	
			TOS332	観光交通論	3	2	○	◆	○A	◆	◆	
			TOS304	海上交通・クルーズ経営論	3	2	○	◆	○	◆	◆	
			TOS333	国際交通論	3	2	○	◆	○A	◆	◆	
			TOS334	観光PR論	3	2	○	◆	◆	◆	◆	
			TOS335	NTO戦略論	3	2	○	◆	◆	◆	◆	
			TOS336	リーダーシップ実践演習	3	2	○	○	○A	○	○	
			TOS337	グローバルツーリズムトップマネジメント研修	3	2	○	◆	◆	◆	◆	
			TOS314	ホテル開発論	3	2	◆	◎	○	◆	◆	
			TOS339	女将・総支配人論	3	2	◆	○	○	◆	◆	
			TOS340	温泉総論	3	2	◆	◆	○	◆	◆	
			TOS317	ホスピタリティ施設開発論	3	2	◆	○	◆	◆	◆	
			TOS313	ホスピタリティ関連法規	3	2	◆	◎	◆	◆	◆	
			TOS341	酒類総論	3	2	◆	◆	○	◆	◆	
			TOS310	カウンター接客論	3	2	◆	◆	○	◆	◆	
			TOS342	プライダル事業論	3	2	◆	◆	○	◆	◆	
			TOS343	葬祭ビジネス論	3	2	◆	◆	○	◆	◆	
			TOS316	リラクゼーション・ホスピタリティ論	3	2	◆	◆	○	◆	◆	
			TOS322	イベント企画論	3	2	◆	◆	◆	◆	◆	
			TOS344	エンターテインメント・ビジネス	3	2	◆	◆	◆	◆	◆	
			SPS305	スポーツ・マネジメント	3	2	◆	◆	◆	◆	◆	
			CAS304	美術館・博物館学	3	2	○	◆	◆	◆	◆	
			CAS305	美術館・博物館経営論	3	2	○	◆	◆	◆	◆	
			TOS138	観光実学演習Ⅰ	1	3	-	-	-	○	-	
			TOS139	観光実学演習Ⅱ	1	3	-	-	-	○	-	
			TOS2a2	観光実学演習Ⅲ	2	3	-	-	-	○	-	
			TOS2a3	観光実学演習Ⅳ	2	3	-	-	-	○	-	
			TOS345	観光実学演習Ⅴ	3	3	-	-	-	○	-	
			TOS402	観光実学演習Ⅵ	3	3	-	-	-	○	-	
		PUL216	地方自治法	1	2	◆	◆	◆	◆	○		
		TOS140	余暇・レクリエーション論	1	2	◆	◆	◆	◆	○		
		PUL217	地方自治論	2	2	◆	◆	◆	◆	○		
		TOS237	観光まちづくり概論	2	2	◆	◆	◆	◆	○		
		TOS233	地域観光論	2	2	◆	◆	◆	◆	○		
		TOS2a4	観光開発計画論	2	2	◆	◆	◆	◆	○		
		TOS2a5	地域マーケティング論	2	2	◆	◆	◆	◆	○		
		TOS261	ペットツーリズム論	2	2	◆	◆	◆	◆	○		
		TOS2a6	官民連携観光開発論	2	2	◆	◆	◆	◆	○		
		TOS2a7	観光法制度論	2	2	◆	○	◆	◆	◎		
		CIL257	民法	2	2	◆	◎	◆	◆	○		
		CIL258	商法	2	2	◆	◎	◆	◆	○		
		PPF215	観光・環境経済学	2	2	◆	◆	◆	◆	○		
		MAN264	公共経営論	2	2	◆	◆	◆	◆	○		
		TOS238	景観・緑地論	2	2	◆	◆	◆	◆	○		
EPS215	環境政策概論	2	2	◆	◆	◆	◆	○				
TOS2a8	観光交流論	2	2	◆	◆	◆	◆	○				
TOS2a9	インバウンド政策概論	2	2	◆	◆	◆	◆	○				
GGR203	自然地理学	2	2	◆	◆	◆	◆	○				
TOS235	サステナブル・ツーリズム	2	2	○	○	○A	○	○				
TOS2b1	エコツーリズム	2	2	◆	◆	◆	◆	○				
TOS236	観光行動論	2	2	◆	◆	◆	◆	○				
MAN265	NPO/NGO論	2	2	◆	◆	◆	◆	○				
TOS240	観光調査・予測論	2~3	2	◆	○	◆	◆	○				
PPF326	地域財政と観光	2~3	2	◆	◆	◆	◆	○				
TOS346	空港・航空政策論	2~3	2	○	◆	◆A	◆	○				
TOS347	地域再生論	3	2	◆	◆	◆	◆	○				

【履修モデル凡例】

必修：学部共通あるいはコース共通の必修科目 ◎：履修を強く推奨する科目 ○：履修を推奨する科目 ◆：左記以外に履修可能な科目
 A：サービスコミュニケーションコース（エアライン特進専修）は記号に関わらず履修を強く推奨する科目

卒業要件	区分	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	履修モデル					履修上の注意 ／備考	
						ツーリズム	エグゼクティブマネジメント	サービスコミュニケーション(A:エアライン系)	観光プロフェッショナル	観光政策		
専攻領域	観光政策分野	TOS348	地域価値創造論	3	2	◆	◆	◆	◆	○		
		TOS349	MICE論	3	2	◆	◆	◆	◆	○		
		TOS350	観光施設デザイン論	3	2	◆	◆	◆	◆	○		
		EPS303	自然公園・保護論	3	2	◆	◆	◆	◆	○		
		TOS321	文化遺産地域振興論	3	2	◆	◆	◆	◆	○		
		ECT152	経済学入門	1	2	○	◆	◆	◆	○		
		ECT151	ミクロ経済学Ⅰ	1	2	◆	◆	◆	◆	○		
		FUL123	法律概論	1	2	○	○	◆	◆	○		
		THI110	情報社会システム論	1	2	○	◆	○	○	○		
		THI109	情報演習	1	2	○	○	◆	○	○		
	分業別 選択必修科目 (52単位以上)	共通	TOS141	観光社会学	1～2	2	◆	◆	○	◆	○	
			TOS117	歴史と観光	1～2	2	○	◆	◆	◆	◆	
			CIL259	不動産関連法	2	2	◆	◎	◆	◆	◆	
			ECT229	ミクロ経済学Ⅱ	2	2	◆	◆	◆	◆	○	
			ECT230	マクロ経済学Ⅰ	2	2	◆	◆	◆	◆	○	
			EUL205	ヨーロッパの歴史と言語	2	2	◆	◆	◆	◆	◆	
			FAH201	日本美術史	2	2	○	◆	◆	◆	◆	
			FAH202	西洋美術史	2	2	○	◆	◆	◆	◆	
			MAN267	経営戦略・組織論	2	2	◆	○	◆	◆	○	
			MAN268	起業論	2	2	◆	○	◆	◆	◆	
			MAN269	消費者と市場	2	2	◆	◆	○	◆	◆	
			MAN266	リーダーシップ論	2	2	○	○	○A	○	○	
			TOS249	財務諸表論	2	2	◆	◎	◆	◆	○	
			TOS248	簿記会計論	2	2	◆	◎	◆	◆	○	
			TOS247	観光コンサルタント論	2	2	◆	◆	◆	◆	○	
			TOS2b3	観光イノベーション・テクノロジー	2	2	○	◆	◆	◆	◆	
			TOS2b2	観光統計学	2	2	◆	◆	◆	◆	○	
			TOS245	観光の歴史と文化	2	2	○	◆	◆	◆	◆	
			TOS2b4	観光名所の成り立ち	2	2	○	◆	◆	◆	◆	
			TOS243	日本の宗教と伝統文化	2	2	○	◆	◆	◆	◆	
			TOS2b5	コンテンツ・ポップカルチャー観光論	2	2	◆	◆	◆	◆	◆	
			TOS2b6	観光歴史演習	2	2	○	◆	◆	◆	◆	
			TOS255	観光行動モデル	2～3	2	◆	◆	◆	◆	○	
			ARS309	地域研究	3	2	◆	◆	◆	◆	◆	
			CIL327	不動産学	3	2	◆	○	◆	◆	◆	
			ECT319	マクロ経済学Ⅱ	3	2	◆	◆	◆	◆	○	
			ENG339	観光通訳技法Ⅰ	3	2	◆	◆	○	◆	◆	
			MAN347	コスト管理論	3	2	◆	◎	◆	◆	◆	
			MAN348	中小企業論	3	2	◆	◆	◆	◆	◆	
			MAN349	IR事業論	3	2	◆	◆	◆	◆	◆	
			RES301	ヨーロッパの宗教と文化	3	2	◆	◆	◆	◆	◆	
			SOP207	社会心理学	3	2	◆	◆	◆	◆	◆	
			TOS2b7	経営分析論	3	2	◆	◎	◆	◆	◆	
			TOS351	観光のリスクマネジメント	3	2	○	◆	○	◆	◆	
			TOS353	観光文化論	3	2	◆	◆	◆	◆	○	
			TOS306	福祉観光論	3	2	◆	◆	○	◆	◆	
			TOS352	世界遺産論	3	2	◆	◆	◆	◆	◆	
			WIS301	観光メディア実習	3	2	◆	◆	◆	◆	◆	
			WIS302	観光映像実習	3	2	◆	◆	◆	◆	◆	
			ENG405	観光通訳技法Ⅱ	4	2	◆	◆	○	◆	◆	
	THE472	卒業論文	4	4	◎	◎	◆	◆	◎			
	選択科目		TOS118	観光フィールドワークⅠ	1～4	2	◆	◆	◆	◆	◆	
TOS2b8			観光フィールドワークⅡ	1～4	2	◆	◆	◆	◆	◆		
TOS142			国際観光特別研究Ⅰ	1～4	2	◆	◆	◆	◆	◆		
TOS2b9			国際観光特別研究Ⅱ	1～4	2	◆	◆	◆	◆	◆		
IHR136			国際観光学研修Ⅰ	1～4	2	◆	◆	◆	◆	◆		
IHR137			国際観光学研修Ⅱ	1～4	2	◆	◆	◆	◆	◆		
TOS143			海外調査実習Ⅰ	1～4	1	◆	◆	◆	◆	◆		
TOS2c1			海外調査実習Ⅱ	1～4	1	◆	◆	◆	◆	◆		
TOS122			観光調査実習Ⅰ	1～4	1	◆	◆	◆	◆	◆		
TOS2c2			観光調査実習Ⅱ	1～4	1	◆	◆	◆	◆	◆		
TOS144			観光学特殊講義Ⅰ	1～4	2	◆	◆	◆	◆	◆		

教育課程表と履修方法について

【履修モデル凡例】

必修：学部共通あるいはコース共通の必修科目 ◎：履修を強く推奨する科目 ○：履修を推奨する科目 ◆：左記以外に履修可能な科目
A：サービスコミュニケーションコース（エアライン特進専修）は記号に関わらず履修を強く推奨する科目

卒業要件	区分	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	履修モデル					履修上の注意／備考
						ツーリズム	エグゼクティブマネジメント	サービスコミュニケーション(A:エアライン系)	観光プロフェッショナル	観光政策	
(専攻領域)	(選択科目)	TOS264	観光学特殊講義Ⅱ	1～4	2	◆	◆	◆	◆	◆	
		TOS354	観光学特殊講義Ⅲ	1～4	2	◆	◆	◆	◆	◆	
		TOS403	観光学特殊講義Ⅳ	1～4	2	◆	◆	◆	◆	◆	
		ECD110	インターンシップⅠ	1～4	1	◆	◆	◆	◆	◆	
		ECD202	インターンシップⅡ	1～4	1	◆	◆	◆	◆	◆	
		ECD305	インターンシップⅢ	1～4	1	◆	◆	◆	◆	◆	
		ECD402	インターンシップⅣ	1～4	1	◆	◆	◆	◆	◆	
		ECD111	海外インターンシップⅠ	1～4	1	◆	◆	◆	◆	◆	
		ECD203	海外インターンシップⅡ	1～4	1	◆	◆	◆	◆	◆	
		ECD306	海外インターンシップⅢ	1～4	1	◆	◆	◆	◆	◆	
		ECD403	海外インターンシップⅣ	1～4	1	◆	◆	◆	◆	◆	
		ARS132	日本の企業社会	1～4	2	◆	◆	◆	◆	◆	外国人留学生は履修を推奨します。
		ARS133	日本の政治と経済	1～4	2	◆	◆	◆	◆	◆	外国人留学生は履修を推奨します。
		ECD112	キャリアデザインⅠ	1	2	◆	◆	◆	◆	◆	
		ECD204	キャリアデザインⅡ	2	2	◆	◆	◆	◆	◆	
ECD307	キャリアデザインⅢ	3	2	◆	◆	◆	◆	◆			

◆◆ <開放領域> 他学部他学科開放科目 ◆◆

開講学部・学科	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	履修上の注意／備考
文学部	—	GER301	ドイツ語講読と文化A	3～4	1
文学部	—	GER302	ドイツ語講読と文化B	3～4	1
文学部	—	GER303	ドイツ語コミュニケーションと文化A	3～4	1
文学部	—	GER304	ドイツ語コミュニケーションと文化B	3～4	1
文学部	—	FRA301	フランス語講読と文化A	3～4	1
文学部	—	FRA302	フランス語講読と文化B	3～4	1
文学部	—	FRA303	フランス語コミュニケーションと文化A	3～4	1
文学部	—	FRA304	フランス語コミュニケーションと文化B	3～4	1
文学部	—	CHI301	中国語講読と文化A	3～4	1
文学部	—	CHI302	中国語講読と文化B	3～4	1
文学部	—	CHI303	中国語コミュニケーションと文化A	3～4	1
文学部	—	CHI304	中国語コミュニケーションと文化B	3～4	1
文学部	東洋思想文化学科	CIB108	インド思想史A	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CIB109	インド思想史B	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CIB112	仏教思想概論A	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CIB113	仏教思想概論B	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	LIN107	サンスクリット語ⅠA	1～4	1
文学部	東洋思想文化学科	LIN108	サンスクリット語ⅠB	1～4	1
文学部	東洋思想文化学科	LIN109	ヒンディー語A	1～4	1
文学部	東洋思想文化学科	LIN110	ヒンディー語B	1～4	1
文学部	東洋思想文化学科	LIN205	サンスクリット語ⅡA	2～4	1
文学部	東洋思想文化学科	LIN206	サンスクリット語ⅡB	2～4	1
文学部	東洋思想文化学科	LIN207	パーリ語A	2～4	1
文学部	東洋思想文化学科	LIN208	パーリ語B	2～4	1
文学部	東洋思想文化学科	LIN209	チベット語A	2～4	1
文学部	東洋思想文化学科	LIN210	チベット語B	2～4	1
文学部	東洋思想文化学科	RES107	宗教学概論A	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	RES108	宗教学概論B	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CIB117	イスラーム概論	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	SOC163	現代社会に生きる仏教A	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	SOC164	現代社会に生きる仏教B	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	RES109	キリスト教概論	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CIB118	インド現代思想	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CIB119	現代のインド	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CIB122	中国学概論A	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CIB123	中国学概論B	1～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CIB303	中国哲学史A	3～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CIB304	中国哲学史B	3～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CHL301	中国文学史A	3～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CHL302	中国文学史B	3～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CHL303	中国現代文学史A	3～4	2
文学部	東洋思想文化学科	CHL304	中国現代文学史B	3～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT151	日本文学の歴史(上代)	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT152	日本文学の歴史(中古)	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT153	日本文学の歴史(中世)	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT154	日本文学の歴史(近世)	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT155	日本文学の歴史(近代)	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT156	日本文学の歴史(現代)	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	LIG109	比較文学Ⅰ	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	LIG110	比較文学Ⅱ	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	LIE225	世界の文学文化と日本Ⅰ	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	LIE226	世界の文学文化と日本Ⅱ	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	CHL209	世界の文学文化と日本Ⅲ	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	CHL210	世界の文学文化と日本Ⅳ	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	CUA122	伝統行事を学ぶ	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	FAH107	日本美術の世界	1～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT266	万葉文化の世界	2～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT267	平安朝文化の世界	2～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT268	室町・戦国文化の世界	2～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT269	江戸文化の世界	2～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT270	近現代文化の諸問題	2～4	2
文学部	日本文学文化学科	JLT271	古典籍に親しむ	2～4	2
文学部	日本文学文化学科	CUA210	日本民俗学の諸問題	2～4	2
文学部	史学科	HSG301	歴史学概論	3～4	2
文学部	史学科	JPH205	日本史学特講A	2～4	2
文学部	史学科	JPH206	日本史学特講B	2～4	2

開講学部・学科		科目ナン バリング	科目名	配当学年	単位数	履修上の注意／備考
文学部	史学科	HAA205	東洋史学特講 A	2～4	2	
文学部	史学科	HAA206	東洋史学特講 B	2～4	2	
文学部	史学科	HEA205	西洋史学特講 A	2～4	2	
文学部	史学科	HEA206	西洋史学特講 B	2～4	2	
文学部	史学科	ARC201	考古学研究 A	2～4	2	
文学部	史学科	ARC202	考古学研究 B	2～4	2	
文学部	史学科	JPH107	古文書学 I A	1～4	2	
文学部	史学科	JPH108	古文書学 I B	1～4	2	
文学部	史学科	JPH109	古文書学 II A	1～4	2	
文学部	史学科	JPH110	古文書学 II B	1～4	2	
文学部	教育学科	EDU106	生涯学習概論 I	1～4	2	
文学部	教育学科	SNE101	特別支援教育概論 I	1～4	2	
文学部	教育学科	JPH113	社会文化史(日本)	1～4	2	
文学部	教育学科	HEA105	社会文化史(西洋)	1～4	2	
文学部	教育学科	EDU109	比較政策論	1～4	2	
文学部	教育学科	SOE103	比較社会論	1～4	2	
文学部	教育学科	HIT103	アメリカ思想史	1～4	2	
文学部	教育学科	EDU110	生涯学習概論 II	1～4	2	
文学部	教育学科	EDU111	女性問題と学習	1～4	2	
文学部	教育学科	EDU112	社会教育課題研究 I	1～4	2	
文学部	教育学科	EDU113	社会教育課題研究 II	1～4	2	
文学部	教育学科	EDU114	グローバル化と学習	1～4	2	
文学部	教育学科	EDU115	家庭教育論	1～4	2	
文学部	教育学科	EDU201	社会教育計画論 I	1～4	2	
文学部	教育学科	EDU202	社会教育計画論 II	1～4	2	
文学部	教育学科	SNE103	特別支援教育概論 II	1～4	2	
文学部	国際文化コミュニケーション学科	JLT158	日本文化表象 I A	1～4	2	
文学部	国際文化コミュニケーション学科	JLT159	日本文化表象 I B	1～4	2	
文学部	国際文化コミュニケーション学科	EUL105	ドイツ文化・文学研究 A	1～4	2	
文学部	国際文化コミュニケーション学科	EUL106	ドイツ文化・文学研究 B	1～4	2	
文学部	国際文化コミュニケーション学科	EUL107	フランス文化・文学研究 A	1～4	2	
文学部	国際文化コミュニケーション学科	EUL108	フランス文化・文学研究 B	1～4	2	
経済学部	—	GER207	検定ドイツ語 A	2～4	1	
経済学部	—	GER208	検定ドイツ語 B	2～4	1	
経済学部	—	GER209	時事ドイツ語 A	2～4	1	
経済学部	—	GER210	時事ドイツ語 B	2～4	1	
経済学部	—	FRA109	検定フランス語 A	1～4	1	
経済学部	—	FRA110	検定フランス語 B	1～4	1	
経済学部	—	FRA207	上級フランス語 A	2～4	1	
経済学部	—	FRA208	上級フランス語 B	2～4	1	
経済学部	—	CHI215	検定中国語 A	2～4	1	
経済学部	—	CHI216	検定中国語 B	2～4	1	
経済学部	—	CHI217	コミュニケーション中国語 A	2～4	1	
経済学部	—	CHI218	コミュニケーション中国語 B	2～4	1	
経済学部	経済学科	EDE203	経済哲学 A	2～4	2	
経済学部	経済学科	EDE204	経済哲学 B	2～4	2	
経済学部	経済学科	PPF307	政治経済学 A	3～4	2	
経済学部	経済学科	PPF308	政治経済学 B	3～4	2	
経済学部	経済学科	ECP305	人口経済学 A	3～4	2	
経済学部	経済学科	ECP306	人口経済学 B	3～4	2	
経済学部	経済学科	PPF301	医療経済学 A	3～4	2	
経済学部	経済学科	PPF302	医療経済学 B	3～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECP309	ヨーロッパ経済論 A	1～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECP310	ヨーロッパ経済論 B	1～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECP201	日本経済論 A	2～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECP202	日本経済論 B	2～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECH301	西欧経済史 A	2～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECH302	西欧経済史 B	2～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECP209	経済発展論 A	2～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECP210	経済発展論 B	2～4	2	
経済学部	国際経済学科	PPF311	国際公共経済 A	2～4	2	
経済学部	国際経済学科	PPF312	国際公共経済 B	2～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECT401	上級国際経済学 A	2～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECT402	上級国際経済学 B	2～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECP107	海外経済研修 I	1～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECP108	海外経済研修 II	1～4	2	
経済学部	国際経済学科	ECP109	海外経済研修 III	1～4	2	
経済学部	国際経済学科	MAN203	グローバルビジネス論	2～4	2	

開講学部・学科		科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	履修上の注意／備考
経済学部	総合政策学科	ECP114	総合政策特講Ⅰ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP115	総合政策特講Ⅱ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP116	総合政策特講Ⅲ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP117	総合政策特講Ⅳ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	EDE101	社会経済思想史A	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	EDE102	社会経済思想史B	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	EPS102	自然と環境学	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	EPS103	自然環境の理解	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	SPS101	健康科学	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ARS112	比較文化社会Ⅰ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ARS113	比較文化社会Ⅱ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ARS114	比較文化社会Ⅲ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ARS115	比較文化社会Ⅳ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ARS116	比較政策分析Ⅰ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ARS117	比較政策分析Ⅱ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ARS118	比較政策分析Ⅲ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ARS119	比較政策分析Ⅳ	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP118	社会的企業	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP119	非営利組織	1～4	2	
経済学部	総合政策学科	PFP203	地域分析	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP216	現代ビジネスの基礎	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP217	政策デザイン	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP218	総合政策特講Ⅴ	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP219	総合政策特講Ⅵ	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP226	総合政策特講Ⅶ	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP227	総合政策特講Ⅷ	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP221	ワーク・ライフ・バランスの総合政策	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP222	現代の産業と企業	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	PFP204	公民連携論	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	PFP205	行政システム	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	EPS201	環境経済学A	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	EPS202	環境経済学B	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	EPS203	エネルギー経済学A	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	EPS204	エネルギー経済学B	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP223	情報社会と企業	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	ECP224	情報社会と産業	2～4	2	
経済学部	総合政策学科	PFP313	財政学	3～4	2	
経済学部	総合政策学科	PFP314	地方財政論	3～4	2	
経済学部	総合政策学科	PFP316	公共選択	3～4	2	
経済学部	総合政策学科	MOF310	地域金融論	3～4	2	
経営学部	経営学科	MAN113	意思決定論	1～4	2	
経営学部	経営学科	MAN213	コーポレートガバナンス論	2～4	2	
経営学部	経営学科	MAN219	国際経営基礎論	2～4	2	
経営学部	経営学科	MOF210	経営財務論	2～4	2	
経営学部	経営学科	MAN314	国際経営論	3～4	2	
経営学部	経営学科	MAN324	企業評価論	3～4	2	
経営学部	経営学科	MAN350	コンプライアンス経営論	3～4	2	
経営学部	経営学科	MOF320	投資決定論	3～4	2	
経営学部	マーケティング学科	CME205	サービス・マーケティング論	2～4	2	
経営学部	マーケティング学科	CME207	ファッション・マーケティング論	2～4	2	
経営学部	マーケティング学科	CME208	現代のファッション・マーケティング	2～4	2	
経営学部	マーケティング学科	CME217	リレーションシップ・マーケティング	2～4	2	
経営学部	会計ファイナンス学科	MAN146	海外経営研修	1～4	2	
経営学部	会計ファイナンス学科	MOF101	金融論	1～4	2	
経営学部	会計ファイナンス学科	MOF102	金融システム論	1～4	2	
経営学部	会計ファイナンス学科	MOF104	ファイナンス論	1～4	2	
経営学部	会計ファイナンス学科	ACC211	経営監査論	2～4	2	
経営学部	会計ファイナンス学科	ACC212	会計監査論	2～4	2	
経営学部	会計ファイナンス学科	MOF312	証券投資論	2～4	2	
経営学部	経営学科	GBC303	ビジネス・ネゴシエーションA	3～4	2	
経営学部	経営学科	GBC304	ビジネス・ネゴシエーションB	3～4	2	
経営学部	経営学科	GBC305	ビジネス・ニュース英語A	3～4	2	
経営学部	経営学科	GBC306	ビジネス・ニュース英語B	3～4	2	
法学部	法律学科	FUL107	法哲学A	1～4	2	
法学部	法律学科	FUL108	法哲学B	1～4	2	
法学部	法律学科	FUL109	法思想史A	1～4	2	
法学部	法律学科	FUL110	法思想史B	1～4	2	
法学部	法律学科	POL201	政治学原論A	2～4	2	

開講学部・学科		科目ナン バリング	科目名	配当学年	単位数	履修上の注意／備考
法学部	法律学科	POL202	政治学原論B	2～4	2	
法学部	企業法学科	CRL101	刑法Ⅰ(総論)A	2～4	2	
法学部	企業法学科	CRL102	刑法Ⅰ(総論)B	2～4	2	
法学部	企業法学科	INR201	Fundamental Concepts of International Politics A	2～4	2	
法学部	企業法学科	INR202	Fundamental Concepts of International Politics B	2～4	2	
法学部	企業法学科	INR203	Fundamental Concepts of Peace Studies A	2～4	2	
法学部	企業法学科	INR204	Fundamental Concepts of Peace Studies B	2～4	2	
法学部	企業法学科	ILA203	International Law A	2～4	2	
法学部	企業法学科	ILA204	International Law B	2～4	2	
法学部	企業法学科	INR303	International Relations A	3～4	2	
法学部	企業法学科	INR304	International Relations B	3～4	2	
法学部	企業法学科	CIV302	Business Communication I A	3～4	2	
法学部	企業法学科	CIV303	Business Communication I B	3～4	2	
法学部	企業法学科	CIV401	Business Communication II A	4	2	
法学部	企業法学科	CIV402	Business Communication II B	4	2	
法学部	法律学科	LIN111	語学研修A	1～4	2	
法学部	法律学科	LIN112	語学研修B	1～4	2	
社会学部	社会学科	SOC208	家族社会学A	1～4	2	
社会学部	社会学科	SOE104	教育社会学A	1～4	2	
社会学部	社会学科	SOC311	国際社会学A	1～4	2	
社会学部	社会学科	SOC312	国際社会学B	1～4	2	
社会学部	社会学科	STS203	社会統計学	2～4	2	
社会学部	社会学科	GGR303	風土と人間・社会A	2～4	2	
社会学部	社会学科	GGR304	風土と人間・社会B	2～4	2	
社会学部	社会文化システム学科	ARS203	日本社会文化論A	2～4	2	
社会学部	社会文化システム学科	ARS204	日本社会文化論B	2～4	2	
社会学部	社会文化システム学科	SOC215	犯罪社会学A	2～4	2	
社会学部	社会文化システム学科	SOC216	犯罪社会学B	2～4	2	
社会学部	社会福祉学科	SWS107	社会福祉発達史A	1～4	2	
社会学部	社会福祉学科	SWS108	社会福祉発達史B	1～4	2	
社会学部	社会福祉学科	SWS213	社会福祉と人権	2～4	2	
社会学部	社会福祉学科	SWS307	社会福祉法制行政	2～4	2	
社会学部	社会福祉学科	SWS214	公的扶助論	2～4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	CUA110	文化人類学入門	1	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	CUA111	地域とボランティア	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	INR205	国際政治学Ⅱ	1	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	ARS214	アフリカ地域研究	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	CEP101	アジアの都市と交通	1	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	SOC278	NGO・NPO論	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	SWS219	社会政策論	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	ECP232	食料問題論	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	INR206	国際関係史	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	MOF207	国際金融論	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	ECP233	開発経済論	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	ECP325	アジア経済論	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	ECP134	農村地域開発論	1	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	CEE201	環境管理適正技術論	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	DEV201	環境システム論	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	NDD202	災害と復興	1	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	EPS207	環境社会論	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	MUD301	データベース概論	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	INN301	情報マネジメントⅡ	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	TPA301	国土・地域計画	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	CEP301	交通まちづくりの計画と政策	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	TPA306	まちづくり手法論	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	TPA203	都市計画	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	PFP317	福祉経済論	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	CIL326	企業法	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	CUA123	Participatory Development	1	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	CEP202	Cities and Transport in Asia	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	MAN119	Japanese Economy and Business	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	SOC244	Sociology of Islam	1-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	ARS211	Contemporary Japan Studies	1-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	ECP350	アジア地域研究B	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	MOF228	International Finance	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	TPA303	Housing the Poor in Asia	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	INN102	Introduction to Internet Technology	1-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	IHR201	Regional to International Issues	1-4	2	

開講学部・学科		科目ナン バリング	科目名	配当学年	単位数	履修上の注意／備考
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	SOC332	Immigration and Cross-cultural Issues	1	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	TPA304	Urban and Regional Planning in Asia	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	NDD301	Disaster Management and International Cooperation	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	DEV202	Global Water Problems	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	EPS106	Introduction to Environmental Studies	1-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	EPS301	Environmental Issues in Asia	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	HPH201	Water Supply and Sanitation for Health	1	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	SOE203	International Student Mobility	1-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	INR114	国際政治学 I	1	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	PFP208	公共経済学	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	DEV101	水資源と水環境	1	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	ENE107	エネルギー・資源論	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	NDD201	自然災害と防災	2-4	2	
国際学部	国際地域学科国際地域専攻	CEP201	社会基盤論	2-4	2	

卒業論文

◆◆卒業論文の意義◆◆

卒業論文は、講義・演習等を通じて得られた知識・技術を活用して、学術的、多角的、包括的視点から取り組みながら、特定のテーマに関して論じるものです（和文、英文いずれでも可）。但し、英文で執筆する場合は、必ずランゲージセンターおよび英語専門教員に相談してください。

大学生生活の総合的な成果であり、「学士（国際観光学）」に値する学力の有資格者であることを証明するものです。学生は、十分な準備のもと、指導教員と連携をとりながら、全力で卒業論文のための情報収集、実態解明などを行いながら、執筆を行わなければなりません。

◆◆卒業論文の評価◆◆

提出された論文に加え、執筆への取り組み姿勢、プレゼンテーションとその質疑応答、提出後の口頭試問等により総合的に評価されます。

◆◆卒業論文題目届の提出◆◆

卒業論文履修者は、6月（秋卒業予定者は4月）に「卒業論文題目届」を指導教員に提出する必要があります。これを提出しないと卒業論文を履修することができません。

卒業論文題目届には、指導教員の承認印が必要です。また、修正がある場合、12月（秋卒業予定者は6月下旬）に「卒業論文題目変更届」を提出してください。なお「卒業論文題目届」と題名が異なると、卒業論文を受理できませんので、十分注意してください。

◆◆卒業論文の提出期日および提出先◆◆

卒業論文履修者は、12月（秋卒業予定者は7月）の定められた期日、場所に卒業論文、卒業論文要旨を本人が提出しなければなりません。締切後の提出は、自動的に卒業延期となるため注意してください。なお、詳細については、学部掲示板でお知らせします。

◆◆優秀卒業論文の表彰等について◆◆

国際観光学部では、卒業論文を提出後、優秀な卒業論文の発表会を開催しています。これらの発表の中からそれぞれ最優秀論文および優秀論文を選定し、それらは卒業証書授与式において表彰状が授与されます。また、最優秀卒業論文は校友会の表彰対象論文として推薦されます。

◆◆卒業論文および要旨等の公表について◆◆

最優秀卒業論文および優秀卒業論文は学部ホームページ上に全文あるいは要旨が掲載されます。また、全員の卒業論文題目も同様にホームページ上に掲載されます。

諸資格について





社会福祉主事

社会福祉主事は、福祉事務所の相談業務を担当する職員の資格ですが、下記の「社会福祉主事の資格に関する指定科目」のうちから「3科目以上を修得」した者に任用資格が認められています。しかし、地方公務員として採用されなければ、この資格を活かすことはできません。なお、この資格を基礎とし、実務経験を持てば、児童福祉司等に任用されます。また、民間福祉施設の職員採用条件として、社会福祉主事任用資格を有することを求められることが多いです。

(1) 資格

大学において、社会福祉に関する科目を修めて卒業した者（社会福祉法第19条第1号）。

(2) 修得すべき科目

次ページ以降の社会福祉主事の資格に関する指定科目のうちから3科目以上を修得すること。社会福祉主事の資格に関する指定科目における本学開講科目のうち、いずれか1科目修得することで、当該指定科目を修得したとみなされます。但し、]がついている科目はセットで履修、修得することで1科目としてみなされます。

社会福祉主事に関する科目〈第1部学生対象〉

社会福祉主事の資格に関する指定科目	本学開講科目	社会福祉主事の資格に関する指定科目	本学開講科目
社会福祉概論	社会福祉学概論A] 社会福祉学概論B]	行政法	行政法ⅠA] 行政法ⅠB] 行政法ⅡA] 行政法ⅡB]
社会福祉事業史	社会福祉発達史A] 社会福祉発達史B]	経済学	経済学入門] 経済学A] 経済学B] 経済学入門A] 経済学入門B] 国際公共経済A] 国際公共経済B] 経済学(マクロ)] 経済学(ミクロ)] 応用マクロ経済学] 応用ミクロ経済学] 経済原論A] 経済原論B] ミクロ経済学入門] マクロ経済学入門]
社会福祉援助技術論	ソーシャルワークの基礎と専門職A] ソーシャルワークの基礎と専門職B] ソーシャルワークの理論と方法A] ソーシャルワークの理論と方法B] ソーシャルワークの理論と方法C] ソーシャルワークの理論と方法D]	社会政策	社会政策論] 社会政策A] 社会政策B]
社会福祉調査論	社会調査入門A] 社会調査法]	経済政策	経済政策A] 経済政策B]
社会福祉行政論	社会福祉法制行政]	心理学	心理学概論] 心理学A] 心理学B]
社会保障論	社会保障論] 社会保障論A] 社会保障論B]	社会学	社会学A] 社会学B] 社会学概論A] 社会学概論B]
公的扶助論	公的扶助論]	教育学	教育基礎論] 教育学概論]
児童福祉論	児童福祉論A] 児童福祉論B]	倫理学	倫理学基礎論A] 倫理学基礎論B] 応用倫理学A] 応用倫理学B] 倫理学概説A] 倫理学概説B] 倫理学概論A] 倫理学概論B]
身体障害者福祉論	障害者福祉論A] 障害者福祉論B]	医学一般	医学一般]
老人福祉論	高齢者福祉論A] 高齢者福祉論B]	介護概論	介護概論]
医療社会事業論	医療ソーシャルワーク論]		
地域福祉論	地域福祉論] 地域福祉論A] 地域福祉論B]		
法学	法学A] 法学B]		
民法	民法A] 民法B] 民法Ⅰ(総則)A] 民法Ⅰ(総則)B] 民法Ⅱ(物権)A] 民法Ⅱ(物権)B] 民法Ⅲ(債権総論)A] 民法Ⅲ(債権総論)B] 民法Ⅳ(債権各論)A] 民法Ⅳ(債権各論)B] 民法Ⅴ(親族・相続)A] 民法Ⅴ(親族・相続)B] 民法]		

(注1) ■の科目は国際観光学部の教育課程表内の開講科目です。

(注2) 学科教育課程表および専門開放科目(他学部他学科開放科目)に掲載されていない本学開講科目は自由科目で履修してください。

(注3)]がついている科目はセットで履修、修得することで1科目としてみなされます。

国際観光学部 学生支援プログラム





国際観光学部

海外研修／学部長期留学プログラム

◆◆ 海外国際観光学研修（短期研修） ◆◆

国際観光学部では、海外国際観光学研修を実施しています。この研修は、海外諸国の都市・地域に赴き、社会や文化に深く関わる観光資源および観光開発について理解を深め、語学力の向上と共に国際的な視野を養うことを目的とした学部独自のプログラムです。また、長期留学並びにインターンシップ参加への準備も担います。

研修の期間や目的、成果により履修科目や認定科目が設定されています。海外国際観光学研修に参加する場合は、事前学習として「国際観光学研修Ⅰ」を受講のうえ、海外安全講習会や各コース独自の事前研修にも参加してください。

※各研修プログラムは過去の実績および今後の計画に基づき記載されていますが、研修先および当学部の研修運営上の事情、研修先の治安あるいは最小催行人数に満たない等の場合には中止となることもあります。

※年度によって実施する研修コースは異なります。詳しくは4月のガイダンスで発表します。

※研修費は目安です。実施時期の為替レート等により変動します。

※東洋大学独自の海外留学促進奨学金があります。詳細は本学国際教育センターホームページを参照してください。

※本学部の海外研修には、他に「観光フィールドワーク」、「募集型企画旅行演習」、「エアラインサービス実習」、「海外インターンシップ」等があります。実施期間が重なることもあるため、日程を確認して申し込んでください。

研修参加に当たっての注意事項



説明会

研修に興味のある人や参加を希望する人は4月のガイダンスやコースごとに開催される説明会に参加してください。研修の具体的な内容の説明や、前年の参加者の体験談などを紹介します。

※説明会の日程は掲示、ToyoNet-G等でお知らせします。

オリエンテーション、事前・事後学習

出発までの渡航準備、現地での生活についてのオリエンテーションならびに事前学習を行います。また、帰国後は報告書作成などの事後学習や報告会を行います。

事前履修科目

研修参加希望者は、「国際観光学研修Ⅰ」(2単位)を履修(各自でWeb履修登録)してください。「国際観光学研修Ⅰ」を履修しない場合には、学部で実施する「海外安全講習会」を受講してください。

事後履修科目および単位認定

■事後履修科目

研修参加者は、研修参加直後のセメスタに「国際観光学研修Ⅱ」(2単位)を履修することができます。研修実施校から送付される成績評価、事前・事後学習の状況等を元に評価された成績が付与されます。

■単位認定科目

研修コースによっては、「外国語系教育科目」から、下記科目を単位認定により修得することができます。所定手続きを行い、教授会で承認された成績評価（T：Transfer）が付与されます。

科目名	単位数
Basic Writing	1単位
Hospitality English	1単位
Cultural Studies	1単位
一括認定単位（選択科目）	1もしくは2単位※

※研修期間によって異なります。

※英語の科目の単位認定は研修先での主たる使用言語が英語の場合に限ります。

※単位認定科目に変更が生じた場合は、別途掲示等でお知らせします。

■事後履修および単位認定科目の申請方法

- 1) ToyoNet-G から「事後履修科目申請書兼単位認定申請書」をプリントアウトし、必要事項を記入してください。
- 2) 事後履修科目および単位認定希望科目以外の Web 履修登録を終えた後、「履修登録確認表」をプリントアウトしてください。なお、その際の当該学期の履修単位数はこれらの申請科目を含め上限単位数はこれらの申請科目を含め上限単位数を超えないものとします。
- 3) 「事後履修科目申請書兼単位認定申請書」および「履修登録確認表」を申請学期の正規履修登録期間内に教務課窓口へ提出してください。
なお、「事後履修科目」は参加直後の学期のみ、「単位認定科目」は研修参加後、4 セメスタ以内の申請が認められます。

研修概要

研修コースや開講時期は年度によって変わる場合があります。

研修コースやプログラム内容の詳細は、4月のガイダンスやコースごとに開催される説明会でお知らせします。

<研修例>

義守大学（台湾）	
研修の目的	台湾南部では最大の総合大学である義守大学で、中国語を集中して学ぶと同時に、台湾の観光学の基礎を学ぶこと。
プログラムの内容（例）	月～木 午前・午後とも中国語授業に加え、文化の授業（台湾のお茶の文化など）。 金曜日と週末は見学と現地の人々との交流。
宿泊場所	学生寮
研修期間	2週間
研修費予定	200,000円
ミュンヘン大学（ドイツ）	
研修の目的	ミュンヘン大学付設のプログラムに参加することで語学力の向上を目指す。またホームステイを通じてドイツ人の生活に触れ、ヨーロッパ文化を異文化として受容する素地を得ることを目的とする。
プログラムの内容（例）	月～金：午前：ドイツ語研修 午後：ドイツ事情と観光に関連した講義と見学 週末：エクスカーション
宿泊場所	ホームステイ
研修期間	3週間
研修費予定	400,000円
カリフォルニア州立工科大学ポモナ校（アメリカ）	
研修の目的	アメリカの観光学科を持つ大学で就業体験をすること、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的とする。
プログラムの内容（例）	午前：専門ワークショップ等への参加、キャンパス内のホテル・レストランで就業体験 午後：英語授業受講 週末：エクスカーション
宿泊場所	キャンパス内ホテル
研修期間	3週間
研修費予定	560,000円
ハワイ大学モアナ校（アメリカ）	
研修の目的	世界有数の観光地であるハワイの視察を行い、ハワイの歴史と文化を学習し、一流ホテル見学およびマネージャークラスの講演会の拝聴し、実践的語学力を向上させることを目的とする。
プログラムの内容（例）	月～金：午前にハワイの文化や移民の歴史等のレクチャーを聴き、午後に英語によるアカデミック・リサーチの手法を学び、成果物としてプレゼンテーションなどを行う。週末：観光地の視察や一流ホテル見学を行う。
宿泊場所	キャンパス内の寮
研修期間	3週間
研修費予定	500,000円

国際観光学部主催

◆学部長期留学プログラム（学部協定校交換留学）◆

国際観光学部では、学部独自で海外大学との協定を締結しています。この協定校へは、全学の交換留学とは別に、国際観光学部の学生のみ交換留学が可能です。

協定校へは、東洋大学を休学することなく1学期間または1年間留学でき、留学先大学では正規課程の科目を履修及び修得することを目的とします。

単位認定については、P.88～90を参照してください。

<協定校>

平成31年4月1日現在

文藻外語大学	
名称	文藻外語大学 Wenzao Ursuline University of Languages
所在地	台湾 高雄市
周囲の環境	台湾南部の湾岸都市に位置します。自然に恵まれ、台北とは異なる独自の文化がある街です。
特徴	語学教育で著名な大学で、実用的な中国語を身につけることができます。
備考	
香港理工大学	
名称	香港理工大学 The Hong Kong Polytechnic University
所在地	香港特別行政区
周囲の環境	香港の中心街に位置する都市型キャンパスです。
特徴	ホスピタリティ教育の分野で世界の最先端とも評価される大学です。
備考	年度によっては、先方大学での授業料を支払う必要がある場合があります。説明会には必ず参加してください。
暨南大学	
名称	暨南大学 Jinan University
所在地	中国 広州市
周囲の環境	周囲には大学や研究機関が多くあります。キャンパス内に学生寮があり、勉強に集中することができます。
特徴	歴史の古い総合大学で、幅広い研究が行われています。
備考	東洋大学国際観光学研究科と連名の協定を結んでいるため、年度によっては学部での募集が行われない場合があります。

※年度によって募集が行われない場合もあります。詳細については、説明会に出席して確認してください。

テンブル大学ジャパンキャンパス学生交換プログラム

国際観光学部はテンブル大学ジャパンキャンパスと学生交換協定を締結しています。この制度により、条件を満たしている国際観光学部生はテンブル大学ジャパンキャンパスで科目を履修し、修得した単位を東洋大学の単位として認定することができます。

テンブル大学ジャパンキャンパスは本校をアメリカ・ペンシルベニア州にもつ総合大学で、文部科学省より「外国大学の日本校」と指定されており、授業はすべて英語で行われます。国際観光学部ではテンブル大学ジャパンキャンパスでの科目履修を「国内留学」として位置付け、奨励しています。

1. 履修資格

下記「a」「b」両方の条件を満たす者

- a. TOEFL PBT スコア 550 相当以上または IELTS スコア 6.0 相当以上
- b. 2年生以上、かつ、テンブル大学の計算式により算出された前年度までの GPA が 2.0 以上

- ・上記2つの条件を満たしていても、GPAの換算方法などの違いや前提科目（履修に必要な基礎分野科目）の関係で履修が認められない場合もあるので留意してください。
- ・上記条件を満たしていない方を対象とした Bridge Program もあります。

2. 履修学期（テンブル大学学年暦）

- 1) 夏学期：5月下旬～7月下旬（12週）
- 2) 秋学期：8月下旬～12月下旬（15週）
- 3) 春学期：1月中旬～4月下旬（15週）

3. 出願期間・方法

募集要項を確認すること。

詳細は学内掲示および ToyoNet-ACE にてご案内します。

4. 履修単位

テンブル大学での履修単位数と本学での同学期履修単位数の合計が、本学の指定する履修上限単位数を超えないようにしてください。

5. 単位認定

テンブル大学での履修学期終了後に発行される成績表をもとに単位認定を行います。単位が認定された際の成績評価は「T」となります。

6. その他

- ・各学期の時間割は、募集要項と同時に ToyoNet-ACE 等を通じて公開します。
- ・テンブル大学での授業料はかかりませんが、通学に伴う交通費やテキスト代等は自己負担となります。
- ・記載内容は2019年4月時点の情報であり、変更となる場合があります。詳しくは掲示板および ToyoNet-ACE を確認してください。

東洋大学と東京外国語大学の単位互換制度について

東洋大学では語学科目を中心とした多様な学習機会を拡充することを目的として、2018年度より、東京外国語大学との間において単位互換協定を締結しました。これに伴い、東京外国語大学の授業の一部を履修することが可能になりました。

ここでは、東京外国語大学の科目を履修するにあたっての条件、履修方法などを規定しています。詳細は、東京外国語大学の履修要覧・シラバスを参照するとともに、所属学部教務担当課までお問合せください。

●● 関連 HP <https://gakumu-web1.tufts.ac.jp/portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx> ●●

◆◆履修申請要領等◆◆

対象学生

学部2年次以上（ただし、原則、卒業予定の学期の履修はできません。）

履修可能単位数

学期の履修単位数の制限内かつ、卒業までに東洋大学以外の大学等で取得可能な単位数上限は60単位（入学前の単位認定も含む）。

学籍の取扱い

東京外国語大学では「特別聴講学生」として在籍することになります。

開講キャンパス

東京外国語大学府中キャンパス（所在地：〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1）

履修可能科目

所属学部教務担当課で確認してください。ただし、都合によって履修可能科目が変更になることがあります。また、本学と東京外国語大学双方の曜日時限が重複する科目や移動時間も含めて授業開始時刻に間に合わない科目を履修することはできません。

履修手続

- ①「特別聴講学生願書」を所属学部教務担当課窓口で受け取り、所定の期間内に所属学部教務担当課窓口へ提出してください。
- ②提出された「特別聴講学生願書」をもとに、東京外国語大学が受講の可否を決定します。
- ③第1回目の講義に出席し、東京外国語大学の授業担当教員へ東洋大学の学生であり、聴講申請手続き中である旨、申し出てください。
- ④受講の正式な可否については、ToyoNet-Gにてお知らせを配信しますので、確認のうえ、受講可の学生は東京外国語大学で所定の手続を行ってください。

試験

東京外国語大学の制度によります。追・再試験は原則行いません。

単位認定

東京外国語大学からの成績到着後、当該科目の単位の認定を希望する場合は、所属学部教務担当課窓口まで、「単位認定申請書」を提出してください。単位認定の可否については、教授会での審議を経て決定されます。申請が認められる場合は「T」評価として認定します。※「T」はGPA制度の対象にはなりません。



東京外国語大学入構時には本学の「学生証」を必ず携帯し、東洋大学の学生であることを示すこと。その他、東京外国語大学の学則に従い、規律ある行動をとること。

課外特別講座

◆学部統一英語試験◆

国際観光学部では、総合的な英語教育の一環として、学部の1・2年生に対し「学部統一英語試験」(TOEIC-IP)の受験を義務づけています。各人が現在の英語力を知り、目標達成に向かって努力する際の指針として役立ててもらうことが目的で、受験料は大学が負担します。

【実施時期と回数：入学時・第1学年終了時・第2学年終了時の計3回】

なお、この試験を受験しなかった学生については、必修英語科目の単位が認定されない場合や、新学年での必修英語科目の履修が認められない場合があります。詳細は各試験の実施前に、学内の掲示板等を通じてお知らせします。

◆旅行業務取扱管理者講座◆

国内・総合旅行業務取扱管理者資格とは旅行業界唯一の国家資格のことです。旅行会社の支店・営業所の責任者として旅行業務を取り扱うため必要な国家資格です。ツーリズムコースの学生はぜひとも取っておいてほしい資格です。

5月下旬～8月の火・水・木曜日、および8月の夏季休暇、9月(総合のみ)を利用して集中的に学習します(講座の実施曜日、時間帯は予定です)。なお、講座は演習問題+解答・解説の形式で行います。受講希望者は、事前学習を行うか、以下の授業を履修してください。

《国内》

- ・旅行業法論
- ・旅行業関連約款
- ・国内観光資源
- ・国内運賃料金

《総合及び国内・総合》

- ・旅行業法論
- ・旅行業関連約款
- ・国内運賃料金
- ・国際航空運賃
- ・海外実務
- ・海外観光資源

国家試験は年1回行われ、国内旅行業務取扱管理者試験(主催:社団法人全国旅行業協会)は9月、総合旅行業務取扱管理者試験(主催:社団法人日本旅行業協会)は10月に実施される予定です。(2019年4月1日現在)

スケジュール(予定)

- 《国内》13～15日間 1回2時間(但し、夏季休暇時は異なる)
- 《総合》18～20日間 1回2時間(但し、夏季休暇時は異なる)
- 《国内・総合》30～35日間 1回2時間(但し、夏季休暇時は異なる)
- ※《国内》、《総合》とも上記の他に模擬試験および解答・解説を行います。

受講料(予定)

- 《国内》10,000～12,000円
- 《総合》10,000～12,000円
- 《国内・総合》18,000～20,000円
- ※上記受講料(模擬試験料含む)はこれまでの実績です。受講予定者数によって受講料が異なります(各年変動)。

定員

別途告知します。

説明会

旅行業務取扱管理者試験特別講座説明会を4月上旬(予定)に行います。申込方法・講座内容等の説明を行いますので受講希望者は必ず参加してください。

申し込み

4月中旬 自動証明書発行機にて、受講料納入。



語学単位認定制度

◆留学生日本語単位認定制度◆

対象学生

国際観光学部 2019 年度入学生

制度の趣旨

既に勉強してきた日本語能力を最大限に伸ばし、さらに上級の日本語を学ぶ機会を増やすことを目的として日本語能力試験 N1 取得を支援し、単位認定します。

単位認定基準

試験の種類	日本語能力試験
認定基準	N1
認定科目と単位数	日本語総合演習 A

資格の取得期日

大学入学前及び在学期間中

提出書類

- (a) 語学科目認定申請書
- (b) 検定試験の結果通知書のコピー

申請期間

2 年次以降の各学期の履修登録手続期間

※ なお、単位認定希望科目の Web 履修登録は行わないでください。

また、当該学期の履修単位数が単位認定希望科目を含め上限単位数を超えないものとします。
(登録の上限が 22 単位で 2 単位を申請する場合、Web 登録できるのは 20 単位まで。)

※ 「日本語総合演習 A」は 2 年次に配当されている科目であるため、1 年次には申請できません。

申請先

教務課窓口（6 号館 1 階）

成績評価

国際観光学部教授会の承認を得て、「A」とします。

単位認定までの流れ

- ①申請 資格の認定日が有効期限内であることを確認のうえ、必要書類をそろえて申請してください。
- ②単位認定 国際観光学部教授会で審議された後、結果を掲示にて通知します。
- ③成績確認 成績発表時に認定された科目に正しく評価が記載されているかを確認してください。

語学学習の奨励について

◆◆ 語学検定試験 ◆◆

大学の授業以外にも留学や自習教材などで語学を学ぶ可能性が広がっていますが、新しい語学を習得するには多大の努力を要します。学習を継続するには、検定試験を受け自信をつけ、さらには留学への切符を手に入れましょう。検定試験の代表的なものには次のものがあります。担当の語学の教員からアドバイスを受けて1年次より積極的に挑戦してください。検定試験の案内が教務課に届いた場合は、掲示等でお知らせしています。

試験の種類	ドイツ語検定 (独検)	フランス語検定 (仏検)	中国語検定 (中検)	ハングル検定	スペイン語検定 (西検)	日本語能力試験
修学中の 基準	4級	4級	3級	4級	5級	N1
その能力	日常生活に必要な表現や文を運用できる。簡単な手紙を書ける。	基礎的な日常フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができる。	基本的な文章を読み、書くことができる、日常会話ができる。	決まり文句を用いて様々な場面で事実を伝え合える。簡単な手紙やメールのやり取りができる。	平易な文章の読み書きができ、初級文法を終了している。	幅広い話題に及ぶ論説、評論などを読み理解する。長い話や、講義を聞いて、これをまとめる。
その語彙数	1000	920	1000～2000	1070	1300	10000
その学習時間の目安	60	100	200	80	90	900

◆◆ 語学賞 ◆◆

国際観光学部では、学生の積極的な語学学習の奨励をするため、語学検定や資格取得に対してこれを顕彰しています。留学生の日本語教育については特に「語学賞」として、N1以上の顕著な成果を上げた留学生だけではなく、その秀逸な語学力を生かして学内・学外で活発な国際交流活動を行った日本人学生にもこれを授与します。これらの顕彰及び語学賞の授与について具体的な選定基準はグローバル委員会が決めています。候補者の募集期間は例年12月頃を予定していますが、詳しくは学内の掲示板等で告知します。

資格取得学生の顕彰制度について

国際観光学部では、資格を取得し、本学部の教育に対する社会的評価を高めることに貢献した本学部の学生に対して顕彰する制度を導入しています。本制度の概要は以下のとおりですので、希望する学生は下記の事項をよく読んで所定の手続きをしてください。

対象学生

国際観光学科に在学かつ通学している学生

対象資格

1. 宅地建物取引士資格試験
2. 総合旅行業務取扱管理者試験
3. 国内旅行業務取扱管理者試験
4. 日商簿記検定 1 級
5. 日商簿記検定 2 級
6. ファイナンシャル・プランニング技能検定 2 級以上

提出書類

1. 資格取得に対する顕彰申請書
2. 資格認定書等のコピー(申請前年度 12 月 16 日～当該年度の申請期間前に取得したものに限り)

申請期間

原則として、毎年 12 月 10 日～同年 12 月 15 日窓口取扱時間まで
※学年暦により、期間が前後する場合があります。

顕彰内容

顕彰は、記念品の贈呈により実施します。また、あわせて賞状の授与も実施できるものとします。賞状及び記念品の授与は、所定の日における配付形式で実施します。当該配付日の通知は、国際観光学部掲示板での掲示により、配付日の 10 日前までに行います。

申請先

教務課窓口 (6 号館 1 階)



上記内容は、2019 年 4 月 1 日時点のものです。内容に変更が生じる場合がありますので、最新の情報は、ToyoNet-ACE もしくは ToyoNet-G をご確認ください。

大学院開講科目先行履修制度

国際観光学部では、大学院国際観光学研究科との連携を強め、大学院への進学を希望する学生に対して学部の中から専門的な学修の継続を図ることを目的として、国際観光学部4年生が大学院開講科目を履修できる「大学院開講科目先行履修制度」を導入しています。本制度の概要は以下のとおりですので、希望する学生は下記の事項をよく読んで必要な手続きをしてください。

◆◆制度の概要◆◆

1. 本制度は、国際観光学部4年生が本学大学院国際観光学研究科の開講科目を履修できる制度です。
2. 本制度により修得した単位は、本学大学院国際観光学研究科博士前期課程に入学時に、所定の手続きを行うことにより、大学院の単位として認定されます。
3. 本制度を利用できるのは下記の項目を満たす者とします。
 - (1) 国際観光学部4年次に在学していること。
 - (2) 国際観光学部卒業後、国際観光学研究科博士前期課程に進学する意志があること。
 - (3) 第7セメスタ（4年次春学期）において履修する場合は、卒業に要する単位102単位以上を修得済みであること。第8セメスタ（4年次秋学期）において履修する場合は、卒業に要する単位数120単位以上を修得済みであること。
 - (4) 卒論指導教員の推薦があること。
 - (5) 受講科目担当教員の承諾を得ていること。
4. 本制度で履修できる大学院の科目は、当該セメスタに国際観光学研究科博士前期課程で開講されている講義および演習科目とする。
5. 本制度により履修する科目は、学部では自由科目として取り扱い、卒業要件単位数には含めない。また、年間履修単位数の制限外で履修する。
6. 本制度で履修することのできる科目数は、4年次在学中に10単位以内とする。
7. 本制度により履修した科目の評価は、学部の成績原簿、成績表、成績証明書に記載する。学生は国際観光学研究科入学時に、その記録を添えて単位認定の申請ができる。

◆◆申し込み手続きについて◆◆

「大学院開講科目先行履修制度」申し込み用紙に必要事項を記入の上、当該セメスタの履修登録期間内に教務課窓口へ提出してください。申し込み用紙は正規履修登録期間内に教務課窓口にて配付します。

国際交流・国際教育プログラム

国際交流・国際教育プログラムの内容や募集に関する情報は、ToyoNet-ACE「TOYO GLOBAL DIAMONDS（国際交流情報）」コースで確認してください。

URL:https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1324577



Toyo Global Leader (TGL) プログラム

TGL プログラムは、東洋大学生が国内外で活躍できるグローバル人材となるために「異文化環境における英語運用表現能力」、「文化的な価値創造能力」、「異文化環境における課題解決能力」の3要素を強化することを目的としています。これらの目的に沿って、「Gold」「Silver」「Bronze」のランクごとに7つの認定要件を定め、各要件を満たした学生を Toyo Global Leader として認定します。

国際観光学部では、ゲストスピーカーによる講義や、クラス外活動、1年生海外研修を通じて、TGL プログラムに参加する機会を与えています。

◆◆認定要件◆◆

下記のとおり、ランクごとに認定要件が設定されています。

認定要件	TGL Gold	TGL Silver	TGL Bronze
(1) 英語能力 (TOEIC® L&R)	730 点	590 点	—
(2) 外国語による授業科目の修得	40 単位	20 単位	10 単位
(3) 外国語による論文等執筆	必須	—	—
(4) 海外留学・インターンシップ	必須	どちらかを 必須	—
(5) 海外アクティビティ	必須	—	—
(6) 東洋グローバルリーダーキャンプ	必須(運営)	必須(参加)	必須(参加)
(7) Toyo Global(TG)ポイント	30 ポイント	20 ポイント	10 ポイント

◆◆認定要件について◆◆

(1) 英語能力

英語資格試験のスコアにより認定します。TOEIC® L&R(公開テストおよび IP テスト)のほか、TOEFL iBT®、TOEFL ITP®、IELTS™ のスコアを TOEIC® L&R スコアに換算します。なお、スコアは在学中に受験したものに限りです。

(2) 外国語による授業科目の修得

開講言語が外国語の授業科目および基盤教育の語学科目の修得単位数を加算していきます。また、海外留学や海外インターンシップ等により認定された科目の単位数も加算できます。

(3) 外国語による論文等執筆

下記 a.b.c. のいずれかに当てはまる論文等を執筆し、a.b. については、指導教員の確認書と共に提出することで認定します。

- a. 言語を問わず執筆した卒業論文等の英文要旨もしくは英語で執筆した卒業論文等
- b. 授業内で各言語（日本語を除く）により作成し提出された論文等
※外国人留学生については日本語（ネイティブ言語以外）での執筆も認める。
- c. 国際教育センターで設定したテーマに基づいた英語の課題論文

(4) 海外留学・インターンシップ

海外での活動が連続で3週間(現地入国から出国までが21日間)以上の留学やインターンシップを対象とします。大学で開催しているプログラムのほか、学外機関が主催するプログラムも活動内容等により対象となります。なお、単位認定の有無は問いません。

(5) 海外アクティビティ

上記(4)に該当しない、海外での活動が連続で1週間(現地入国から出国までが7日間)以

上の留学、研修、インターンシップ、ボランティア等の活動を対象とします。大学で開催しているプログラムのほか、学外機関が主催するプログラムも活動内容等により対象となります。なお、単位認定の有無は問いません。

- (6) 東洋グローバルリーダーキャンプ
本学で実施する「東洋グローバルリーダーキャンプ」への参加（または運営チームとしての参加）により認められます。
- (7) Toyo Global(TG) ポイント
国内外の国際交流活動（海外留学、インターンシップ、ボランティア、国際シンポジウム等）および課外語学講座等への参加がポイントの対象となります。ポイントは各活動期間に応じて付与します。

◆ TGL プログラムの仕組み ◆

一度の取り組みで複数の認定要件に当てはまる場合があります。

<例>

東洋グローバルリーダーキャンプに参加した。

認定要件	結果
(6) 東洋グローバルリーダーキャンプ	⇒認定（参加）
(7)Toyo Global (TG) ポイント	⇒2 ポイント付与

<例>

交換留学で1年間海外渡航（TOEFL ITP® 550点を保有）。

留学先で英語による専門科目5科目を修得、東洋大学で5科目×2単位＝10単位が認定された。また、留学中1週間のボランティア活動に従事し、「短期海外実習Ⅰ」（1単位）が認定された。

認定要件	結果
(1) 英語能力	⇒認定（TOEIC® L&R730点に換算）
(2) 外国語による授業科目の修得	⇒11 単位加算
(4) 海外留学・インターンシップ	⇒要件クリア
(5) 海外アクティビティ	⇒要件クリア
(7)Toyo Global (TG) ポイント	⇒35 ポイント付与

プログラムの詳細は ToyoNet-ACE「TOYO GLOBAL DIAMONDS（国際交流情報）」
コース内、「東洋グローバルリーダープログラム」を確認してください。

https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1324577



- ・ TGL プログラム問い合わせ先
国際部〔国際教育センター〕（白山キャンパス 8号館 1階）
Tel：03-3945-7827
Email：ml-tgl@toyo.jp

海外留学・研修プログラム

◆海外留学・研修プログラムの概要◆

本学では、休学することなく参加できる海外留学・研修プログラムを豊富に用意しています。

プログラム名	① 交換留学	② 認定留学	③ 協定校 語学留学	④ 語学セミナー	⑤ 海外インターンシップ・ ボランティア	⑥ 国連ユース ボランティア・ ワシントンセンター	⑦ Diversity Voyage	⑧ 日本語 パートナーズ
留学形態	学部留学* ¹		語学留学* ²		—	—	—	—
期間	1 学期または 1 年* ³		3～6ヶ月	3～4 週間	2～6 週間	3～5 ヶ月	約 10 日間	6～11 ヶ月
出発時期	第Ⅰ期：2～3月 第Ⅱ期：8～9月	留学先大学により 異なる	春学期：2～5月 秋学期：8～9月	夏季および 春季休暇中		9～10 月	夏季および 春季休暇中	5～9 月
語学条件	あり		なし		あり		なし	
単位	単位認定申請可* ⁴				履修登録対象* ⁵	単位認定申請可* ⁴	履修登録対象* ⁵	不可
東洋大学留学 奨学金(給付型)	あり			なし				
東洋大学海外留学 促進奨学金(給付型)	トップ大学型 グローバルリーダー型	アクティブ型	チャレンジ型	アクティブ型	なし			

プログラムの内容等は変更になる場合があります。

*¹ 学部留学…現地で正規課程の科目を履修及び修得することを目的とする留学

*² 語学留学…海外の大学附属の語学学校で語学を集中的に学ぶ留学

*³ 1 年……留学先機関によって学期制度や学期の日程が異なるため、トータルで 1 年間の留学期間を指す言葉として使用しています。

*⁴ 単位認定申請可…留学先大学等で修得した単位に関し、本学開講科目の単位として認定を申請できます。

*⁵ 履修登録対象……該当する本学の開講科目を履修登録できます。

◆各種海外留学・研修プログラムの詳細◆

① 交換留学

本学が学生交換協定を締結している協定校あるいは海外学生交換コンソーシアム (ISEP・UMAP 等) に加盟する大学へ、1 学期間または 1 年間留学するプログラムです。留学先の大学では正規課程の科目を履修及び修得することを目的とします。東洋大学を休学することなく留学できます。原則、留学先大学の授業料は免除となり、留学期間に応じて奨学金が給付されます。

② 認定留学

本学協定校の他、学位授与権のある大学へ 1 学期間または 1 年間留学するプログラムで、留学先の大学では正規課程の科目を履修及び修得することを目的とします。国や地域は問いません。東洋大学を休学することなく留学できます。原則留学先の授業料は自己負担となりますが、留学期間に応じて奨学金が給付されます。

大学への出願・入学手続きは原則各自で行うため、留学に先立って自ら十分な情報を収集し、綿密な計画を立てることが重要です。

③ 協定校語学留学

本学の海外協定校附属の語学学校へ、3ヶ月から6ヶ月間留学するプログラムです。語学力の向上を目的とし、語学を学びながら様々なアクティビティやホームステイ等を通じた異文化体験をします。原則、留学先の授業料は自己負担となりますが、条件を満たした場合、奨学金が給付されます。また、東洋大学を休学することなく留学できます。

④ 語学セミナー

夏季および春季休暇を利用した短期語学研修プログラムです。語学研修、アクティビティ、ホームステイ等を通じて語学力の向上と異文化理解を目的としています。

⑤ 海外インターンシップ・ボランティア

グローバル社会で活躍するために必要となる英語力・異文化理解力・社会人マナーなどの社会人基礎力を育成し、世界に羽ばたく学生を育てることを目的としたプログラムです。夏季および春季休暇を利用し、2～6週間研修を行います。語学力の向上に加え、各国の経済状況や文化風習の違いを“働く”という社会生活を通じて体験し、今後の学生生活とキャリア形成に生かすことができます。

※学部主催プログラムについてはP.46を参照してください。

⑥ 国連ユースボランティア (UNYV) ・ ワシントンセンター (TWC)

- ・ 国連ユースボランティア (UNYV)

国連ボランティア計画 (UNV) のコーディネートの下、開発途上国の国連事務所や政府機関でユースボランティアとして、約5ヶ月間働く長期インターンシップです。現地国連スタッフと共に広報活動やフィールドワーク等の業務に携わりながら、高度なキャリア意識やリーダーシップを養うプログラムです。

- ・ ワシントンセンター (TWC)

アメリカの首都であるワシントン DC 周辺の公的機関、NPO、企業などで15週間の就労体験と夜間に行われる授業を通じ国際的感覚を身につけ、将来のグローバルリーダーを育てるプログラムです。

⑦ Diversity Voyage

一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト (GiFT) が行う、夏季および春季休暇を利用した短期間の海外研修です。海外で現地学生等と英語でコミュニケーションを取りながら共創・協働することで、語学力のみならず「多様性適応力」を育みます。

⑧ 日本語パートナーズ

約半年～1年間、アジアの中学・高校などの日本語教師や生徒のパートナーとして、授業のアシスタントや日本文化の紹介を行うプログラムです。

○各プログラムの詳細は大学ホームページを確認してください。

国際交流「海外留学を希望する方へ」

<http://www.toyo.ac.jp/international-exchange/ies/>



海外留学・研修プログラム向け 給付型奨学金

東洋大学では、多くの学生が海外留学・研修プログラムに参加できるよう、充実した奨学金を用意しています（プログラムや語学スコアに応じ7～300万円を給付）。

- － 東洋大学留学奨学金
- － 東洋大学海外留学促進奨学金

その他、民間団体などによる奨学金もあります。

各奨学金の要件や金額は変更になる可能性があります。

詳細や最新情報は国際教育センターホームページで確認してください。

<http://www.toyo.ac.jp/international-exchange/ies/scholarship/>



◆留学に伴う単位認定・履修について◆

留学に伴う、東洋大学での単位認定・履修については、参加する留学プログラムによって取扱いが異なります。必ず、渡航前に、学部が主催する出発前オリエンテーションに参加し、事前説明を受け、必要な手続きを確認してください。

①交換留学 ②認定留学 ③協定校語学留学 (学部協定校交換留学含む)

1. 単位認定対象科目

所定の手続きを行うことで、大学又は短期大学への留学により修得した単位を、本学の単位として認定申請することができます。ただし、認定される単位は次の全てを満たすものに限りです。

- (1) 海外の大学又は短期大学の正規課程で単位を修得した場合
- (2) 本学部が、教育上有益と認めた場合
- (3) 本学部が、修得した単位の授業内容および授業時間数が本学科教育課程内科目と同等以上であると認めた場合



学科課程にない科目や授業内容・授業時間数が同等レベルと認められない科目、既修得科目については、留学先で修得しても単位認定の対象外です。

また、正規課程以外の附属語学学校での学修についても、原則単位認定の対象外ですが、所定の手続きをすることで、単位を修得できる場合があります。

2. 単位認定手順

単位認定は、学生からの申請に基づき、科目の適合性・授業時間数の適合性や成績評価等を確認のうえ、次の手順で行います。

(1) 単位認定の方法

留学先で修得した科目の授業内容・授業時間数が、本学科教育課程内科目と同等以上であることを確認し、原則「個別認定」による単位認定を行います(合格基準を満たさなかった科目は、認定対象外です)。

「個別認定」とは、修得した単位認定対象科目の単位が、東洋大学で所属する学科課程表のどの科目に相応するかを個別に確認し、単位認定する方法です。

また、単位認定対象科目のうち、個別認定ができない場合には、科目領域別の単位として一括認定とする場合があります。

(2) 単位認定に必要な授業時間数の目安

留学先での授業時間数を東洋大学の1単位あたりの授業時間数に換算し、単位認定数を決定します。東洋大学で単位付与をするにあたって、最低限必要な授業時間数の目安は次の通りです。

目安 講義科目：675分＝1単位 外国語科目：1,350分＝1単位 実習・実技科目：2,025分＝1単位



「留学先で付与される単位数＝東洋大学での認定単位数」ではありません。

(3) 単位認定申請のフロー

<留学前>

- ①留学先大学の科目リスト・シラバス等を参考に履修計画を立て、長期留学「履修計画書」を作成する。
- ②指導教員より、留学先での履修科目および東洋大学での単位認定科目・単位数について事前指導を受ける。

- ③指導を受けた後、教務課に「履修計画書」、「授業内容・授業時間数がわかる書類」および「本学の成績表」を提出する。

<留学終了後>

- ①「単位認定願」に、留学先での成果（履修科目・成績）を記入し、成績証明書・成績基準がわかる書類・シラバス等を添えて指導教員に提出する。
 ※教科書・ノート等の提出を求められた場合は、指導教員の指示に従うこと。
 ② 指導教員より単位認定科目・単位数について指導を受け、必要書類に署名・所見を記入してもらう。
 ③内容を確認のうえ、教務課に「単位認定願」、「成績証明書原本」、「成績基準がわかる書類」、「シラバス」等、単位認定に必要な書類をすべて提出する。

3. 単位認定上限単位数

留学に伴う単位認定の上限数は、**1 学期間の留学につき 17 単位、1 年間の留学につき 34 単位**です。
 ※なお、在学中の単位認定による総修得単位数が 60 単位を超えないものとします。この 60 単位には、留学以外の各種単位認定制度による修得単位数も含まれます。
 詳しくは教務課窓口で確認してください。

Column

～在籍中に単位認定できる上限単位数について～

各種様々な単位認定制度がありますが、在籍中に単位認定できる単位数は、学則第 43 条および第 44 条において、合計 60 単位が上限と定められています。

この合計 60 単位には、以下の制度が対象となります。

- ①交換留学 ②認定留学 ③協定校語学留学 ④語学セミナー ⑤海外国際観光学研修
 ⑥語学単位認定 ⑦テンプル大学ジャパンキャンパス学生交換プログラム
 ⑧東京外国語大学単位互換制度 ⑨休学中の留学による単位認定

<2019 年 4 月 1 日現在>

4. 単位認定科目の成績評価

単位認定された科目は、「T (Transfer)」評価となります。なお、「T」評価は GPA 算出式には含まれません。また、単位認定された科目は、認定された本学の科目名で留学帰国学期の成績として付与されます。なお、成績表への反映は、留学が終了する学期の本学成績発表日から約 2 ヶ月前までに申請があった場合は成績発表日、それ以降は申請日の約 2 ヶ月後を目安に行われます。ただし、申請に不備があった場合はこの限りではありません。詳細は、申請時に教務課に確認してください。

5. 留学中の本学での履修登録

留学を行う学期中は、東洋大学で履修登録をすることは、原則認められていません（セメスタ科目・クォーター科目・集中科目全て不可）。ただし、「卒業論文」に限り、所定の手続きを行なうことで、履修登録を行うことができます。

(1) 申請方法：

事前に指導教員の許可を得て、「卒業論文履修申請書」を留学前に教務課に提出する。

学部内委員会で履修が許可された後、該当学期の履修登録期間に ToyoNet-G より Web 履修登録を行う。

(2) 申請条件：

次の全ての条件を満たすことが申請要件です。

- ①留学帰国学期のセメスタが、4 年 8 セメスタ以上であり、当該学期に卒業が見込まれること。
 ②帰国後の単位認定申請の手続きが当該セメスタの卒業判定に間に合う見込みであること。
 ③留学中も卒業論文執筆について、指導教員の指導が受けられること。

- (3) 単位付与・成績評価について
成績評価については、通常履修時と同様、SABCDE* 評価となり、合格基準に達した場合、履修登録した学期に単位が付与されます。



履修登録を忘れた場合や、担当教員から指導を受けていない場合は、成績評価が不合格 (DE*) となり、単位が付与されない場合があります。担当教員に事前に相談のうえ、学修計画を立てましょう。

6. 国際観光研究（ゼミ）の取扱い

国際観光研究（ゼミ）については、**所定の手続きをすることで、帰国後に単位認定申請をすることができます（Web での履修登録は行いません）**。ただし、認定にあたっては次の全てを満たすことが要件です。

- (1) 渡航前に、指導教員から許可を受け、「演習科目単位認定申請書」を提出していること。
- (2) 留学中、ToyoNet-ACE で「マンスリーレポート」を提出していること。
- (3) 指導教員から課される演習課題を提出し、合格基準に達していること。

マンスリーレポート	<ul style="list-style-type: none"> ・当該月終了後に留学先での学習状況のほか、正課外の交流活動の様子や振り返りなども含めてレポートを提出すること。 ・日本語の場合は原則1,000字以上、英語の場合は500単語以上で記入すること。 ・その他、別途課題を課された場合は、指導教員の指示に従うこと。
演習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・指導教員の指示に従うこと。



～教務課での事前相談について～

交換留学、認定留学、協定校語学留学に出願する学生は、留学終了（帰国）後に最短で卒業および諸資格取得を可能にするため、不明な点がある場合は必ず留学出願前に教務課窓口で相談してください。また、帰国後の履修手続きについて注意すべき点（継続履修および学年進行に関わる科目、帰国後の授業科目の履修・成績（卒業要件、資格取得要件等））がありますので、留学決定後にも必ずすみやかに教務課窓口で相談してください。

④ 短期語学セミナー

最大2単位まで単位認定の申請をすることが可能です。なお、下表に記載の「一括認定単位」は、外国語系教育科目「選択科目」区分に換算されます。

2019年度入学生

研修区分	科目区分	科目名	単位数
英語研修	外国語系教育科目	Basic Writing	1単位
		一括認定単位(選択外国語)	1単位
		一括認定単位(選択外国語)	2単位
中国語研修	外国語系教育科目	中国語Ⅰ	1単位
		中国語Ⅱ	1単位
		中国語Ⅲ	1単位
		中国語Ⅳ	1単位
		一括認定単位(選択外国語)	1単位
		一括認定単位(選択外国語)	2単位

⑤ 海外インターンシップ・ボランティア

本プログラムは、基盤教育科目「海外研修」「海外実習」「短期海外研修」「短期海外実習」の履修登録対象プログラムです。詳細は学内掲示板、ToyoNet-Gのお知らせを確認してください。

国際観光学部インターンシッププログラム及びインターンシップに係る単位修得については、事前に担当教員に確認をしてください。

※学部主催プログラムについてはP.46を参照してください。

⑥ 国連ユースボランティア・ワシントンセンター

詳細は所属学部教務課窓口へお問い合わせください。

⑦ Diversity Voyage

本プログラムは、基盤教育科目「短期海外研修」の履修登録対象プログラムです。

詳細は学内掲示板、ToyoNet-Gのお知らせを確認してください。

⑧ 日本語パートナーズ

本プログラムは単位認定対象外です。

【海外留学・研修プログラムについての問い合わせ先】

国際部〔国際教育センター〕(8号館1階)

E-mail: mlryugaku@toyo.jp TEL: 03-3945-8593

【学籍・履修・単位についての問い合わせ先】

教務課窓口(6号館1階)

本学を休学して外国の大学等へ留学した場合の単位認定について

本学を休学して外国の大学等に留学した場合、留学先で修得した単位を本学の単位として認定することができます。単位認定を希望する場合は、事前に所定の手続きを行う必要があります。

◆◆ 単位認定の対象となる機関 ◆◆

学位授与権を持つ大学（学部学生のみ2年制大学及び附属語学学校を含む。）および附属学校。

◆◆ 留学期間 ◆◆

休学期間を超えない範囲とする。

※原則として連続する2セメスタ（1年間）を超えて休学することはできません。

◆◆ 必要な手続 ◆◆

休学手続きを行う前に、国際教育センターへ留学機関等に関する届出を行う必要があります。手続き詳細については、本学ホームページを参照してください。

<http://www.toyo.ac.jp/international-exchange/ies/kyugaku-ryugaku/>

英語特別教育科目 LEAP プログラム

LEAP (Learning English for Academic Purposes) プログラムは将来海外留学を目指す学生や、英語力を高めたいと希望する学生を対象とした学術英語プログラムです。英語力のみならず、大学レベルの授業を英語で受けるのに対応できるだけの学習スキルの習得も目指します。LEAP の授業は英語で行われるため、内容を理解し、課題などをこなしていくためには基礎的な英語力が必要となります。修得した単位は卒業単位として認められます。

LEAP は、英語力 (TOEFL ITP® スコア) に応じて EAP I、EAP II、PSA の 3 段階に分かれています。

EAP (大学レベル英語) I (中級) : TOEFL ITP® 400-470 点程度未満の学生が対象

EAP (大学レベル英語) II (上級) : TOEFL ITP® 470-499 点程度の学生が対象

PSA (留学準備コース) : TOEFL ITP® 500 点程度以上の学生が対象 (白山キャンパスでのみ開講)

※上記の基準スコアは受講者数やスコア分布により変動する場合があります。

EAP I と EAP II には次の 2 つの科目が用意されています。1 科目のみ、または両方履修することができます。

A 科目 (週 2 回・2 単位) … **Listening と Speaking** に特化した科目

B 科目 (週 2 回・2 単位) … **Reading と Writing** に特化した科目

PSA は次の 3 科目 (それぞれ週 1 回・1 単位) から成ります。

Basic Academic Writing (**BAW**) … 英語で論文を書くための基礎を学習

Academic Essay Writing (**AEW**) … BAW 修了生対象で、より高度な論文作成スキルを学習

College Study Skills (**CSS**) … 留学してからの受講スキルを学習

<申込・お問合せ>

プログラムの詳細は ToyoNet-ACE 「LEAP / SCAT」 コースをご確認ください。

(春学期履修の案内は前年 11 月頃、秋学期履修の案内は 5 ~ 6 月頃配信予定)

https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/page_2285329c1324577_1074078619



・ LEAP プログラムについての問い合わせ先

LEAP オフィス (白山キャンパス 8 号館 2 階)

Tel : 03-3945-7341

Email : mlleapoffice@toyo.jp

他にも国際部 [国際教育センター] では、外国語資格試験の団体受験や受験料補助、全キャンパスにて英会話講座、語学試験対策講座及びランゲージセンターによる英語ライティング指導を実施しています。各プログラムの詳細は、ToyoNet-ACE 「TOYO GLOBAL DIAMONDS (国際交流情報)」 コースをご確認ください。

・ 外国語資格試験、ランゲージセンター、課外英語講座についての問い合わせ先

国際部 [国際教育センター] (白山キャンパス 8 号館 1 階)

Tel : 03-3945-8172

Email : ml_lc_global@toyo.jp



各種手続

学生生活を過ごすうえで重要な各種手続について説明します。
自らの学修活動に支障をきたすことがないように、履修要覧を熟読し、学生生活を実りあるものにしましょう。
不明な点があれば各種相談窓口へ問い合わせてください。

各種相談や事務取扱窓口について

大学では、皆さんがいつでも学修や大学生活について相談できる体制を整えています。
 授業や学生生活に関する悩みごとなどの相談、休学などの学籍異動に関する手続等については、以下の窓口にて相談してください。
 窓口時間は学生の長期休暇、大学祭などにより変更となる場合があります。
 掲示や大学ホームページなどでお知らせしますので、随時確認してください。

◆各種相談窓口◆

相談内容	担当	場所	窓口時間	参照ページ
授業に関する相談	教員	研究室等	オフィスアワー	p.20 「教員との連絡」を参照してください。
履修登録 成績 休学／復学／退学／転部・転科 ／再入学／各種証明書 その他教務全般	各学部 教務課	6号館1階	月～金 9:30～13:00 14:00～20:30 土 9:30～12:45 17:30～20:00	履修登録 …… p.15～16 成績 …… p.25～26 休学／復学 …p.100～101 退学 …p.102～103 転部・転科 ……… p.106 各種証明書 …p.107～108
学生生活における悩みごとの相談	学生サポート室	6号館1階		
奨学金に関すること サークル等課外活動に関する こと	学生支援課	6号館1階		
学習方法などに関する相談・ 支援	ラーニングサポート センター	3号館1階 ナレッジ スクエア	詳細はホームページ、掲示板で確認してください。	p.24
病気・ケガなどの身体に関わる こと 健康診断等	保健管理室	6号館1階	医師診療時間 月～金 9:30～20:30 土 9:30～12:45 17:30～20:00 ※医師診療時間については 「学生生活ハンドブック」 にて確認してください。	
就職に関する相談	就職・キャリア支援課	6号館1階	月 9:30～17:45 火～金 9:30～19:45	
障がい学生支援に関する こと	ピアサポートルーム	6号館1階	9:30～13:00 14:00～18:30	
海外留学に関する相談	国際教育センター	8号館1階	月～金 9:30～13:00 14:00～16:45 土 9:30～12:45	
図書館資料に関する こと	附属図書館	2号館1階	ホームページにて確認してください。	
納付金に関する こと	財務課	9号館1階	月～金 9:30～13:00 14:00～16:45 土 9:30～12:45	p.109～111

学籍情報

◆学籍番号◆

みなさんには、「学籍番号」という10桁の固有番号が付与されています。原則卒業まで変わることはありません。番号は以下のとおり、所属学部・学科、入学年度などを表しています。履修登録や試験の解答用紙の提出、各種届け出、証明書の申請にあたっては、学生本人を特定する番号となりますので正確に記入してください。

【学籍番号の例】

1	E	1	0	1	9	0	9	9	9
学部・学科コード(※1)				入学年度 (西暦下2桁)		学生区分 (※2)	番号(001~)		

※1 学部・学科コード

1 E 1 0	国際観光学部 国際観光学科
---------	---------------

※2 学生区分

0	通学課程
9	科目等履修生

◆学生証◆

本学の就学手続が完了した学生に学生証を交付します。学生証は本学学生としての身分を証明するものですので、常に携帯してください。また学長印、学生本人の写真、裏面シールの貼付が無いものは無効となります。学生証は他人に貸与、または譲渡することはできません。

Point

～学生証の携帯義務～

学生証は本学学生としての身分を証明するものであるため、常に携帯し、次の場合これを提示しなければなりません。

- 1) 本学の教職員の請求がある場合
- 2) 試験を受験する場合
- 3) 各種証明書や学生旅客運賃割引証明書(学割)等の交付を受ける場合
- 4) 通学定期乗車券や学生割引乗車券を購入する際と、それを利用して乗車船した際に係員の請求があった場合、等

学生証がないと各種証明書の発行が受けられません。また、図書館の利用、試験の受験、通学定期券の購入等ができませんので、紛失・汚損・破損のないよう十分注意してください。

<有効期限と更新手続>

入学時に交付を受けた学生証は卒業するまで使用しますが、学生証の有効期限は4月1日から次年度の4月15日までの約1年間です。毎年4月初旬の進級手続期間内に、学生証の裏面シールを貼りかえ、学生証の有効期限の更新を受けなければなりません。

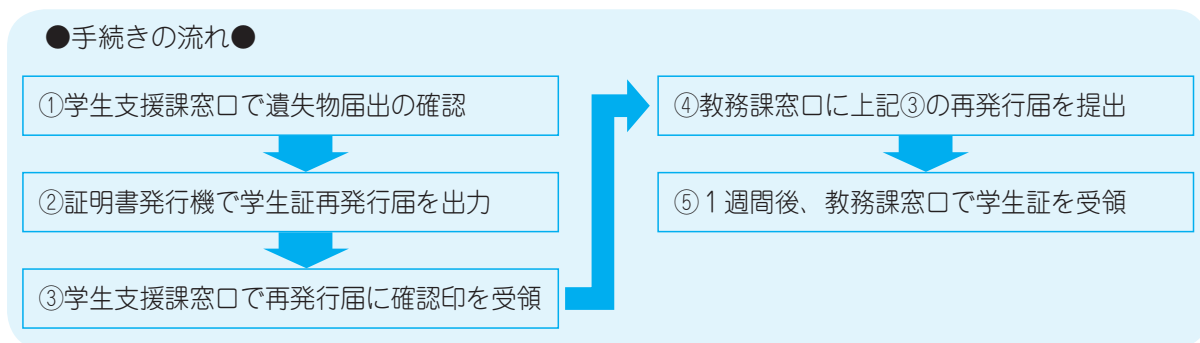
※進級手続の詳細は、ToyoNet-G等でお知らせします。

<返還>

卒業または退学・除籍等の理由で、本学に籍が無くなった場合は、学生証を本学に返還しなければなりません。

<再発行>

学生証を紛失もしくは破損・著しく汚損した場合は、直ちに本学へ届け出し、以下の手続に従って学生証の再発行をしなければなりません。



- ・ 学生証の再発行には1週間かかります。
- ・ 再発行手数料として2,000円がかかります。
- ・ 申込キャンセルによる手数料の返金はできません。

<証明書発行機で使用する暗証番号>

第三者に不正使用されないために、4桁の数字の暗証番号が登録されています。オンライン入学手続時に届け出た暗証番号は、証明書発行機で証明書等を発行する際に必要です。メモなどを取り、必ず覚えておいてください。

◆学籍情報の変更◆

本学の入学手続時に届出した情報に変更が発生した場合は、教務課窓口で所定の用紙に変更箇所を記入し、速やかに届け出てください。なお、変更内容によっては、「ToyoNet-G」の「学生メニュー」>「個人情報管理」>「学生情報申請」を利用しても変更が可能です。

変更内容	変更方法		注意事項 (提出書類など)
	教務課窓口	ToyoNet-G	
本人氏名変更 (改姓・改名)	○	×	戸籍抄本を提出してください。
本人住所、連絡先変更	○	日本国籍学生…○ 外国籍学生… 住所変更は×	外国籍学生は住民票の提出が必要です。
最寄駅変更	○	○	
保証人変更	○	×	変更届・誓約書(新しい保証人の署名・捺印が必要です)
保証人住所、連絡先、 勤務先変更	○	○	
緊急時連絡人変更	○	×	
緊急時連絡人住所、 連絡先変更	○	○	
本籍地変更	○	×	住民票(本籍の記載があるもの)、 または戸籍抄本の提出が必要です。
在留資格・在留期間等変更 (外国籍学生対象)	○	×	住民票(国籍・在留資格・在留期間の記載があるもの)を在留期間終了前に提出してください。

◆◆ 修業年限・在学年限・休学期間 ◆◆

< 修業年限 >

卒業するために最低 4 年間在学しなければなりません。この期間を「修業年限」と呼びます。

< 在学年限 >

大学に在学できる期間は最長 8 年間です。これを「在学年限」と呼びます。8 年を超えての在学はできません。ただし、休学期間は在学年限に含まれません。

< 休学期間 >

休学期間は通算して 8 学期（4 年間）を超えることができません。

◆◆ 4 年原級 ◆◆

本学に学生として最低 4 年間在学し、所定の単位を修得しなければ卒業はできません。

4 年次終了までに所定の単位数を修得できず、卒業できないことを 4 年原級といいます。卒業に必要な単位を修得するために通算して在学できる年数（在学年限）は、最長で 8 年間ですので、その年限までは所定の単位数を取得するまで 4 年生を繰り返すことになります。



卒業できなかった学生は、教務課より送付される要領に従って、教務課で手続きをしてください。

通常の在学年限	1 年目		2 年目		3 年目		4 年目		5 年目		6 年目		7 年目		8 年目		
	第 1 セメスタ	第 2 セメスタ	第 3 セメスタ	第 4 セメスタ	第 5 セメスタ	第 6 セメスタ	第 7 セメスタ	第 8 セメスタ	第 9 セメスタ	第 10 セメスタ	第 11 セメスタ	第 12 セメスタ	第 13 セメスタ	第 14 セメスタ	第 15 セメスタ	第 16 セメスタ	
									←			原級				→	
1 年間休学した場合	1 年目		2 年目		1 年休学	3 年目		4 年目		5 年目		6 年目		7 年目		8 年目	
	第 1 セメスタ	第 2 セメスタ	第 3 セメスタ	第 4 セメスタ		第 5 セメスタ	第 6 セメスタ	第 7 セメスタ	第 8 セメスタ	第 9 セメスタ	第 10 セメスタ	第 11 セメスタ	第 12 セメスタ	第 13 セメスタ	第 14 セメスタ	第 15 セメスタ	第 16 セメスタ
										←			原級			→	

休学および復学

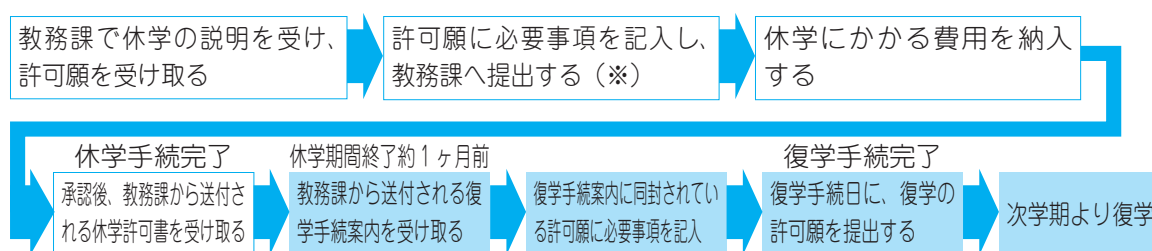
病気・家庭の事情・留学等の理由で3ヶ月以上本学に修学できない場合は、大学の許可を得てその学期を休学することができます。

休学希望者は、教務課で休学についての説明を受け、許可願用紙に必要事項を記入し、教務課に提出してください。なお、病気・怪我による場合には、許可願に併せて医師の診断書の提出が必要となります。

以下の項目は、学期初めからの休学について説明しています。学期途中の休学については下記「Notice」を確認のうえ、教務課窓口で詳細の説明を受けてください。

休学中に留学する場合の単位認定に係る手続きについては、p.92を確認してください。

◆休学および復学手続の流れ◆



手続きについては、学生本人が行ってください。やむを得ず本人が手続きできない場合は、事前に教務課へ相談してください。

※許可願には、学生本人および保証人自筆の連署・捺印が必要です。

また、原則、許可願提出の前に担任教員と面談をする必要があります。

◆休学の期間と許可願の提出期限◆

学期初めからの休学希望者は、定められた期限までに許可願を教務課に提出しなければなりません。

学期	休学期間	提出期限
春学期	4月1日～9月30日	春学期納付金納入期限まで
秋学期	10月1日～3月31日	秋学期納付金納入期限まで

原則として連続する2学期を超えて休学することはできません。ただし特別な事情がある場合は大学の許可を得て休学することができます。休学の期間は通算して、8学期を超えることはできません。



休学希望者は休学する学期開始の2ヶ月前までを目安に教務課窓口にご相談ください。
2学期連続休学を希望する場合は、各学期ごとに手続が必要です。

Notice

～学期途中の休学について～

春学期途中に休学する場合、春学期最終日の3ヶ月前の6月末日まで、秋学期途中に休学する場合、秋学期最終日3ヶ月前の12月末日まで受付をします。ただし、学期途中での休学の場合、納付金の返還はできませんので注意してください。

◆各学期の休学にかかる費用◆

許可願提出後、各学期の納付金納入期限末日までに以下の納付金を納入することで、休学許可申請が完了します。

学費		その他の費用	
各学期の一般施設設備資金の1/2	+	雨水会費	学生課外活動育成会費

※秋学期休学の場合、「その他の費用」については春学期に徴収済のため、納付の必要はありません。納付金の詳細一覧がP.109にありますので、確認してください。

！ 学期によって異なる部分があります。休学するためにかかる費用については教務課に必ず相談してください。

◆休学（復学）許可願の書き方◆

許可願は、原則教務課窓口で説明を受けた後、教務課にて受取ってください。直接教務課に行くことが困難な場合は、ToyoNet-G からダウンロードすることもできます。

東洋大学長 殿

以下の事由により 年 月 日をもって

休学（年 月 日まで）
 復学・退学・再入学 いたしたく、
 原級（不足単位数 単位）
（※該当する事項を○で囲むこと）

許可できますよう、保証人連署のうえお願いいたします。

【事由】
 休学・退学事由（次から選択し、○をつけてください）
 ①就学意欲の低下 ②進路再考 ③経済的困難
 ④学力不足 ⑤身体疾患 ⑥心身耗弱 ⑦海外留学
 ⑧進路変更（復職・他機関への入学・他機関へ編入入学）
 ⑨その他（事由を記入してください）
（事由）

【※国外へ留学等の場合】
 行先（地域・国名・滞在都市名などを記入してください）

（注意）
 1. 学年は西暦で記入すること。
 2. 退学者は学生証を添付すること。
 3. 事由が病欠・怪我の場合は医師の診断書を添付すること。
 4. 休学期間が終了し復学する場合は、後日郵送の手続きを案内に従い、指定された期間中に復学願を提出し手続きすること。
 5. 原級の場合は卒業に必要な単位数を記入すること。

許 可 願 （提出日） 年 月 日

学籍番号	学部	部	学科	年	番
本 住 所	〒 -				
TEL	()				
氏 名	年 月 日生(満 歳)				
保 証 人 住 所	〒 -				
TEL	()				
氏 名					
一大学所見欄一					
<small>※大学所見欄には記載者名、日付を明記すること。</small>					

事務届受付	学籍課	学籍課
学籍課	学籍課	学籍課
承	否	学籍更新

春学期	休学	20●●年4月1日
	復学	
秋学期	休学	20●●年10月1日
	復学	

春学期	休学	20●●年4月1日
	復学	
秋学期	休学	20●●年10月1日
	復学	

復学の場合は復学を○で囲んでください。

学生本人が自筆すること。

印鑑は異なる物を使用すること。シャチハタは不可。

保証人本人が自筆すること。

休学理由を詳しく記入すること。
 ※復学理由は「休学期間終了のため」と記入すること。

※フォーマットが変更となる可能性があります。

◆許可書の発送について◆

大学から許可されると保証人宛に休学許可書が送付されます。なお、外国人留学生の場合は、本人宛に休学許可書が送付されます。

◆復学◆

休学期間を満了し、再び在学することを復学といいます。春学期休学の場合は10月1日付、秋学期休学の場合は次年度4月1日付で復学しなければなりません。

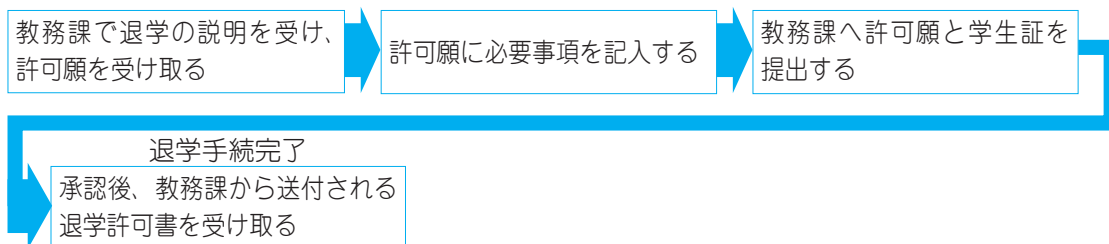
◆復学手続の流れ◆

復学日約1ヶ月前に大学から送付される復学手続案内を確認のうえ、同封の許可願に必要事項を記入し、指定の復学手続き日に大学で手続きを行ってください。その際、許可願を必ず提出してください。

退学

事情により本学での修学が困難な場合は、大学の許可を得て退学することができます。
 退学希望者は、教務課で退学についての説明を受け、許可願用紙に必要事項を記入し学生証を添えて教務課に提出してください。なお、病気・怪我による退学の場合には、許可願に併せて医師の診断書の提出が必要となります。

◆退学手続の流れ◆



手続については、学生本人が行ってください。やむを得ず本人が手続できない場合は、事前に教務課窓口へ相談してください。

※許可願には、学生本人および保証人自筆の連署・捺印が必要です。
 また、原則、許可願提出の前に担任教員と面談をする必要があります。

◆退学許可願の書き方◆

東洋大学長 殿

以下の事由により 年 月 日をもって
 休学（年 月 日まで）
 復学・退学・再入学 いたしました。
 原級（不足単位数 単位）
（※該当する事項を○で囲むこと）

許可できますよう、保証人連署のうえお願いいたします。

【事由】
休学・退学事由（次から選択し、○をつけてください）
 ①就学意欲の低下 ②進路再考 ③経済的困難
 ④学力不足 ⑤身体疾患 ⑥心身耗弱 ⑦海外留学
 ⑧進路変更（就職・他機関への入学・他機関へ編転入学）
 ⑨その他（事由を記入してください）
 （事由）

【※国外へ留学等の場合】
 行先（地域・国名・滞在都市名などを記入してください）

（注意）
 1. 暦年は西暦で記入すること。
 2. 退学者は学生証を添付すること。
 3. 事由が病気・怪我の場合は医師の診断書を添付すること。
 4. 休学期間が終了し復学する場合は、後日郵送の手続き案内に従い、指定された期間中に復学願を提出し手続きすること。
 5. 原級の場合は卒業に必要な単位数を記入すること。

許 可 願

(提出日) 年 月 日

本 住 所 人	学部 第 部 学 科 年 号
	学籍番号
住 所	〒 -
氏 名	TEL () ()
年 月 日 生 (満 歳)	⑩
保 証 人	住 所
	TEL () ()
氏 名	⑪

—大学所見欄—

※大学所見欄には記載者名、日付を明記すること。

事務局受付	学部教授会	学籍簿記入
学費確認	承 ・ 否	学籍台帳更新

学期末日で退学する場合
 春学期：20●●年9月30日
 秋学期：20●●年3月31日

退学を○で囲んでください。

学生本人が自筆すること。

印鑑は異なる物を使用すること。
 シャチハタは不可。

保証人本人が自筆すること。

退学理由を詳しく記入すること。

◆◆学費の取り扱い◆◆

- ①春学期途中で退学する場合
 - ・春学期の途中で退学する場合は、第1期（春学期）分の納付金は払い戻しません。
 - ・全額一括納入した場合は、第2期（秋学期）分の納付金は払い戻します。
- ②秋学期途中で退学する場合
 - ・秋学期の途中で退学する場合は、第2期（秋学期）分の納付金は払い戻しません。

新学期の納付金納入期限末日までに退学を願い出た場合、退学日を前学期の末日付として扱うため、当該学年・学期の納付金を納入する必要はありません。

◆◆許可書の発送について◆◆

大学から許可されると保証人宛に、退学許可書が送付されます。

除籍

除籍とは、本学の学則およびその施行のために定められた規則に基づく権利の一切を失うことです。次に該当する場合は、除籍の対象となります。

- ①指定された期間内に納付金を納入しなかった学生
- ②在学年限を超えた学生
- ③定められた休学期間を超えた学生
- ④新入生で指定された期間内に履修登録をしなかった学生
- ⑤その他本学において修学の意思がないと認められる学生
- ⑥外国人留学生で「留学」の在留資格の発給を拒否された学生

◆◆ 除籍日 ◆◆

在校生の除籍日は9月30日又は3月31日となり、新入生で指定された期間内に履修登録をしなかった学生の除籍日は4月30日となります。

◆◆ 除籍となった場合 ◆◆

除籍となった場合、速やかに学生証を返却しなければなりません。なお、除籍通知書は保証人宛に送付します。

再入学

本学を退学した者、または除籍となった者が、再び本学への入学を希望する場合、大学の許可を得て再入学することができます。

再入学を希望する者は、下記の日程までに在籍していた教務課で手続きの説明を受け、許可願用紙に必要事項を記入し、保証人連署・捺印の上、教務課窓口へ提出してください。

	許可願提出期限	再入学日
春学期(4月)から再入学を希望する者	1月末まで	翌年度 4月1日付
秋学期(10月)から再入学を希望する者	7月末まで	当該年度 10月1日付



在学時と同じ学部・学科・専攻・コースへの再入学のみ希望することができます。

下記の条件により退学・除籍した者は再入学を希望することはできません。



退学者：在学年限が満期となる学期に退学した者

懲戒により退学となった者

除籍者：在学年限を超えて除籍となった者

休学期間を超えて除籍となった者

Notice

再入学する学年およびセメスタは、本学での最終学籍状況によって異なります。単位の修得状況によっては学年を繰り下げ場合があります。また、学科教育課程表は当初の入学年度のものを適用しますが、学科教育課程表が大きく変わっている場合には、再入学する学年の学科教育課程表を適用することがあります。履修方法は、再入学手続き時に教務課窓口で説明をします。不明な点は、在籍していた教務課へ問い合わせてください。

その他の学籍異動

◆◆ 転部・転科 ◆◆

本学内で他の学部・学科への転部・転科を希望する学生に対し選考を実施します。

転部・転科先の学年は2年次または3年次となります。

11月配付予定の試験要項に基づいて手続をし、1月実施予定の試験を受験してください。また、合格発表は翌年3月下旬に行う予定です。試験要項と手続案内については学内掲示で確認してください。詳細は、教務課へ問い合わせてください。



スケジュールは年度により時期が前後する場合があります。
当該年度の掲示案内で確認してください。

◆◆ 懲戒による退学 ◆◆

本学の規則に反し、または学生の本分に反する行為があった学生は、大学の決定を受けて懲戒による退学となる場合があります。

◆◆ 編入学 ◆◆

本学または他大学を卒業後に編入学を希望する者に対して、編入学試験を実施しています。試験要項は、9月頃入試情報サイトに掲載予定です。

編入学する学年は、原則として3年次となります。また、学科教育課程表も編入学する学年のものを適用します。既修単位の取り扱いについては試験要項を確認してください。履修方法については、編入学の手続時に教務課で説明をします。不明点は、教務課へ問い合わせてください。



本学を卒業した者は、卒業した学部・学科への編入学はできません。

◆◆ 転入学 ◆◆

他の大学の学生が、その大学の許可を得て本学に転入学を願い出る場合、本学の実施する転入学試験を受験する必要があります。試験要項は、9月頃入試情報サイトに掲載予定です。

転入学する学年は、原則として2年次または3年次となります。また、学科教育課程表も転入学する学年のものを適用します。既修単位の取り扱いについては試験要項を確認してください。履修方法については、転入学の手続時に教務課で説明をします。不明点は、教務課へ問い合わせてください。

◆◆ 科目等履修生 ◆◆

特定の授業科目を履修しようとする場合、科目等履修生として当該授業科目の履修をすることができます。

本学に在籍中は科目等履修生として授業科目を履修することはできません。

詳細は、教務課へ問い合わせてください。

各種証明書

◆在籍時に発行できる証明書等の種類◆

以下の証明書等が発行できます。

(2019年4月1日時点)

証明書の種類	金額	発行方法	発行期間	備考
・ 在学証明書 ・ 成績証明書 ・ 健康診断証明書 ・ 履修科目証明書 ・ 卒業見込証明書	100円	証明書発行機から直接	即日	・ 健康診断証明書は当該年度に大学が実施する定期健康診断を受診した学生のみ発行可能です ・ 卒業見込証明書は4年次の4月1日以降に発行可能です
・ 学割 ・ 情報システム利用通知書	無料	証明書発行機から直接	即日	・ 発行枚数に上限があります
・ 兄弟等の授業料減免に係わる証明書	200円	証明書発行機で申込書を購入(学生支援課窓口へ提出)	1週間	
・ 奨学金受給証明書 ・ 奨学生推薦書	300円	証明書発行機で申込書を購入(学生支援課窓口へ提出)	1週間	・ 英文を希望する場合は国際課へ提出してください
・ 人物証明書	200円	証明書発行機で申込書を購入(所属学部教務課窓口へ提出) ※購入前に教務課窓口にお問い合わせください。	窓口にお問い合わせください。	・ 原則として大学所定用紙に卒論担当教員が必要事項を記入後、証明手続きを行います ・ 記入済み所定用紙を教務課窓口を持参してください
・ 在籍証明書	300円	証明書発行機で申込書を購入(所属学部教務課窓口へ提出)	即日	・ 休学中の学生のみ発行可能です
・ 英文在学証明書 ・ 英文卒業見込証明書 ・ 英文在籍証明書	500円	証明書発行機で申込書を購入(所属学部教務課窓口へ提出)	1週間	・ 英文卒業見込証明書は4年次の4月1日以降に発行可能となります ・ 英文在籍証明書は休学中の学生のみ発行可能です
・ 英文成績証明書 ・ 英文履修科目証明書	1,000円	証明書発行機で申込書を購入(所属学部教務課窓口へ提出)	1週間	
・ 学生証再発行 (通学定期乗車券発行用証明書含む)	2,000円	証明書発行機で申込書を購入(学生支援課窓口→所属学部教務課窓口の順に提出)	1週間	・ 申込キャンセルによる手数料の返金はしません
・ その他の証明書 (指定書式での証明書発行を含む)	300円	証明書発行機で申込書を購入	1週間	・ 必要な証明書については教務課または学生支援課に相談してください

※科目等履修生が和文の証明書を発行する場合は、一律300円がかかります。

英文証明書及びその他の申込等は上記のとおりです。

◆卒業後に発行できる証明書の種類◆

以下の証明書が発行できます。証明書の申し込み方法は郵送と窓口受取のどちらでも受け付けています。電話・FAXでの申し込みはできません。
 詳細は大学ホームページを確認してください。

●● 関連 HP <https://www.toyo.ac.jp/site/syoumeisyo/> ●●
 (各種証明書発行ページ)

(2019年4月1日時点)

証明書の種類	金額	発行方法	発行期間	備考
・卒業証明書 ・成績証明書	200円	< 窓口 > 証明書発行機で申込書を購入 (担当窓口へ提出)	即日	
・単位修得証明書 ・学力に関する証明書 ・社会福祉主事単位修得証明書	300円		1週間	
・人物証明書	200円	< 郵送 > ホームページで確認してください	即日	・在籍時に人物調査書を提出した者のみ発行可能です ・卒業後3年以内まで発行可能です
・英文卒業証明書	500円		1週間	
・英文成績証明書	1,000円		1週間	
・その他の証明書 (指定書式での証明書発行を含む)	300円	証明書発行機で申込書を購入	1週間	・必要な証明書については教務課または学生支援課に相談してください

※科目等履修生が和文の証明書を発行する場合は一律300円かかります。
 英文証明書は上記のとおりです。

◆証明書発行機◆

在学証明書や成績証明書、学割など、一部の証明書は証明書発行機より直接発行することができます。証明書発行機を使用する際には、学生証と、あらかじめ登録した暗証番号が必要となります。



- ・稼働時間は学生の長期休暇、大学祭などにより変更となる場合があります。
- ・稼働時間は掲示や大学ホームページなどでお知らせします。

証明書発行機設置場所	稼働時間
2号館1階	月～金 9:00～20:30
6号館1階	土 9:00～12:45
8号館4階	17:00～20:00 ※
	※ 6号館1階のみ稼働

納付金

定められた期間に納付金を納入しなければ、本学の学生として、在籍することはできません。指定された期間に必ず納入してください。

◆◆納付金額◆◆

「学費」と「その他の費用」を合わせて「納付金」と称します。2 年次以降は、入学金を除く納付金の納入が毎年度必要になります。納付金の内訳は以下のとおりです。

【2019 年度入学生】

(単位：円)

学 部	第 1 部							第 2 部・ イブニングコース	
	文・経済・経営・ 法・社会学部	文学部	社会学部			国際・ 国際観光 学部	全学部		
	(右記学科を除く)	教育学科 初等教育専攻	社会福祉学科	メディアコミュニ ケーション学科	社会心理学科				
納 付 金	学 費	入 学 金	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	180,000
		授 業 料	710,000	820,000	710,000	710,000	710,000	780,000	430,000
		一 般 施 設 設 備 資 金	220,000	250,000	220,000	220,000	220,000	220,000	100,000
		教育充実料	—	—	25,000	10,000	15,000	—	—
そ の 他 の 費 用	甫 水 会 費	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	—	
	学 生 課 外 活 動 育 成 会 費	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	
合 計		1,190,000	1,330,000	1,215,000	1,200,000	1,205,000	1,260,000	715,000	

◆◆納入期間◆◆

納付金は、4 月期（春学期納入期間）に 1 年間分を全額一括納入することが原則です。ただし、授業料・一般施設設備資金については次の二期に分けて納入することができます。

第 1 期（春学期）納入期間	4 月 1 日～ 4 月 25 日
第 2 期（秋学期）納入期間	10 月 1 日～ 10 月 15 日



各年度の曜日の関係により、納入期間が短縮される場合があります。

◆◆学籍異動における納付金の取扱◆◆

【休学】

学期始めに休学する場合は、納付金の納入期限までに休学許可願を教務課に提出してください。

＜第 1 期（春学期）の納入期限までに休学を願い出た場合＞

- ・ 休学日を 4 月 1 日付として扱い、納付金のうち、第 1 期（春学期）分の一般施設設備資金の半額とその他の費用を納入する必要があります。
- ・ 全額一括納入した場合は、第 1 期（春学期）分の授業料と一般施設設備資金の半額および第 2 期（秋学期）分の納付金を払い戻しいたします。

＜春学期中に休学する場合＞

- ・ 春学期の途中で休学する場合、第 1 期（春学期）の納付金は払い戻しをいたしません。
- ・ 全額一括納入した場合は、第 2 期（秋学期）分の納付金を払い戻しいたします。

＜第 2 期（秋学期）の納入期限までに休学を願い出た場合＞

- ・ 休学日を 10 月 1 日付として扱い、納付金のうち、第 2 期（秋学期）分の一般施設設備資金の半額とその他の費用を納入する必要があります。
- ・ 第 2 期（秋学期）分の納付金を納入した場合は、第 2 期（秋学期）分の授業料と一般施設設備資金の半額を払い戻しいたします。

＜秋学期中に休学する場合＞

秋学期の途中で休学する場合、第 2 期（秋学期）の納付金は払い戻しをいたしません。

＜2 セメスタ連続して休学する場合＞

連続休学する場合、次学期分の納付金のうち、一般施設設備資金の半額とその他の費用は納入しなければなりません。

【復学】

- ・ 休学者が復学する場合の納付金は、入学年度の額が適用されます。
- ・ 第 2 期（秋学期）に復学する場合は、復学時に 1 セメスタ（半期）分の納付金を納入することになります。
- ・ 1 セメスタ（半期）休学する場合、全額一括納入・分割納入の選択が可能な納入期は、第 1 期（春学期）とします。

【除籍】

所定の納期までに納付金を納入しない学生は、学則第 38 条 1 項により、除籍となります。

【退学】

修学の意思がない場合は、納付金の納入期限までに退学許可願を教務課に提出してください。

＜新学期の納入期限の末日までに退学を願い出た場合＞

退学日を前学期の末日付として扱い、当該年度・学期の納付金を納入する必要はありません。

＜春学期中に退学する場合＞

- ・ 春学期の途中で退学する場合は、第 1 期（春学期）分の納付金は払い戻しをいたしません。
- ・ 全額一括納入した場合は、第 2 期（秋学期）分の納付金は払い戻しいたします。

＜秋学期中に退学する場合＞

秋学期の途中で退学する場合は、第 2 期（秋学期）分の納付金は払い戻しをいたしません。

【再入学】

再入学する場合の納付金は、再入学する学年次の納付金を適用します。ただし、入学金は、再入学する年度の新生の半額となります。

【原級】

4 年次生で原級する場合の納付金は、当該年度正規 4 年次生の納付金を適用します。

【転部・転科】

納付金は転部・転科先の学年の納付金を適用します。ただし、入学金は、転部・転科先との不足分を納入することになります。

【編・転入学】

編・転入学する場合の納付金は、編・転入学する年度の新生の納付金を適用します。ただし、本学出身者が編入学する場合、入学金は、編入学する年度の新生の額の半額となります。

◆◆振込用紙の送付◆◆

- ・ 振込用紙の送付先は、保証人宛て（ただし、外国人留学生は本人宛て）となります。
- ・ 入学手続時（1年次）に分割納入した場合、2回目の納入に使用する振込用紙は9月末に郵送します。
- ・ 2年次以降は毎年3月末（全納用と分納1回目用）と9月末（分納2回目用）に振込用紙を郵送します。
- ・ 振込用紙の送付先を変更したい場合は、財務課にて手続きをしてください。

◆◆納入方法◆◆

- ・ 本学所定の振込用紙に従い、振り込んでください。大学窓口での受付および海外からの送金はできません。
- ・ 振込用紙を紛失した場合は、至急、財務課で再発行の手続きを行ってください。
- ・ 納付金に関する証明書の発行が必要な方は、財務課にて申請してください。
- ・ 納入された納付金は、超過納入が明らかな場合または学籍異動に伴い徴収の対象とならない場合を除き返還いたしません。

◆◆納入期間内に納入ができない場合◆◆

やむを得ない事情で納入期限までに納付金を納入できない場合は、**必ず納入期間内に**学生支援課に相談し、所定の手続きを行ってください。

2019年3月 印刷
2019年4月 発行

編集 発行 東洋大学国際観光学部

<http://www.toyo.ac.jp/academics/faculty/itm>
〒112-8606 東京都文京区白山5丁目28番20号

2019年度入学生 履修要覧 国際観光学部

学籍番号

【諸注意】

- この「履修要覧」は、2019年度入学生に適用されるものであり、2018年度以前の入学生には適用されません。
- この「履修要覧」は、卒業時まで使用します。再配付しませんので、大切に使用してください。講義内容に関しては、「シラバス（講義要項）」に掲載されています。
- 記載内容の変更等については、掲示にてお知らせいたします。